

令和元年7月18日

京都市教育長 在田正秀 様

京都市地区中学校教科書選定委員会

委員長 坪井 聡

令和2年度京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）
において使用する教科書の選定について（答申）

別紙のとおり答申します。

令和2年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

光村図書出版「国語」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

3領域1事項がバランスよく配列され、各教材に目標や段階的な学習過程が示されていることで生徒自身が付けたい力を意識した活動に取り組みやすく、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得や主体的な学習が図れている。また、学習のねらいに即した多様な言語活動の設定により、問題解決的な学習にも意欲的に取り組むことができている。さらに、国語科で身に付けた知識・技能を、他の教科等での学習や、様々な教育課題、実社会とのつながりの中で活用することを意識した授業展開が図りやすく、学習の基盤である言語能力の育成に有効に働いている。多様な古典作品が、現在との繋がりを意識して教材化されているため、生徒が実生活との関連性を意識しながら古典を楽しむことができるよう工夫されており、受け身でない意欲的な学びに有効に働いている。

(2)「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

教科書に示された丁寧で具体的な言語活動例や段階的な学習過程のままに学習活動を行いがちになり、授業者の創意工夫が生かし切れないという傾向がみられた。しかし、国語科で育成すべき資質・能力の明確化と、その育成を目指した授業改善に対する意識の高まりから、多様な言語活動例や「上達のポイント」として示されている例を活用することで、事例を参考にしつつも質の高い言語活動の展開が広がっている。また、様々な場面構成の工夫が、生徒自らが見通しを立てたり、学習過程を確認したり、自身に身に付いた力を振り返ったりするなど、主体的な学習につながっている。さらに、各教材での構成の工夫や巻末資料を用いた探究意欲を促す工夫により、生徒が自分の思いや考えを確かにしたり、広く深く考えることを目指す授業展開が図れている。

4 令和2年度使用教科書について

全体を通して、3領域1事項のバランスがとれた構成であり、教材と「話す・聞く」「書く」活動を関連付けることで学習の流れがわかりやすく、生徒の意欲や主体性の伸長が図られている。また、多様な言語活動例の効果的な配列や各単元に思考を伴う発問例が掲載されるなど、問題解決的な学習への展開が図りやすく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業構想に結びつきやすい。さらに、発表や話し合いの方法といった技能を生かした学習活動が具体的に示されていることで、国語科での学びの成果を他教科等の学習場面で活用できているとの実感をもつことができ、新学習指導要領で重視されているカリキュラム・マネジメントの先行実施にも適しており、国語科の目指す「正確に理解し、適切に表現する資質・能力」の育成に効果的である。そのため、令和2年度においても、現使用教科書である光村図書出版を継続して使用することが適切であると考えられる。

【国語科】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：光村図書出版>

1 国語科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各単元に関連した3領域1事項が豊富かつ調和的に配列され、基礎・基本を確実に習得できるよう工夫され、優れている。 ○教材ごとに目標を明示し、巻頭で領域別の教材一覧を掲載するなど、付けたい力と言語活動が特に明確に示されている。また、年間を見通した学習が段階的に理解できるよう工夫されている。 ○「読む」領域では、目標と学習過程を簡潔に示すとともに、具体的な活動例や段階的な活動過程が示され、主体的な学びを促す工夫が優れている。 ○文学的・説明的文章を読むための基本的な方法・用語が折り込み資料で掲載され、また、小学校6年生で学ぶ漢字の練習問題が設定されるなど、発展的な学習に加え、基礎の定着にも優れている。	○各単元に関連した3領域1事項が調和的に配列されるとともに、各教材に目標がわかりやすく示されており、生徒自身が学習のめあて（付けたい力）を意識した活動に取り組みやすく、基礎・基本の確実な習得が図れている。 ○「読む」領域と他の2領域とが関連付けて配列されるとともに、具体的な言語活動例や段階的な学習過程が示されることにより、生徒が主体的に学習に取り組みやすい。 ○「読むこと」の基本的な方法・用語が掲載されるとともに、工夫された漢字の反復練習などにより、基礎・基本の定着が図れている。
講評		■多様な言語活動例により、指導者が創意工夫できる要素がふんだんに取り込まれている。 また、生徒自身が学習のめあて（付けたい力）を意識化できるなど、新学習指導要領で重視される「資質・能力」を明確化しやすく、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に有効なものとなっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語能力の確実な定着を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○学習の用語を一覧に整理することで、活動に応じて思考・判断・表現を振り返る工夫がみられる。 ○単元ごとに新出漢字を抽出し、読みと熟語を配列するなど、確認しやすくすることで、その確実な定着を図っている。 ○語彙を広げるため、巻末に改めて学年の新出漢字表を掲載し、筆順や短文を付けることで、定着を図る工夫がなされている。	○一覧に整理された学習用語を活用することで、生徒自らが学びを振り返るとともに、国語科で身に付けた知識・技能を国語科以外の場面で活用するよう、学びのつながりを意識した構成で、思考力・判断力・表現力の育成に有効に働いている。 ○新出漢字を繰り返し提示したり、熟語例を豊富に掲載したりすることで、語彙の確実な獲得とともに、生徒自ら学びを深めることにつながっている。
講評		■巻末の一覧に整理された学習用語や新出漢字表は、語彙を理解するだけでなく、「話す」「書く」といった日常での活動において正しく言葉を使用するうえで有効に働いている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、3領域それぞれに言語活動が効果的に取り入れられ、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○単元ごとに学習の流れが明確に書かれており、生徒が見通しをもって学ぶ意欲を引き出す工夫がなされている。 ○小学校からの接続を意識し、中学校の学習に向けた準備が最初の単元で行えるよう工夫されている。 ○全体を通して、豊富な言語活動例が効果的に配されるとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材に、学習の見通しが図示されているため、生徒が学習の流れを理解しながら、問題解決的な学習に取り組みやすいなど、優れている。	○単元ごとに、学習のねらいに即した言語活動が設定されており、学習の達成感を生徒が実感することができている。 ○多様な言語活動例や「上達のポイント」として示されている例を活用することで、生徒自らがテーマを選択して、問題解決的な学習に取り組むことができている。 ○「学習の見通しをもとう」の項を活用することで、生徒自身が学習の道筋を確認することができるため、生徒の主体的な学びにつながっている。 ○言語活動の例が多様に示されており、問題解決的な学習への展開が図りやすく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業構想に結びつきやすい。
講評		■生徒自らが見通しを立てたり、学習過程を確認したり、自身に付いた力を振り返ったりする場面構成が工夫されており、生徒の主体性を引き出すことができている。

4 伝え合う力を高めるために、3領域1事項が調和的に取り扱われており、各教材で付けたい力が明確で、同時に古典等伝統的な言語文化に親しめるよう教材・単元が適切に設定されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「読む」単元に、「話す・聞く」「書く」活動が適切に関連付けられている。特に「書く」活動が充実しており、物語・説明文・韻文のバランスがよく、優れている。 ○古典の導入に、近代作家の作品や身近で親しみやすい古典作品を取り上げ、また、故事成語をもとに自分の体験に関連させて作文するなど、作品と自分自身を結び付けながら学習できるよう工夫されている。 ○いろは歌と百人一首、古典芸能と落語など様々な古典作品を系統的に現在とつなぐ教材設定によって、初歩的な知識でも無理なく古典を楽しめる工夫が優れている。 ○文語の韻文や日常に息づく古語を取り上げ、伝統的な言語文化に自然に親しめるよう工夫されている。	○3領域が適切に関連付けられることで、「読む」「話す・聞く」「書く」のバランス良く授業が進められている。特に、苦手意識をもつ生徒が多い「書く」活動が充実している。 ○多様な古典作品が、現在との繋がりを意識して教材化されているため、生徒が実生活との関連性を意識しながら古典を楽しむことができるよう工夫されており、受け身でない意欲的な学びに有効に働いている。
講評		■3領域1事項のバランスがよく、言語を手がかりに伝え合う力や思考力・表現力を偏りなく高めることができている。また、現代につながる系統的な教材配列の工夫により、生徒は親しみを持ちながら、古典作品や伝統的な言語文化の学習に取り組んでいる。

5 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各教材で、自分の考えを持つことが重視される構成であり、生徒の探究意欲を引き出す発問が工夫されるなど、優れている。 ○教材ごとの読書紹介とは別に、「読書案内」のページを設け、生徒の多様な興味・関心を視野に入れながら読書意欲の向上や読書習慣を根付かせるための工夫が優れている。 ○巻末に「学習を広げる」として、教材と関連した複数の読み物や資料を掲載することで、発展的な学習とともに、将来的に学び続ける態度や意欲を育むための工夫が優れている。	○知識の確かな定着とともに、思考を伴う発問例が各教材に効果的に配置されていることで、生徒自身の考えを引き出しやすいなど、主体的な活動につながられている。 ○教材ごとの読書案内や多様な書物の紹介により、広がりをもった読書指導・読書活動につながっている。また、読書意欲を図書館活用に結び付けることにより、主体的な学びのきっかけとなっている。 ○巻末において、自主的・発展的な学習につなげる新たな読物資料などを豊富に掲載することで、学び続ける意欲の向上が図れている。
講評		■各教材での構成の工夫や巻末資料を用いた探究意欲を促す工夫により、生徒が自分の思いや考えを確かにしたり、広く深く考えることを目指す授業展開が図れている。

6 単元構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「読む」単元も「話す・聞く」「書く」活動へと系統性を持たせた学習内容であるとともに、他教科と関連付けやすい内容が示されており、活動の整合性を付けやすいなど優れている。 ○発表や話し合いの方法、作文の書き方などが、単元に関連付けながら総合的な学習の時間や美術科や音楽科などの他教科に生かせるよう明示され、優れている。 ○四季の名歌・名句の紹介、社説の比較、職場体験など、環境教育や情報教育、生き方探究（キャリア）教育に関する教材が多彩に取り上げられるとともに、全学年で、社説の比較や報道活動等が題材に取り上げられ、メディアリテラシーへの関心を高める工夫がされるなど、教育課題との関連への配慮が優れている。	○多様な教材が取り入れられることで、身近な課題や最近の課題についてイメージしやすく、実社会との繋がりを重視した授業構想に有効なものとなっている。 ○発表や話し合いの方法といった技能を生かした学習活動が具体的に示されていることで、生徒自身が国語科での学びの成果を生かしているとの実感を伴いながら、他教科等に取り組めている。 ○他教科等との関連や様々な教育課題に関する多様な教材を活用して、社会や地域における課題への関心を高め、その解決に向けた意欲の育成につながられている。
講評		■国語科で身に付けた知識・技能を、他の教科等での学習や、様々な教育課題、実社会とのつながりの中で活用することを意識した授業展開が図りやすく、国語科の学びをあらゆる場面で生かそうとする授業改善につながっており、生徒の主体的に学ぶ姿勢を育むことができています。

7 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○人間・社会・世界へ思いを巡らせられるような教材が、多彩に全学年で複数取り上げられ、充実している。 ○被災地を取り上げた作品等に関わる考察・表現活動を設定し、多様性を認め、尊重する姿勢と、社会の変容に対応する態度を育むための配慮が優れている。	○国内の被災地や世界の紛争地を取り上げた教材を活用することで、「自分の考えをもつ、伝え合う」という学びを通して、生徒の視野を広げ、世界や社会への関心を高めている。 ○人間・社会・世界へ思いを巡らせる教材により、生徒が自らの思考の広がりを実感しながら、多様性を尊重することの大切さ、社会の変容に対する関心、道徳的な心情等を育てている。
講評		■基本的人権や道徳的实践力を育成する観点で教材が配列されていることで、豊かな感性や思いやりを育むとともに、よりよく生きることを意味を考える教材を通して、生徒が自分の考えに思いを巡らせることにつながっている。

8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○紙面の構成や文字の色、大きさも見やすく、最終ページの色合いに関する学習内容は、デザインの観点からも日常に生かせるものである。 ○傍線の色を区別をしている箇所も同時に線種を変え、色の識別が難しい場合への配慮も見られるなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。 ○「交流」には顔の図を示すなど、随所に挿絵や図を用い、支援が必要な生徒の文章理解や指示理解に役立つ。 ○環境に配慮した紙・植物油インキを使用するとともに、造本も堅牢である。	○傍線、挿絵、図などは、色による識別のみに頼ることなく、形による区別や濃淡で識別できる工夫が随所にみられ、配慮の必要な生徒にとって教材に接続しやすく、また、学習に向かうきっかけとなっている。 ○「学習の見通しをもとう」として学習活動の冒頭に活動の流れを図示するなど、障害の有無に関わらず、すべての生徒にとって学習の流れや見通しをもてるような工夫が学習への理解を助けている。
講評		■写真や図版などの視覚的な工夫がされていることで、生徒が具体的なイメージや学習のポイントを意識して学習を進めることができている。

令和2年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

光村図書出版 国語科「中学書写」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

活動の場面に応じて必要な写真や擬態語を用いた説明がわかりやすく、書く姿勢、筆の持ち方・構え方、用具の扱い方などを生徒が感覚的に捉えやすい。書体の特徴が詳細に説明されていることや、文字の特徴や書き方のポイントを生徒自らが発見する活動が設けられていることで、生徒が文字や書体の比較・観察を通して、文字の特徴を主体的に考えながら、取り組むことができている。また、毛筆を硬筆の基礎と捉え、その関連性が明確に示されるとともに、目的や必要に応じて書体を選択する活動など、生徒が主体的に取り組める授業が実践されている。さらに、日常生活や学校生活でよく使われる多様な書式例が紹介されることで、社会生活において必要な書写の能力を育てる授業が展開されているとともに、書写で習得した知識及び技能を他教科等で効果的に生かす方法が紹介されていることで、自らの考えを表現する「書く」活動の充実が図られている。

(2)「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

必要な学習事項はすべて網羅されコンパクトにまとめられており、実習の際に生徒にとって取り扱いやすいものであるものの、他教科等での活用例は豊富であるとまでは言いがたい面がある。しかし、全体を通して書写で身に付けた知識及び技能を日常生活や学校生活に役立てるように配慮されていることや、生徒の意欲や主体性を育む構成の工夫により、各校における創意工夫ある学習活動の展開につながっている。また、国語科の教科書からの手本の引用は豊富で、国語科での学習内容と関連付けた授業も数多く実践されている。

4 令和2年度使用教科書について

毛筆で学習した内容を硬筆で繰り返し練習できるよう工夫され、国語の教科書からの手本の引用も豊富で実用的な内容である。また、視覚的な工夫が豊富で、生徒が具体的なイメージをもって主体的に学習に取り組むことができるように構成されている。さらに、書写で習得した知識・技能を、国語科はもとより他教科等や日常生活・学校生活でも効果的に生かす方法が多岐にわたりコンパクトに紹介されているとともに、文字や書体の比較・観察を通した話し合い活動等の言語活動は、主体的、対話的な学びにつながっており、新学習指導要領の趣旨にも沿ったものである。そのため、令和2年度においても、現使用教科書である光村図書出版を継続して使用することが適切であると考ええる。

【国語科（書写）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：光村図書出版>

1 書写の指導の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の定着を図る工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○書く姿勢、筆の持ち方、用具の置き方や片付け方など、活動の場面に応じて必要な作法が写真で示されるなど、円滑な学習に向けた配慮が充実している。 ○筆使いの基本が「右払い」「反り」といった用語とともに朱墨で示され、筆圧を数字で示し、「スー」「トン」といった擬態語を用いることで、生徒が感覚的に理解しやすい説明になっており、優れている。 ○書体の特徴について詳しく説明され、筆使いや運筆についても、その違いがわかりやすい言葉を用いて説明され、基礎・基本を理解した上で、毛筆でも硬筆でも繰り返し練習できるよう工夫され、優れている。 ○文字全体の筆の通り道を朱墨で表現していることで、筆先の向きや力の入れ具合のイメージを視覚的に持たせてから書けるよう工夫されている。	○筆使いの基本がわかりやすい言葉や擬態語、数字で示されており、生徒にとって感覚的に捉えやすい。また、書体の特徴が詳細に説明されていることで、生徒が文字の特徴を考え、考えた特徴を生かして、主体的に書くという活動につながっている。 ○学習の目標を確認し、文字や書体の特徴を理解したうえで、繰り返し書いて確かめ、自己評価するという構成となっていることで、書写の基礎・基本の定着に有効に働いている。
講評		■写真や擬態語等を用いた書体の説明が、生徒にとって視覚的なイメージを膨らませ、自分で考えて書くという姿勢を育むものとなっている。

2 書写の学習内容が系統立てて取り上げられ、国語の指導とも関連させた配列であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○楷書や行書の学習で、書体の学習に加え、それぞれに仮名との調和を目指し、毛筆から硬筆、大筆から小筆、熟語から文章へと生徒の定着の段階を想定して、学習活動が系統的に設定されており、優れている。 ○仮名文字の成り立ちや字形を学ぶとともに、日常の書字や文字文化につながる学習展開が工夫されている。 ○国語の教科書の作品や文章から、現代文・古典を問わず、硬筆手本を積極的に引用し、国語の授業と関連する教材が豊富で、書写の時間に限らず柔軟な書字指導ができるよう工夫され、優れている。	○書写における生徒の定着段階を見通した系統的な学習活動の設定に加え、国語の教科書と関連する教材を豊富に用いることで、生徒にとって学びのつながりを実感しやすくなっている。 また、国語と書写を関連付けた指導を行うことで教育効果が高まっている。 ○日常の文字と伝統的な文字文化とを関連させた授業が、生徒の文字や書写に対する興味・関心を高めている。
講評		■毛筆から硬筆など系統的な学習活動が構成され、書写に対する生徒の興味・関心や目的意識に加え、言葉で理解したり表現したりする言語感覚を豊かにすることにつながっている。

3 生徒の創造的な能力や主体的な学習を促す工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解，課題等
特徴	○日常で活用できる作品例や学習した内容を生かして記念品を作る題材が盛り込まれており，書字学習を生活に応用する流れが明確に示されている。 ○各単元に目標と振り返り，学習のポイントや注意点が簡潔にまとめられており，活動しながらその都度ポイントが確認できるよう工夫されている。	○各単元に目標と振り返りや学習のポイントが明示されていることで，生徒が目標をもって活動に取り組み，自身の学びを振り返ることができている。 ○文字や書体を比較・観察するなどの言語活動が展開しやすく，文字の特徴や書き方のポイントについて生徒自らが発見する活動につながっている。
講評		■生徒が目標や見通しをもって主体的に学習活動に取り組み，振り返ることに加え，文字や書体を通した話し合い活動など言語活動の充実につながっている。

4 毛筆の学習の成果が硬筆の学習に生かされるように，教材内容や構成が工夫されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解，課題等
特徴	○毛筆の学習を行った後，その学習内容に関連した硬筆練習のページが設定されており，学習の定着が図られている。	○毛筆で学習した内容を硬筆で繰り返し練習できるよう構成されており，生徒が主体的に取り組むとともに，効率的で実用的な学びが実現できている。
講評		■毛筆を硬筆の基礎と捉え，その関連性が明確に示されるとともに，目的や必要に応じて書体を選択する活動など，生徒が主体的に取り組める授業が実践されている。

5 書写の能力を生活に役立てることができるよう配慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○手紙、送り状、願書、のし袋、原稿用紙、ポスター、レポート、グラフなど多様な書式例が資料編に豊富に紹介され、生徒の実態に即した活用例が工夫されている。	○日常生活や学校生活でよく使われる多様な書式例が紹介されることで、社会生活において必要な書写の能力を培う授業が展開されている。
講評		■社会生活で活用する書式例を活用した学習により、話し言葉と書き言葉を適切に使い分けるなど、生徒が書写の有用性を実感することにつながっている。

6 他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○横書きの行の整え方、カタカナの筆使い、アルファベットの書き方、また速く書くときの文字の許容についても示してあり、他教科等の学習に役立てる工夫がされている。 ○歴史的な書など高等学校書道の内容をわかりやすく紹介し、生徒の関心を高める配慮がされている。 ○チャレンジ体験のお礼状、壁新聞、ポスターなどの豊富な例が示され、生き方探究（キャリア）教育等へのつながりが工夫されている。	○文字の書き方や筆使いについての多様な具体例に加え、書写で習得した知識・技能を他教科等で効果的に生かす方法が紹介されていることで、自らの考えを表現する「書く」活動の充実が図られている。
講評		■各教科等との関連を図ることのできる教材が取り入れられており、他教科等における言語活動の指導に生かすことができている。

7 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○手紙で敬意を示すための頭語や結語の紹介をするなど、作品例によって相手を思いやる配慮がされている。 ○「地球」「輝ける未来へ」といった自然、希望といった道徳的な文字や作品が例として示される。	○手紙の教材等を通して、日本特有の相手への配慮や思いやりの心を理解することにつながっている。
講評		■生徒の豊かな感性や思いやりの心を育てる教材や学習活動を通して、生徒の人権意識や道德性を育む授業につながっている。

8 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○ユニバーサルデザインを考慮し、多くの色を使用しないことで、見やすい紙面となっており、色の識別が難しい生徒や支援の必要な生徒への配慮が優れている。 ○基本の書き方で筆の通り道を朱墨で表した手本が掲載されているほか、イラストや吹き出しを豊富に取り入れることで、文章理解や指示理解に役立てる配慮がみられるなどの工夫がなされている。 ○環境に配慮した紙・植物油インキを使用するとともに、造本も丈夫である。	○イラストや吹き出しが取り入れられた手本の掲載が、支援の必要な生徒の理解や活動に有効で、前向きに学習に取り組むための配慮につながっている。
講評		■ユニバーサルデザインの配慮が行き届いており、生徒が落ち着いて学びに向かうことができている。また、支援の必要な生徒にとっても理解を助ける配慮が、意欲的に取り組む助けとなっている。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

各見開きにおいて、学習の導入として生徒の興味・関心をひく豊富な資料と「学習のめあて・課題」が示され、生徒自らが課題意識をもって学習に取り組んでいる。また、振り返り活動が学習内容を確認する「確認しよう」及び知識を整理して言語活動を促す「説明しよう」の２段階で構成されているため、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、自ら考察し表現するなどの主体的・対話的な学習の充実につながっている。さらに、世界や日本の諸地域に関する単元のまとめでは、それぞれの地域的な特色について、学習した内容をもとに表にまとめたり、図に整理したり、様々な形で自分の言葉で表現したりすることで、思考力・判断力・表現力等の育成にも有効に働いている。日本の地域的課題である自然災害や防災に対する意識や理解を高める記述等が充実しており、生徒の我が国の国土等に関する地理的認識の育成につながっている。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

社会的事象に対する興味・関心を高める写真や図版が豊富で、学習課題の解決に必要な情報として活用することができ、意欲的な学びにつなげやすい。単元ごとに、社会的な課題や変化に対する課題解決への取組例が紹介されているとともに、我が国の伝統と文化、過去と現代の関わり、未来への継続を身近に捉えられる題材が豊富で、それらを自分ごととして考える指導の充実につながっている。また、京都市の文化・産業等の事例を通して、生徒が郷土・京都市の都市特性を学ぶ機会となっている。

4 令和２年度使用教科書について

系統立てられた単元構成や見開きの構成、豊富な写真や図版等により、我が国の国土や世界の諸地域に関する地理的認識の資質・能力を育成するうえで、内容や時間のまとまりを見通した単元・授業構想が行いやすく、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得が図られている。また、多彩な言語活動により、思考力・判断力・表現力の育成にも効果的であり、さらに学習したことを生かした具体的な学習活動の提案を通じて、スパイラルな探究学習や発展的な学習に取り組めるよう工夫されており、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に有効である。そのため、令和２年度においても、現教科書である帝国書院を継続して使用することが適切であると考ええる。

【社会科（地理的分野）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：帝国書院>

1 社会科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各時間に、学習課題が明示され、また定着の確認欄を設け、基礎的・基本的な知識を繰り返し確認できるよう工夫されている。 ○「学習を振り返ろう」として、地図を利用しながら、もう一度テーマに沿った形で既習内容を整理できるよう配慮されている。 ○地理的分野での重要な用語を説明した「解説」が、必要に応じて設けられるなど工夫がなされている。 ○振り返りについて、基礎的・基本的な知識の習得と言語活動を伴う内容の習得が、2段階に分けて設定されるとともに、世界の諸地域における各州のまとめや、日本の諸地域における各地方のまとめに関する内容が充実している。	○各時間に学習課題が明示されることにより、生徒は見通しを持って学習に取り組みやすく、また、学習内容を確認する「確認しよう」に取り組むことで、基礎的・基本的な知識・技能の自発的な習得が促されている。 ○学習内容の確認だけでなく、習得した内容を活用した言語活動を通した振り返り活動が各時間に設定されており、主体的・対話的な学習活動が促されるとともに、習得した知識の確実な定着につなげることができている。 ○「学習を振り返ろう」では、単元ごとにテーマ（主題）に沿って、学習内容を整理することができるよう工夫されており、基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得するうえで有効に働いている。
講評		■学習課題に応じて設定されている2段階の振り返り活動において、基礎的・基本的な知識・技能等の習得場面と言語活動を通じて習得した内容を活用していく場面や問いを効果的に取り入れていくことで、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○見開きごとに学習課題と習得事項の明示に加え、習得した内容を活用して思考し、自ら判断し、表現するための問いが設けられるなど、言語活動の充実を図るための工夫が優れている。 ○「表でまとめる」、「説明する」、「書き出してみる」、「図にまとめる」など、言語活動を毎時間繰り返し行えるよう配慮されている。 ○世界や日本の諸地域に関する単元学習のまとめにおいて、学習した内容を自分の言葉でまとめたり、様々な形式で表現したりするよう工夫されるとともに、世界の諸地域の各州のまとめでは、課題に対する記入欄が設けられるなど、言語活動の充実のための工夫が優れている。	○題材の問いや単元のまとめにおいて、習得した知識を整理し、学習した内容をもとに表にまとめたり、図に整理したり、様々な形で自分の言葉で表現したり、また、説明したりするなどの言語活動を繰り返し行うことで、各単元の地域的特色を捉えるとともに、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。
講評		■見開きごとに設定された2段階の振り返りや各単元に設定されたまとめ活動が効果的に配列されており、毎時間・毎単元を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図ることにつながっている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、社会的事象に対して興味・関心を高める工夫がみられ、観察・調査・体験等の活動やそれに基づく問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○日本の諸地域を学ぶうえで、核となる学習項目が明確に記載され、生徒が社会的事象に対して興味・関心を高められるよう工夫されている。 ○日本の諸地域の調査において、京都市の伝統産業・地場産業・先端産業を取り上げることで、生徒が身近な社会的事象に対して興味・関心を高める工夫がなされている。 ○世界の諸地域の調査で、「技能をみがく」を設け、観察・調査・体験等の活動やそれに基づく問題解決的な学習活動が展開しやすいよう工夫されている。	○京都市の様々な産業とともに、学習課題の解決に必要な情報として写真や図版を活用することができるよう構成が工夫されており、生徒の社会的事象に対する興味・関心の向上と意欲的な学びにつながっている。 ○観察・調査・体験等の活動やそれに基づく問題解決的な学習活動に必要な技能を身に付けるためのコラムが充実しており、生徒にとっても指導者にとっても使いやすい。
講評		■写真、図版、コラムが社会的事象に対する生徒の興味・関心を高めるとともに、問題解決的な学習の授業展開を工夫するうえで有効に働いている。

4 公共の精神、社会参画、伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛すること、宗教及び社会の変化に対応した内容の取り扱いについて配慮されているとともに、全体の分量が適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「羅針盤」マークを各所に設け、現代および将来の社会が直面する課題を取り上げ、公共の精神や社会参画への意識を高める工夫がなされている。 ○日本の諸地域の単元を中心に、日本の伝統と文化の事例を豊富に取り上げるとともに、京都や奈良の文化財・歴史的景観に関する記述や、京都市の伝統的な地場産業から先端技術産業まで、具体例を踏まえて紹介されるなど、記述が充実している。 ○日本の伝統と文化の事例を豊富に取り上げるとともに、巻頭3ページにわたり「世界に広がる日本の文化と技術」「日本の中で進む国際化」として、柔道、回転寿司、アニメ、カラオケなどを幅広く取り上げ、また、外国人旅行者・留学生・ボランティアの姿を紹介するなど、日本で育まれた伝統文化が世界で広く受けとめられている現状を理解し、それを尊重するとともに、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう記載が充実している。 ○世界3大宗教とヒンドゥー教について詳しく記述するとともに、東京にあるモスクでイスラム教徒の女子学生と日本の女子学生との交流の姿を紹介するなど、宗教に関する理解を図るよう工夫されている。 ○領土について、北方領土・竹島・尖閣諸島が写真入りで詳しく記述されている。	○コラム「羅針盤マーク」が各単元に散りばめられており、各単元において「共生」「環境」「防災」の3テーマのもと、日本の諸地域を取り巻く動向や課題が取り上げられており、公共の精神や社会参画への意識を高めることにつながっている。 ○巻頭ページや日本の諸地域の単元において、日本の伝統と文化の事例が豊富に取り上げられ、生徒の伝統や文化に対する関心を高め、それを将来へ継承することの大切さなどについての理解を深めることにつながっている。 ○京都市の歴史的景観の保全や伝統的な地場産業から先端技術産業に関する事例が取り上げられており、各校において郷土の伝統と文化を尊重していくことの大切さとその課題について考える学習が実感を伴って進められている。 ○北方領土・竹島・尖閣諸島が写真入りで詳しく記述されており、我が国の領土と主権についての知識および関心の向上とともに、我が国の主張について理解を深めるうえで有効に働いている。
講評		■単元ごとに、社会的な課題や変化に対する課題解決への取組例が紹介されているとともに、我が国の伝統と文化、過去と現代の関わり、未来への継続を身近に捉えられる題材が豊富で、それらを自分ごととして考える指導が進めやすい。また、京都市の文化・産業等の事例を通して、生徒が郷土・京都市の都市特性を学ぶ機会となっている。

5 広い視野をもち、異文化を理解し尊重する態度や、異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図るための工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○特設ページ「多文化の共生をめざしたまちづくり～群馬県大泉町を例に～」で、各都道府県における1万人あたりの外国人数を取り上げ、留学や仕事のために日本に住む人々の増加と、異なる文化をもつ人々とともに生活するための取組を紹介するなど、多文化共生の資質を育成するための工夫が優れている。 ○「羅針盤」で、「二つの公用語があるカナダ」、「ブラジルにわたった日本人」など、諸外国での多文化共生の取組事例が紹介されている。	○「多文化の共生をめざしたまちづくり」の特設コーナーや「共生」をテーマとしたコラムを通して、近年増加している日本に住む外国人との共生を目指した取組事例に触れることで、多様性を尊重し、異なる文化をもった人々と共生していくことの大切さの理解を深めることができている。
講評		■世界や日本の様々な地域の学習を通して、多様な生活環境や生活文化の存在を理解し、多文化共生社会への理解を深め、その実現に向けた行動や生き方の基盤となる資質・能力の育成につながっている。

6 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って、それぞれの地域的特色や課題を考察・理解させ、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養うための工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○世界の諸地域の学習で資料集にも匹敵するほどの写真や図版が豊富に掲載し、日本の諸地域の学習では、地図を効果的に用いることで考察や理解をより深められるよう工夫されている。 ○世界・日本の諸地域の各単元の冒頭で、生徒になじみのある有名な観光地や地域の文化、産業等の写真を大きく掲載することで、興味・関心を高める工夫がなされている。 ○東日本大震災をはじめ防災教育や震災の経験を生かした神戸の町づくり、陸前高田市の取組など、日本で起こる自然災害や防災に取り組む公的機関や民間の取組等を本文やコラムで丁寧に記述するとともに、「トライアル地理」ではハザードマップの活用を紹介し、防災を自ら考え行動する態度を促すなど、生徒の防災に対する意識・理解を深める工夫が優れている。 ○清水寺、天橋立、琵琶湖疏水と水力発電、京都の文化財と世界遺産、清水焼・西陣織などの伝統工芸、地場産業から先端技術産業などが豊富に取り上げられ、京都の地理に関する理解を深めるための工夫が充実している。	○日本や世界の各地域学習の冒頭に、生徒になじみのある有名な観光地や地域の文化・産業などに関する写真等が多彩に掲載されており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むとともに、地域の特色を理解するにも有効なものとなっている。 ○日本の自然災害や防災に対する公的機関や民間企業等の取組に関する本文やコラムとともに、ハザードマップを活用した事例紹介等により、生徒の防災に関する意識・理解を深めるだけでなく、防災を自分ごととして考え、行動する態度を促すことにつながっている。 ○新学習指導要領では、地理的分野において「日本の様々な地域の学習における防災学習」が重視されており、その実現につながる資料や教材が豊富である。
講評		■日本の地理的事象に対する関心を高めるための写真等が豊富で、生徒の地域的特色の理解にも役立っている。また、日本の地域的課題である自然災害や防災に対する意識や理解を高める記述等が充実しており、生徒の我が国の国土等に関する地理的認識の育成につながっている。

7 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各所に振り返りページが設けられているほか、「学習を振り返ろう」ページでは、「探究しよう」と探究活動を促すとともに、地理的な見方・考え方を養うための特設コーナー「トライアル地理」が設定されるなど、探究学習や発展的な学習を促す工夫が充実している。 ○特設ページ「地域を探ろう」で、具体的な6テーマを掲げ、学習したことについて具体例を通じて、さらに発展的に取り組めるよう工夫され、優れている。	○各単元のまとめ「探究しよう」の項目を通して、探究活動への学習が促されており、また、特設コーナー「トライアル地理」「地域を探ろう」と関連付けることで、スパイラルな探究学習や発展的な学習につなげることができている。
講評		■学習したことを生かした具体的な学習活動を提案することを通じて、生徒が意欲的に取り組めるよう工夫されているため、スパイラルな探究学習や発展的な学習につながっている。

8 単元構成の系統性・発展性や各分野の関連性及び他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○世界・日本の諸地域の学習のはじめに、「導入写真ページ」をおいた構成とするなど、学習の系統性がわかりやすくなるよう工夫されている。 ○各所に「やってみよう」を設け、小学校で学習した内容の確認や技能に関する具体的な作業を通して、知識や技能を身に付けられるよう工夫されている。 ○「羅針盤マーク」のコラムが各所にあり、共生・環境・防災をテーマに各分野や他教科、また、環境教育等の教育課題との関連について配慮されている。 ○「声」欄において、様々な仕事の内容や働きがいなどが紹介され、生き方探究（キャリア）教育との関連に配慮されている。	○学習の導入として、まず生徒の興味・関心をひく資料を掲載し、そこから基礎的・基本的な知識・技能を習得するための学習活動につなげるという構成により、生徒が意欲的に地域への関心・理解を高めやすい授業展開が可能となっている。 ○共生・環境・防災・キャリアをテーマに現代的な教育課題が取り上げ、それらをもとに他教科や総合的な学習の時間等を関連付けた教科横断的な授業が展開されている。
講評		■単元構成や見開き構成、また他教科等や現代的な教育課題との関連付けなどの工夫により、教科横断的な学びが展開しやすく、カリキュラム・マネジメントを意識化した各校における実践につながっている。

9 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○コリアタウンや在日韓国・朝鮮人の人権に関する記述を含め、多様な内容が取り上げられており、人権教育推進へ向けた配慮が随所になされている。 ○インドのカースト制度や、南アフリカ共和国のアパルトヘイト、奴隷制度等について取り上げ、人権教育の推進に向けた工夫がなされている。 ○東日本大震災を踏まえ、地震への備えと復興へ向けた取組の資料等、生命の尊重の視点から、道德教育との関連が図られている。	○世界の諸地域において、カースト制度やアパルトヘイト、奴隷制度などが取り上げられており、差別の不合理性に気づき、人権尊重に対する考えを深める機会となっている。 ○共生をテーマにしたコラムをはじめ、日本と朝鮮半島との歴史的な結び付きを示すコラムなどを通して、人権尊重や共生の視点をもつことにつながっている。 ○阪神大震災や東日本大震災を扱ったコラムを通して、生命の尊重の視点等から生徒自身が考える授業が展開されている。
講評		■人権教育の推進につながる題材が多様に取り上げられており、各校において人権教育や道德教育との関連を図りながら、生徒自身が考え、議論する指導が促されている。

10 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○見開きによるデザインやグラフ・地図等の資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使用し、カラーユニバーサルデザインに配慮されるとともに、極力模様などを入れず、配色のみで区別できるよう工夫されるなど、支援が必要な生徒をはじめ、すべての生徒に読み取りやすいよう優れている。 ○本文等は、ユニバーサルフォントを採用している。 ○本文を補足する資料表が豊富で、参照資料の図番号とリンクできるよう工夫がなされている。 ○右側ページにカラーインデックスが付され、どこかの学習をしているのかわかりやすくする工夫が優れている。 ○再生紙とライスインクを使用し、造本も丈夫である。	○本文を補足する資料等が豊富で、本文と資料が番号で関連付けられるよう工夫されているため、生徒にとって使いやすく、学習しやすいものとなっている。 ○グラフ・地図等の資料において、カラーユニバーサルデザインに配慮され、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色の使用や、配色のみで区別できるように工夫されるなど、支援が必要な生徒をはじめ、すべての生徒にとって読み取りやすい。
講評		■本文と各資料との関連付けやカラーユニバーサルデザインの使用など、支援が必要な生徒をはじめ、すべての生徒にとって大変使いやすい。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

日本文教出版「中学社会 歴史的分野」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

各時間に掲載される写真や資料、歴史を学ぶ意味や意義を示唆するなどの工夫された設問等が、歴史的事象に対する興味・関心を高めるとともに、各時間の末尾に設定された学習のまとめのわかりやすい指示が生徒の主体的な学びにつながっている。また、各時間に何を学ぶのかが「学習課題」として明確に示され、その学習課題に対応した「確認」と「活用」の２段階の振り返り活動と、その内容を自分の言葉で説明する言語活動が、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得につながっている。さらに、「言語活動コーナー」とともに「時代の転換のようす」や「時代の特色」について考察し、自分の言葉で表現する学習活動が効果的に配置されており、各時代の変化の特徴を多面的に捉え、段階的に自分の考えを思考し、表現する発展的な活動が、思考力・判断力・表現力の育成に有効に働いている。身近な地域の歴史を調べる具体的な学習活動が示されることで、伝統文化と現代の生活とのつながりを意識しながら、その継承・発展の大切さについての理解を深め、我が国と郷土を愛する態度を養うための学習活動の充実につながっている。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

第１編「歴史のとらえ方」や各編の導入において、小学校での既習人物や文化遺産を再確認させながら、生徒の関心を高め、中学校の歴史学習にスムーズに移行することができている。特設ページにおいて、環境、平和・生命の尊さ、伝統と文化などを題材とした内容が多く取り上げられており、環境教育や道徳科との関連を意識した授業の展開につながっている。各単元の特設ページでは、身近な地域の歴史を調べる具体的な学習活動が提示されるなど、段階的に探究意欲を高め、発展的な学習につなげる工夫がされているが、選択課題であるため、十分活用しきれていない面がある。しかしながら、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の意識向上により、長期休業期間の歴史を調べる課題を通して、例示された歴史の調べ方・学び方をもとにした探究的な学習が展開されつつある。

4 令和２年度使用教科書について

学習の導入にあたって歴史的事象に対する興味・関心を喚起するための工夫が効果的であるとともに、主体的に学びを進めていくための学習視点が具体的・的確に示されていることで、問題解決的な学習が充実している。また、新学習指導要領が改訂の要点としている「歴史について考察する力や説明する力の一層の充実」を図るために、学習したことを活用しながら、「時代の転換のようす」や「時代の特色」について考え、判断し、自分の言葉で表現することを促す学習活動が各時代に配置されている。さらに、我が国の伝統と文化について理解を深めることができる特設コーナーが充実しており、新学習指導要領が改訂の要点として挙げる「様々な伝統や文化の学習内容の充実」に向け、十分な活用ができると考える。そのため、令和２年度においても、現教科書である日本文教出版を継続して使用することが適切であると考ええる。

【社会科（歴史的分野）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：日本文教出版>

1 社会科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各時間や各章のまとめでは、課題が提示され、基本的な学習内容の確認と活用という学習の流れを意識した構成になっており、学習の見通しが立てやすく、基礎・基本の確実な習得を図るための工夫がなされている。 ○各時間のまとめが、学習の「確認」と「活用」の2段階で設定され、習熟度に応じて取り組めるよう工夫され、優れている。 ○「基本用語」を随所に配置し、振り返りやまとめに役立つ用語の解説がなされている。	○各時間で何を学ぶのかが「学習課題」として明確に示されており、その学習課題に対応した「学習の確認」に取り組むことで、基礎的・基本的な知識・技能等の習得につながっている。 ○各時間の振り返り学習が「確認」「活用」の2段階に分けて設定されており、習得した内容を自分の言葉で説明するという言語活動を通して、学習内容の確実な定着につなげることができている。 ○生徒の自主学習や振り返り学習において、歴史の理解に役立つ「基本用語」が、有効に活用されている。
講評		■各時間に設定された学習課題の明示と、それに対して2段階で振り返る言語活動が効果的に設定されていることにより、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各時代に図版特集を設け、資料活用を促すとともに、時代の転換をとらえる資料が豊富に掲載され、その特徴を考えられるよう工夫されている。 ○図版の内容について、読み取る・考える・伝えるための「言語活動コーナー」を随所に配置し、思考・判断・表現する活動の充実を図っており、優れている。 ○各時間での言語活動に加え、「言語活動」コーナーが各所に配し、また、具体的な各時代の転換について考察し伝え合う課題設定や、各時代の特色について考える課題を設定するなど、多様な学習課題による言語活動が充実しており、優れている。	○各時代・各時間に、学習内容をもとにして自分の考えを説明する問いが提示されており、自ら考察して表現する力の育成につながっている。 ○随所に配置された「言語活動コーナー」を活用することで、図版の内容を読み取り、考え、伝えるための活動が充実しており、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。 ○学習したことを活用しながら、「時代の転換のようす」や「時代の特色」について考え、判断し、自分の言葉で表現する学習活動が各時代に設定されており、歴史について考察する力や説明する力の育成につなげることができている。
講評		■「言語活動コーナー」とともに、「時代の転換のようす」「時代の特色」など、言語活動を中核とした学習活動が効果的に配置されており、思考力・判断力・表現力の育成に有効に働いている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、社会的事象に対して興味・関心を高める工夫がみられ、観察・調査・体験等の活動やそれに基づく問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○学習内容に関連する写真等を豊富に掲載し、また、各単元の写真や資料も多く効果的に配置されるなど、生徒の関心・意欲を高めるための工夫が優れている。 ○各学習の冒頭に学習のねらいが明確に示されており、末尾には学習のまとめが指示されるなど、生徒の自主的な学習につながるよう工夫されている。 ○身近な地域の歴史を調べる具体的な学習活動が示され、歴史の調べ方、学び方が習得でき、問題解決的な学習がしやすいよう工夫されている。	○各時間の冒頭に掲載された写真や資料、歴史を学ぶ意味や意義を示唆するなどの工夫された設問等が、歴史的事象に対する興味・関心を高めるとともに、各時間の末尾に設定された学習のまとめのわかりやすい指示が生徒の主体的な学びにつながっている。 ○身近な地域の歴史を調べるという具体的な学習課題の提示とそのため必要となる歴史の調べ方・学び方に関する学習を通して、地域の歴史に対する興味・関心を高め、地域を大切にする態度を育む学習活動を問題解決的な学習を織り交ぜながら展開しやすくなっている。
講評		■学習の導入にあたって歴史的事象に対する興味・関心を喚起するための工夫が効果的であるとともに、生徒が主体的に学びを進めていくための学習視点が的確で、具体的に示されていることで、問題解決的な学習が充実してきている。

4 公共の精神、社会参画、伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛すること、宗教及び社会の変化に対応した内容の取り扱いについて配慮されているとともに、全体の分量が適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○最後の小単元「21世紀と日本の役割」で、世界や日本の今日的な課題を紹介するなど、社会の変化について学習するとともに、主体的に社会参画していく態度を養えるよう工夫がなされている。 ○特設コーナー「先人に学ぶ」を複数設定し、文化の発展に貢献した先人の姿を紹介するとともに、各時代の文化史をわかりやすくまとめた資料の掲載や、「図版特集」では、衣食住に焦点をあて、伝統文化と現代の生活とのつながりを意識し、考えることができるよう工夫されるなど、我が国の伝統文化についての理解を深め、それを尊重する態度を身に付けるための工夫が優れている。 ○「古代史プラスα」での神話の紹介に加え、伝統文化に関する様々な工夫、また、特設された地域調べコーナーでは、具体的な調査方法を示しながら、地域の歴史に対する興味・関心を高め、地域を大切にする視点を重視するなど、我が国と郷土を愛する態度を養うための工夫が優れている。 ○領土について、竹島・尖閣諸島の編入について記述し、また、北方領土に関する記述に加え、コラム欄で竹島・尖閣諸島の問題について、地図を付して記述している。 ○モスクの写真等とともに、三大宗教を取り上げ、宗教の理解につながるよう工夫されている。	○特設コーナー「先人に学ぶ」や「図版特集」に加え、各時代の文化史をわかりやすくまとめた資料が掲載されており、伝統文化と現代の生活とのつながりが意識でき、我が国の伝統文化を継承・発展させることの大切さについての理解を深めることができている。 ○地域調べの特設コーナーでは、伝統文化の保存・継承等や受け継がれてきた地域の慣習を大切にする視点に立った学習活動が提案されるとともに、具体的な調査方法が示されており、我が国と郷土を愛する態度を養うための学習活動の展開に有効である。 ○特設ページ「歴史を掘り下げる」などにおいて、今日的課題につながる歴史的背景が詳しく解説されており、学習した歴史的背景を踏まえて、今日的課題を考える学習が展開しやすい。 ○竹島・尖閣諸島・北方領土について、本文では地図を付して解説し、コラム欄でも取り上げるなど、我が国の領土と主権についての知識および関心の向上とともに、我が国の主張について理解を深めることにつながっている。
講評		■我が国の伝統文化について関心や理解を深める特設コーナーが充実しているとともに、身近な地域の歴史を調べる具体的な学習活動が示されることで、伝統文化と現代の生活とのつながりを意識しながら、その継承・発展の大切さについての理解を深め、我が国と郷土を愛する態度を養うための学習活動の充実につながっている。また、新学習指導要領が改訂の要点「様々な伝統や文化の学習内容の充実」にも寄与している。

5 広い視野をもち、異文化を理解し尊重する態度や、異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図るための工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○特設ページ「歴史を掘り下げる」で、アイヌと沖縄の近代と現代について取り上げ、多文化共生の重要性を意識できるよう工夫されている。 ○特設ページ「先人に学ぶ」でエルトゥールル号の遭難を紹介し、また、各地の日系人に関する内容を積極的に取り上げるなど、我が国と外国との関係に目を向ける題材を配置し、異文化理解・多文化共生の精神を養うための工夫が優れている	○各時代の文化に関する学習や特設ページにおいて、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることや、我が国が古くから諸外国と盛んに交流し相互に影響し合いながら現代に至っていることを学ぶことにより、他国の文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度とともに、多文化共生の重要性を意識させることにつながっている。
講評		■全体を通して、我が国と諸外国との交流等を歴史的背景も踏まえながら紹介しており、他国の文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度の育成、多文化共生社会の実現に向け一人一人ができることを考える活動につなげやすい。

6 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特徴を踏まえて理解させ、我が国の歴史に対する愛情を深めるとともに、国民としての自覚を育てるための工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各編はじめに、「とらえよう時代の転換」として、その時代の特徴を感じ取ることができる大きな図版を提示するなど、豊富な資料を随所に提示するとともに、各時代のまとまりを小学校での既習事項として各時代の人々の服装や人物・文化財で示し、歴史の大きな流れを理解しやすくする配慮がなされるなど、我が国の歴史に対する愛情を深めるための優れた工夫がなされている。 ○PKOでの自衛隊の国際貢献や東日本大震災等の災害時のボランティア・NP0・NGOの活動等を紹介するなど、現在および将来において我が国が果たす役割を記述し、持続可能な社会に向け、国民としての自覚を育てるための工夫がなされている。 ○近現代史について、世界の主な出来事との関連を示しながら、日本の戦後復興から社会的・産業的な発展まで記述し、現代社会の諸問題についての理解を深めるよう配慮されている。	○各編に設定されたその時代の特徴を感じ取ることができる大きな図版や資料が豊富に提示されているとともに、小学校での既習事項との関連で解説することで、我が国の歴史的事象に関心を持ち、時代ごとの特色を捉え、歴史に対する愛情を深めることにつながっている。 ○各時代の学習は、時代の概観から始まり、前の時代との比較からその特色を捉えるための「導入」の学習、「時代の転換のようす」を捉える「前半」の学習、習得した知識を活用して時代の特色を捉え直す「まとめ」の学習が段階的に設定されており、こうした構成を各時代の学習で繰り返すことで、各時代の特色を踏まえながら、我が国の歴史の大きな流れの確実な理解につながっている。
講評		■豊富な図版や資料に加え、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特徴を理解しやすい学習活動の構成になっており、歴史の流れの確実な理解とともに、我が国の歴史に対する愛情を深めることにつながっている。

7 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各時代はじめに、「とらえよう時代の転換」を配置し、時代の変化の特徴を多面的に捉え、自分の言葉で説明する課題が設定されるとともに、「歴史を掘り下げよう」を効果的に配置するなど、探究意欲を高める工夫が豊富で優れている。 ○各単元での既習事項を活用した構成とともに、巻末に集められた基礎資料を学習途中で確認することができるなど、発展的な学習へつなぐ工夫が優れている。	○各単元に配置された特設コーナー「とらえよう時代の転換」等を通して、時代の変化の特徴を多面的に捉え、学んだことを活用して自分の言葉で表現する学習活動に取り組むことで、段階的に自分の考えを発展させる探究的な学びにつながっている。 ○特設ページにおいて、身近な地域の歴史を調べるための具体的な学習活動が提示されるとともに、歴史の調べ方・学び方も例示することで、探究意欲を高めている。
講評		■各単元の特設コーナーや特設ページにおいて、段階的に探究意欲を高め、発展的な学習につなげる工夫がなされている。選択課題であるため、十分活用されているとはいえない面があるが、新学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の意識向上により、探究的な学びが浸透しつつある。

8 単元構成の系統性・発展性や各分野の関連性及び他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○古代から現代までの大項目を適切に配分するとともに、地域の特性に関する学習活動も展開できる全体構成となっているなど、単元構成の系統性・発展性について工夫がなされている。 ○各編の導入部分や「歴史のとらえ方」において、小学校での既習人物や文化遺産を掲載するなど、小学校と関連させる工夫がなされている。 ○持続可能な社会の構築などの今日的な課題を取り上げ、公民的分野との関連を図る工夫がなされている。 ○「地域調べ」において、総合的な学習の時間との関連を図るとともに、「先人に学ぶ」として命の尊さを取り上げるなど、道徳との関連を図るよう工夫されている。 ○江戸時代における京都のはげ山対策や江戸の町のリサイクルなどの具体例をあげ、環境教育への関心を高めるよう配慮されている。	○学習課題とそれに対応した「確認」と「説明」の2段階に分けた振り返りや、学習したことを活用して考察し、自分の言葉で表現する学習活動が各時代に配置・構成されており、系統的・発展的な学びに有効に働いている。 ○各編の導入において、小学校での既習人物や文化遺産を再確認させながら、中学校の歴史学習にスムーズに移行させる工夫が生徒の関心を高めている。 ○特設ページにおいて、環境、平和・生命の尊さを題材とした内容が取り上げられており、環境教育や道徳科との関連を図ることができている。また、生活の向上や文化の発展などに取り組んだ先人の姿を歴史的事実として学ぶだけでなく、そこから自分たちの生き方のこれまでとこれからを考えることにもつながっている。
講評		■単元構成や各時間の構成が系統的であるとともに、小学校の既習事項を活用した移行の工夫など生徒にとって使いやすくなりやすい。また、特設コーナーで環境教育や道徳科との関連を図っており、歴史学習を通じて生徒が自己の生き方を考えることにもつながっている。

9 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○人権尊重や男女平等などに関わる歴史的事象を数多く取り上げ、特設コーナーでは先人たちの姿を積極的に紹介し、今日の人権問題についても考えが深められるよう工夫がなされている。 ○「先人に学ぶ」で、エルトゥールル号遭難事件や、新渡戸稲造と杉原千畝について取り上げられ、平和や命の尊さといった道徳的な内容を取り上げ、道德教育の推進に向けて配慮がされている。	○人権を観点とする特設ページやコラムが多く取り上げられていることで、人権尊重や男女平等などに関わる今日の課題の歴史的背景を理解することにつながるができている。 ○平和・生命の尊さや伝統と文化を観点とする特設ページを通して、道德科の「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、「国際理解、国際親善」、「生命の尊さ」の項目との関連を図る指導を意識して進められている。
講評		■人権、平和・生命の尊さ、伝統と文化などを観点とする特設ページやコラムが多く取り上げられており、人権教育や道德教育につながる視点で指導を展開することにつながっている。

10 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○資料が豊富であるとともに、本文中には関連する資料番号を付しているため照合しやすい。また、重要事項を太字ゴシック体で表記されている。 ○特別支援教育およびユニバーサルデザインに関する校閲を受けるなど、すべての生徒に使いやすいよう配慮されている。 ○再生紙と植物油インキを使用し、造本も堅牢である。	○時代像を具体的にイメージできる図版が豊富に掲載されており、本文中と関連する資料番号を付しているため照合しやすい。また、平易な表現で歴史の流れや因果関係を丁寧に説明しているので、生徒にとっても使いやすい。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮されており、文字や図版なども見やすく使いやすい。
講評		■本文と各資料との関連付けやカラーユニバーサルデザインの使用など、支援が必要な生徒をはじめ、すべての生徒にとって大変使いやすい。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

日本文教出版「中学公民 公民的分野」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

各時間に何を学ぶのかが「学習課題」として明確に示され、その学習課題に対応した「学習の確認」が「確認」と「説明」の２段階に分けた振り返りとして設定されていること、その内容を自分の言葉で説明する言語活動が、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得につながっている。また、「ナビ」「チャレンジ公民」などの特設ページを通して、生徒の学習内容への関心と学習意欲を高め、学習の見通しを持った主体的な学習が促されている。また、様々な手法を用いて、習得した知識と「見方や考え方」を活用する課題が設定されており、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながっている。さらに、社会参画や社会貢献、民主主義の理解を図るための記述が豊富で、社会の一員としてその発展に主体的に参画する意識を高めるとともに、充実した特色ある日本の慣習や伝統と文化に関する資料を活用して、伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛する態度を養うための幅広い学習活動が可能となっている。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

各編冒頭の「ナビ」で、学習内容への関心と学習意欲を高めるとともに、学習内容を広い視野から大きく捉え、俯瞰することができるため、学習の見通しを持った主体的な学習が実現できている。また、各単元においては、現代的な課題に関する教材が多く用意されており、その解決を自分ごととして考える学習活動の展開に役立てることができている。さらに、最後の単元では、これまでの学習の総まとめとして、持続可能な社会に向けて自ら考えをレポートにまとめ表現する活動に取り組むことで、SDGsへの理解を深めるとともに、主体的に社会の形成に参画し、行動していく態度を養うことにもつながることができている。他分野や道徳科、総合的な学習の時間、環境教育、情報教育などに関する教材や工夫が多く、カリキュラム・マネジメントを意識化した教科横断的な学びが促進されている。

4 令和２年度使用教科書について

基礎的・基本的な知識・技能の習得、それを活用する振り返りなど、系統的・発展的な学びを展開しやすい単元構成となっている。また、「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」の特設ページを活用することにより、探究活動や発展的な学習の基盤となる論理的な思考手順や話し合いのルール、資料活用の技能などの育成につながっている。新学習指導要領では「社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察、構想したりする学習」が重視されているが、現代的課題に関する教材が豊富であり、３年間の使用にあたっては、その解決を自分ごととして考える学習活動の展開に役立てられている。また、最後の単元でのレポート作成は、改訂のもう１つの要点である「課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの一層の重視」にもつながっている。そのため、令和２年度においても、現教科書である日本文教出版を継続して使用することが適切であると考えられる。

【社会科（公民的分野）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：日本文教出版>

1 社会科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各時間に、学習課題を明示するとともに、側注欄に学習の課題と活用を図る課題を2段階で設定し、学習ポイントの確実な習得と理解を図っている。また、その知識を用いて現実の諸問題に関する問いかけが設定されるなど、基礎・基本の確実な習得へ向けた工夫が優れている。 ○法令集および用語解説で、本文には参照ページ、法令集には関連ページが表示されているため、確認学習や振り返り学習等の際に有効で使いやすい。	○各時間で何を学ぶのかが「学習課題」として明確に示されており、その学習課題に対応した「学習の確認」に取り組むことで、基礎的・基本的な知識・技能等の習得につながっている。 ○各時間の振り返り学習が「確認」「説明」の2段階に分けて設定されており、習得した内容を自分の言葉で説明するという言語活動を通して、学習内容の確実な定着につなげることができている。 ○法令集や用語解説の表示の工夫、各時間の振り返り学習として設定されている「確認」「説明」にポイントとして示されたキーワードが、生徒が主体的な振り返り学習を行ううえで役立っている。
講評		■各時間に設定された学習課題の明示と、それに対して2段階で振り返る言語活動が効果的に設定されていることにより、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「言語活動コーナー」を設け、図版の内容について「読み取ろう、考えよう、伝えよう」として、思考力・判断力・表現力を育むための言語活動が充実している。 ○毎時間の終わりに、身近な現実の諸問題について、その意味や意義を解釈したり、事象間の関連を説明したりする発問を設けて、言語活動の充実が図られている。	○随所に配置された「言語活動コーナー」を活用することにより、図版の内容を読み取り・読み取ったことをもとに考え、伝えるための活動が充実しており、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。 ○学習課題に対応した「学習の活用」では、身近な現実の諸問題について、その意味や意義を解釈したり、社会的事象間の関連を説明したりする問いが提示されており、生徒の関心を高めるとともに、考察力と表現力の育成につながっている。
講評		■「言語活動コーナー」「アクティビティ」「チャレンジ公民」など、言語活動を中核とした学習活動が効果的に配置されており、思考力・判断力・表現力の育成に有効に働いている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、社会的事象に対して興味・関心を高める工夫がみられ、観察・調査・体験等の活動やそれに基づく問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各編冒頭に、各編のポイントをイラストと新聞記事で考える「ナビ」を配置し、学習内容に関心と意欲が持てるように配慮されている。 ○各編・各章の最後に、「チャレンジ公民」として、習得した知識を活用する課題を設定し、ブレインストーミングやトゥールミンモデルの手法を用いることで、問題解決的な学習につなげている。また、ここで学んだ考え方やまとめ方のスキルが、最終のレポート作成に役立つ構成となっており、優れている。	○各編冒頭に配置された各編のポイントをイラストと新聞記事を活用しながら考えることで、学習内容への関心と学習意欲を高めるとともに、学習内容を広い視野から大きく捉え、俯瞰することができるため、学習の見通しを持った主体的な学習につながっている。 ○「チャレンジ公民」では、ブレインストーミングやディベート、議論、ロールプレイ等の手法を用いて、習得した知識と「見方や考え方」を活用する課題が設定されており、生徒自らが問題を解決する学習につなげやすい。また、ここで学んだ考え方やまとめ方のスキルを、最終編のレポート作成で役立たせることができ、充実した問題解決的な学習の展開につながっている。
講評		■「ナビ」「チャレンジ公民」などの特設ページを通して、生徒の学習内容への関心と学習意欲を高め、学習の見通しを持った主体的な学習が促されている。また、様々な手法を用いて、習得した知識と「見方や考え方」を活用する課題が設定されており、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながっている。

4 公共の精神，社会参画，伝統と文化の尊重，我が国と郷土を愛すること，宗教及び社会の変化に対応した内容の取り扱いについて配慮されているとともに，全体の分量が適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解，課題等
特徴	○特設ページ「明日に向かって・社会参画」を各所に配し，バリアフリーや環境保全，「15歳のハローワーク」など，社会参画や社会貢献に関する記述が豊富で，社会に主体的に参画する意識を高めるための工夫が優れている。 ○初詣や岸和田だんじりとともに，近代産業遺産「琵琶湖疏水」や熊野町の筆づくりを写真付きで紹介するなど，特色ある日本の慣習や伝統文化に関連する資料が充実しており，現代社会に受け継がれていることについての理解を深め，それを尊重する態度を身に付けるための工夫が優れている。 ○本文等での伝統文化に関する充実した記載とともに，巻末で「残していきたい日本の風景」を特集し，世界遺産を含め，日本の景観を美しさや素晴らしさを豊富に紹介するなど，我が国と郷土を愛する態度や心情を育むための工夫が充実している。 ○領土について，「国際社会と主権国家，日本の領土」で，北方領土は歴史的経緯や日本とロシア双方の主張を対話風に記すとともに，竹島，尖閣諸島に関する歴史と現在の問題について記述されている。 ○パレスチナ問題を取り上げるなど，現代世界の政治・文化・宗教について理解を深められるよう工夫されている。	○特設ページ「明日に向かって」では，職業紹介や年金など生徒の将来の生活につながる内容が取り上げられており，社会の一員としての役割を考えていくための手がかりとなる学習を進めるうえで役立っている。 ○本文や巻末「残していきたい日本の風景」などの教材が充実しており，特色ある日本の慣習や伝統文化が，現代社会に継承され親しまれていることを理解し，我が国や郷土を愛する心情を育てるための指導に生かされている。 ○各編を通して，現代的課題を考えることができる教材が充実しており，最終編のレポート作成の単元「これからの社会をどんな社会にしたい？」に取り組むことが，社会の担い手としての自覚と態度の育成につながっている。 ○竹島・尖閣諸島・北方領土について，歴史的経緯や双方の主張が，生徒にわかりやすいよう対話風に示されており，我が国の領土と主権についての正しい知識の習得や関心の向上とともに，我が国の主張について理解を深めることにつながっている。
講評		■各編・章の現代的課題を考えることができる教材を通して，伝統と文化の尊重，我が国と郷土を愛する心情とともに，社会の一員としての役割を考える手がかりとなる学習を進めることができている。また，最後の学習において，これからの社会のよりよい発展のあり方について，生徒自身が構想する学習課題が設定されるなど，郷土・京都はもとより日本社会のよりよい発展の担い手としての自覚と態度を育成する指導が進めやすい。

5 広い視野をもち，異文化を理解し尊重する態度や，異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図るための工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解，課題等
特徴	○京都の大学での留学生向け食堂の事例を取り上げるなど，多文化共生社会の重要性を理解し，国際協力の必要性について考えることができるよう配慮されている。 ○文化と宗教の多様性について，他文化を受け入れる寛容さの必要性などを考えさせる課題により，異文化理解と他国を尊重する態度を育めるよう配慮されている。	○関連する単元やコラム，特設ページ等を通して，世界の多様な文化の学習を通して，多文化共生社会の重要性を認識したり，現代世界の政治と文化・宗教の関わりについて学習する中で，他文化を受け入れる寛容さの必要性などを考えさせたりすることで，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことにつながっている。
講評		■グローバル化社会における世界の多様な文化の学習，現代世界の政治と文化・宗教のかかわりに関する学習を通して，異なる文化をもった人々と共に生きていくことの大切さとその実現に向けた行動など，生き方の基盤となる資質・能力の育成につながっている。

6 民主主義に関する理解を深め、国民主権を担う公民としての必要な基礎的教養を培うことに加え、現代社会の諸問題について自ら考えようとする態度を育てるための工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○投票方法に関する資料など生徒の興味を引く身近な事例に引き寄せて、民主主義の意義や意味を考えさせるとともに、国民主権から導かれる選挙や投票について詳しく解説されるなどよく工夫されており、優れている。 ○公民の学習の最後に行うレポート作成では、人権、平和、環境、科学技術、伝統文化等の具体的なテーマと作成手順を詳しく提示し、現代社会の諸問題を捉え、社会に参画し、その発展に寄与する態度を養う工夫が優れている。 ○特設ページ「チャレンジ公民」で、ブレインストーミングやトゥールミンモデルの手法を用いて、現代社会の諸問題について、自ら問題解決する学習を促すよう工夫されている。	○国民主権や民主主義の意義等について、身近な事例を基にした選挙や投票に関する学習に加え、模擬投票等の手法を取り入れることにより、将来に選挙権を行使することの意義を実感できるなど、学習活動の幅が広がっている。 ○人権、環境、エネルギー・資源、平和・生命の尊さ、防災・減災、伝統と文化を観点として、現代的課題を考えることができる教材が豊富で、現代社会の諸問題について自ら考える学習活動の展開に役立てられている。 ○公民の学習の最後に行うレポート作成では、これまでの学習の総まとめとして、現代社会の諸問題について向き合い、持続可能な社会に向けて自ら考え、まとめ表現する活動を通して、主体的に社会の形成に参画し、行動していく態度を養うことにつなげることができている。
講評		■現代的課題を考えることができる教材が豊富で、現代社会の諸問題について自ら考える学習活動の展開に役立てられている。また、レポート作成の単位では、持続可能な社会に向けて自ら考え、まとめ表現する活動に取り組むことで、SDGsへの理解を深めるとともに、主体的に社会の形成に参画し、行動していく態度を養うことにつなげることができている。

7 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「統計やグラフを使いこなそう」との項目を設定し、学習意欲を高めるとともに、特設ページ「アクティビティ」で、学習の理解を深めるための具体的な作業学習が提示されており、探究意欲を高めるための優れた工夫がなされている。 ○各編や章末に「チャレンジ公民」を設け、学んだことを活用して、さらに発展的な学習に取り組めるよう工夫が優れている。	○学習内容への理解を深めるコラムや、授業で取り組むことができる具体的な作業学習が提示される特設ページ等を活用し、発展的な学習につなげやすい。 ○各編や章の学習内容に関する事例問題を提示した「チャレンジ公民」や情報の読み取りや活用に必要なポイントなどを学ぶ「情報スキルアップ」の特設ページを活用することにより、探究活動や発展的な学習の基盤となる論理的な思考手順や話し合いのルール、資料活用の技能などの育成につながっている。
講評		■「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」の特設ページを活用することにより、探究活動や発展的な学習の基盤となる論理的な思考手順や話し合いのルール、資料活用の技能などの育成につながっている。また、学習内容への理解を深めるコラムや具体的な作業を通して、学んだことを活用する発展的な学習が進展してきている。

8 単元構成の系統性・発展性や各分野の関連性及び他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○小学校での学習内容との関連とともに、日本の現代史年表、世界地図と世界の現代史年表を巻頭に掲載し、また、各ページ下には、地理的分野と歴史的分野の振り返りや課題、問いが設定されるなど、優れている。 ○「15歳のハローワーク」で生き方探究（キャリア）教育との関連が、「ネット社会とつきあう方法」などの特設ページで、情報教育との関連が図られている。 ○「統計とグラフを使いこなそう」「金融スキルアップ」など、数学科との関連が図られており、内容も充実している。	○各編冒頭の「ナビ」で学習内容を大きく捉えたうえで学習の見通しをもち、各時間の学習課題とそれに対応した「確認」と「説明」の2段階に分けた振り返り、特設ページ「チャレンジ公民」で習得した知識と「見方や考え方」を活用する課題に取り組めるよう構成されており、系統的・発展的な学びに有効に働いている。 ○環境、平和・生命の尊さ、伝統と文化、国際社会、キャリア教育を題材とした内容が豊富で、環境教育や道徳科、総合的な学習の時間との関連を意識した指導の展開につながっている。 ○随所に、地理や歴史的分野との関連、小学校との関連が示されているため、他分野や他校種との関連を意識した指導を進めることに役立っている。
講評		■基礎的・基本的な知識・技能の習得、それを活用する振り返りなど、系統的・発展的な学びを展開しやすい単元構成となっている。また、他分野や道徳科、総合的な学習の時間、環境教育、情報教育などに関する教材や工夫が多く、カリキュラム・マネジメントを意識化した教科横断的な学びが促進されている。

9 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「バリアフリーの社会をめざして」として、障害のある人への配慮の事例が豊富に取り上げられるとともに、点字が体験できる資料を添付するなど、人権教育との関連が図られている。 ○コラム「公民プラスα」で、少年事件での報道のあり方やワーキングプアなどを取り上げるとともに、「アクティビティ」では、ユニバーサルデザインを考えさせる課題や死刑制度についてディベートさせるなど、具体的な作業学習を提示し、人権や道徳との関連が充実している。	○「公民プラスα」「アクティビティ」において、人権、環境、平和・生命の尊さ、伝統と文化などを題材とした内容が多く取り上げられており、また、ディベートなど具体的な作業学習が提示されていることで、生徒が意欲的に学習に取り組むなど、人権教育や道徳教育の充実に役立てられている。
講評		■人権教育や道徳教育の推進に生かすことができる題材が多く取り上げられているため、基本的人権の尊重や道徳性の育成を視点とした指導を展開しやすい。また、道徳科の項目との関連を図ることができる題材が多く、社会科と道徳科を関連付けた教科横断的な学びの実践につながっている。

10 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○重要事項は太字のゴシック体、振り仮名はゴシック体で表記するとともに、本文中に番号を付し関連資料と照合させるなど工夫されている。 ○インデックスが設けられており、学んでいる箇所がわかりやすく工夫されている。 ○特別支援教育及びユニバーサルデザインに関する校閲を受けている。 ○再生紙と植物油インクを使用し、造本も丈夫である。	○抽象的な社会のしくみを具体的にイメージできる図版が掲載されており、本文中に関連する図版番号を付して本文と図版資料との関連が明確に示されているため、生徒にとって活用しやすい。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮されており、文字や図版なども見やすく使いやすい。
講評		■本文と各資料との関連付けやカラーユニバーサルデザインの使用など、支援が必要な生徒をはじめ、すべての生徒にとって大変使いやすい。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

帝国書院「中学校社会科地図」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

地図帳の基本的な見方・使い方についてのわかりやすい解説や可能な限り縮尺が統一された資料図など、資料活用や地域的特色の理解を深めやすく、基礎的・基本的な知識・技能等の習得につながっている。縮尺を統一した資料図のほか、文字要素と区別するため絵記号を用いるなど、生徒が地図を読み取る際の活用の工夫により、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付ける指導の充実が図れている。また、地域の特色が偏らないよう様々な題材が設定されているため、地域の調査や問題解決学習において活用しやすい。さらに、世界の諸地域学習における「主題」や、日本の諸地域学習における「考察の仕方」をもとにして、多面的・多角的に考察を進めていくにあたり、幅広い学習に対応できる資料が充実しているため活用しやすく、思考力を高める言語活動の進展につながっている。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

「地図をみる目」、「やってみよう」などの学習課題が随所に設けられており、地図を読み取る着眼点をもとに資料図を深く読み取り、読み取ったことを表現するなどの探究的な学習へとつなげる工夫がなされている。また、国際理解、環境問題、伝統文化、防災などの現代社会が直面する課題に関する資料が豊富で、総合的な学習の時間における探究課題と関連付けて幅広く活用されることで、公共の精神や社会参画の意識を高める学習にも有効に働いている。

新学習指導要領が求める「世界の諸地域における地球的課題の視点の導入」にあたって、地理的な事象として捉えやすい課題が取り上げられており、より活用が見込まれる。

4 令和２年度使用教科書について

表記や色彩が工夫されており、図・写真ともに読み取りやすく、系統性のある配列で構成されているため、生徒が学習を進めやすい紙面構成となっている。地図帳の基本的な見方・使い方がわかりやすく解説され、地図の読図や作図、景観写真の読み取り、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付けながら、主体的に学習を進めるうえで有効である。また、地図の着眼点が具体的に示されていることで、位置や分布、場所、空間的相互作用、地域を視点とした社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせながら、地理的事象の考察につなげていくことができると考える。そのため、令和２年度においても、現使用教科書である帝国書院を継続して使用することが適切であると考ええる。

【社会科（地図）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：帝国書院>

1 社会科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○一般図において、課題が設定されており、知識・技能などの習得に向けた工夫がなされるなど優れている。 ○拡大図や主題図で、可能な限り縮尺の統一がされており、面積比較などが理解しやすいよう工夫されるなど優れている。	○巻頭の「地図帳の使い方」ページには、地図帳の構成や、方位、地図記号、縮尺、索引の使い方など、地図帳の基本的な見方・使い方がわかりやすく解説されており、地図帳を活用していくための、基礎的・基本的な知識・技能等の習得につながっている。 ○資料図の縮尺が可能な限り統一されているため、複数の資料図の比較や、重ね合わせがしやすく、資料活用の技能や地域的特色の理解を深めることに役立っている。
講評		■地図帳の基本的な見方・使い方についてのわかりやすい解説、可能な限り縮尺が統一された資料図など、資料活用や地域的特色の理解を深めやすく、基礎的・基本的な知識・技能等の習得につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○日本の各地方の自然・産業・暮らしを大観できる資料図に、他のページに掲載されている関連資料のページ数と資料番号が記載され、使いやすい。 ○「東京から札幌や福岡に行くにはどのような交通機関が利用できるか、考えて見よう」など、地図を読み取る着眼点が記載されているほか、言語活動の充実を図るために、「やってみよう」として、地図や資料をもとに考察を深める視点が随所に設けられ、言語活動の充実を図るための工夫が優れている。 ○世界の各州・日本の各地方の「資料図」では、様々な追究テーマに対応できる多面的・多角的な資料が掲載され、思考力・判断力・表現力の育成、言語活動の充実に向けた工夫が優れている。	○地図活用の際の着眼点を示したコーナー「地図を見る目」、地図から読み取る学習活動や、言語活動を促すコーナー「やってみよう」が随所に設けられており、それらのコーナーを活用していくことにより、思考力を高める言語活動の充実につながっている。 ○世界の諸地域学習における「主題」および日本の諸地域学習における「考察の仕方」について、幅広い学習に対応できるような資料が選定されており、多面的・多角的に考察を進めていくうえで活用しやすい。
講評		■世界の諸地域学習における「主題」、日本の諸地域学習における「考察の仕方」をもとにして、多面的・多角的に考察を進めていくにあたり、幅広い学習に対応できる資料が充実しているため活用しやすく、思考力を高める言語活動の進展につながっている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、社会的事象に対して興味・関心を高める工夫がみられ、観察・調査・体験等の活動やそれに基づく問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○主題図の中にイラストマップが多くあり、わかりやすい。また、鳥瞰図がいくつかの地域で掲載されており、主題図に記載されている社会的事象に対して、興味・関心を高める工夫がなされている。また、世界の一般図については、すべての州を大きな縮尺で掲載しており、興味・関心をもって調べ、学習効果を高めやすい配慮がなされるなど、よく工夫されており優れている。 ○「やってみよう」という学習課題が設定され、観察・調査・体験等の活動やそれに基づく問題解決的な学習が展開しやすい工夫がなされている。	○資料図ページの導入部にイラストや絵記号などを用いた地域の大観図が掲載されており、地域を大観しやすく、世界・日本の自然環境や文化、人々の生活のようすなどについて、興味・関心をもって学習を進めていくことができている。 ○地図の使い方のページには、気づきや学習の手がかりなどが提示され、地図帳の基本的な見方・使い方がわかりやすく解説されているため、主体的に学習を進めるうえで有効である。 ○地域の特色が偏らずに理解できるよう、様々な題材が選定されているため、地域の調査学習などで活用しやすく、教科書で取り扱う内容をより深めた学習が展開しやすく、地域の理解につながられている。
講評		■地図の使い方のページに学習の手がかりや地図帳の基本的な見方・使い方がわかりやすく解説されているため、主体的な学習に有効に働いている。地域の調査や問題解決学習に取り組む際、地域の特色が偏らないよう、様々な題材が設定されているため活用しやすい。

4 公共の精神、社会参画、伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛すること、宗教及び社会の変化に対応した内容の取り扱いについて配慮されているとともに、全体の分量が適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○教科書には掲載されていない地形図やデータマップが豊富に掲載されるとともに、衛星地図や航空写真等が掲載されるなど、学習を深めるための工夫がなされている。 ○京都・奈良の地図中に、世界遺産に登録された寺社が緑色マークで示され、また巻末には、町並みの保存と様々な郷土料理が写真入りで掲載されるなど、伝統と文化を尊重する心の育成につながる配慮がなされている。 ○日本列島の全体地図の中に、竹島、尖閣諸島が写真入りで掲載されており、明確に領土が確認できるよう掲載方法が充実している。 ○様々な宗教の地図とともに、世界の三大宗教およびヒンドゥー教が写真入りで掲載されるなど、宗教の理解に対する工夫がなされている。	○日本各地域の伝統や文化に関する資料が多く、各地に根づいた伝統的工芸品や日本国内の世界文化遺産なども扱われており、その継承と発展について考え、日本の伝統と文化への関心を高めることにつながっている。 ○竹島、尖閣諸島が写真入りで掲載されることで、日本の領土の全体像について生徒が具体的なイメージを確立しやすくなっている。 ○新学習指導要領が求める「世界の諸地域における地球的課題の視点の導入」にあたって、地理的な事象として捉えやすい課題が取り上げられており、より活用が見込まれる。
講評		■世界や日本の地理的な事象に関する資料や日本の伝統と文化に関する資料が豊富で、社会変化への意識とともに、日本の伝統と文化への関心を高め、その継承と発展について考える学習活動に有効に働いている。

5 広い視野をもち、異文化を理解し尊重する態度や、異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図るための工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○世界の住居、衣服、食事等の写真とともに、様々な言語に関する地図や多言語を用いた看板等の写真も掲載され、異文化を理解し尊重する態度や、異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図るために工夫されている。 ○様々な宗教を世界地図上に分布図で表すとともに、聖地や祈りの風景が写真で掲載され、異文化理解への一助となるよう配慮されている。	○世界の生活・文化のページでは、衣食住や言語、宗教など世界には多様な文化が存在し、それぞれの文化に対する理解とそれぞれの文化を尊重していこうとする寛容な態度の育成につながっている。 ○世界の宗教や料理など、世界の文化を紹介する資料では、写真やイラストが多く取り入れられており、それらの資料を活用することで、言語、宗教、民族など、異文化理解につなげる指導が展開しやすい。
講評		■世界各地の生活や文化、言語、宗教等について写真やイラストを多く取り上げることで、世界に存在する国々の多様な文化についての理解を深める指導の充実が図れている。

6 地図については、資料が新しく適切に表現されているとともに、読図や作図等、事象を説明する際に読みやすく、活用しやすいものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○資料は新しく、資料図は比較しやすいよう可能な限り縮尺が統一されており、世界地図には随所に同縮尺・同緯度の日本地図が記載され、緯度による位置関係が読みやすく、活用しやすいよう工夫されている。 ○データマップの色使いが鮮明で見やすいことや、世界の衣食住や料理について写真と共に地域が示されるなど、見やすく体裁が整えられている。 ○世界の各州の見出しページには、鳥瞰図が掲載されるなど概観がとらえやすく、諸地域の考察の仕方にも配慮がなされている。 ○京都の地図では、世界遺産の寺社が緑色で明記されるとともに、市中心部の歴史遺産型美観地区や歴史的風土特別保存地区が明示されるなど、生徒にとって活用しやすい工夫がなされている。	○新しいデータをもとに作成された資料図は、可能なかぎり縮尺が統一されているため、重ね合わせたりして比較がしやすい。 ○世界の各州や日本の各地方のページでは、どのあたりに位置するか一目でわかるよう、位置図が示されている。また、ページの左端に州名・地方名を記したインデックスが設けられているため、生徒にとって活用しやすい。 ○日本の地方別地図（拡大図）は、九州、中国、四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の八地方に区分され、縮尺も統一されており、産物や自然に関するものを絵記号で示すなど、文字要素と区別することで各地方のようすが読み取りやすく、活用しやすい。
講評		■縮尺を統一した資料図や文字要素と区別するため絵記号を用いるなど、生徒が地図を読み取る際、活用しやすくなるよう工夫がなされているため、地域に関する情報の収集や処理などの地理的スキルを身に付ける指導の充実が図れている。

7 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○地図を読み取る着眼点として「日本の輸出入先の資料から日本の工業の特色に着目しよう」などが記載され、また言語活動の視点から「エアバス社の工場を見つけ、どのような国が関わっているか確認しよう」が提示されるなど、探究意欲を高める工夫がなされている。 ○世界の各州や日本の地方ごとにまとめられた多面的・多角的な資料によって、発展的な学習につながるよう工夫されており、優れている。	○「地図をみる目」、「やってみよう」などの学習課題が随所に設けられており、地図を読み取る着眼点をもとに資料図を深く読み取ったり、読み取ったことを表現したりして、生徒自身が自ら地図を読み取る力を身に付けることにつながっている。 ○多面的・多角的な視点でまとめられた統計資料や索引もとにして、学校の授業以外においても生徒自らが調べ・活用できるようになっており、発展的な問題解決的な学習に有効に働いている。
講評		■統計資料や索引、地図を読み取る着眼点や言語活動の視点が具体的に示されており、生徒自らが探究的に調べ・活用する学びにつながっている。

8 単元構成の系統性・発展性や各分野の関連性及び他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○資料図の最初に地域を大観できるイラストマップがあり、その後に各地域ごとのテーマに沿った資料図を掲載する構成になっており、系統性・発展性に配慮されている。 ○歴史的分野に関するイラスト等がちりばめられている。さらに「江戸時代の大阪と江戸の地図」「EU や APEC など国際機関への参加国の地図」「日本の地震と火山の分布」など各分野や他教科との関連性にも配慮がなされている。 ○日本の災害と防災・エネルギーでは、特に防災を視点に多くの災害について掲載するなどの工夫がみられ、道徳、総合的な学習の時間や特別活動に関連して活用できる配慮がなされている。 ○「世界の主な環境問題」「日本の人口ピラミッドの変化や予測」などが取り上げられ、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育などの教育課題との関連性にも配慮がなされている。	○世界の州、日本の地方はいずれも、「一般図」「概観図（ながめてみよう）」「資料図」の順で系統的に配列・構成されており、地域の特色を具体的に読みとりやすい。 ○歴史的分野に関するイラストや記載に加え、公民的分野でも活用できる資料図も豊富で、地理的分野のみならず他分野の授業でも活用しやすい。 ○各地域の環境を考える資料が多く掲載されており、また、環境問題にかかる特設ページ等において、環境問題の現状・原因だけでなく、それに対する取組や対策についても示されており、環境問題への関心を高めることにつながっている。 ○国際理解、環境問題、資源エネルギー、少子高齢化、食、伝統文化、町づくり、防災など現代社会が直面する課題に関する資料が豊富で、総合的な学習の時間における探究課題と関連付けて幅広く活用されることで、公共の精神や社会参画の意識を高める学習にも有効に働いている。
講評		■地域の特色を具体的に読み取ることができるよう系統性・発展性に配慮された構成となっており、地域の特色を捉えやすく、また、特に環境問題に関する資料が豊富で、環境教育との関連を図った学習に有効である。

9 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○世界の民族について衣装・言語・宗教などの違いが明記され、また南米大陸の日本からの移民データマップや東京都の地図中に2020年東京オリンピック・パラリンピックの主な会場予定地を掲載するなど人権教育との関連が図られている。 ○世界の環境問題やそれに対する国際的な取組の資料や写真が掲載され、また、広島市・長崎市の原爆の被害地域を示すなど、国際協力や世界平和に関して、道德教育にも活用できる工夫がなされている。	○日本・世界の諸地域の様々な姿を通して、多様な価値観や文化に対する理解と寛容な態度を育んでいこうとする授業の展開につながられている。 ○人権学習に活用できる資料として、「さまざまな言語（公用語）」「さまざまな宗教」「国（ヨーロッパ）による経済格差」「開拓の歴史とアイヌ語地名」などが掲載されているが、人権学習とのつながりを意識した活用は十分ではない。
講評		■人権学習や道德教育にも活用できる資料や写真等が掲載されているが、地図としての活用を超えた意識的な活用がなされているは言い難い面があるため、今後、指導の充実を図っていく必要がある。

10 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○字の大きさや書体は読みやすく、カラーバリアフリーにも配慮されている ○印刷は鮮明で、図や写真ともに細かな文字でも読み取れる工夫がされるなど、優れている。 ○再生紙、植物インキを使用している。 ○造本は堅牢で、長期間の使用に耐えうるものになっている。	○国名・都道府県名の赤文字には、黒色で縁取りがされ、国や県毎に塗り分ける色やグラフ等の色が混同しにくい配色となっていることで、色覚特性のある生徒にも地図や資料が読み取りやすくなっている。 ○土地利用の表現でも、格子模様や地紋などを入れて似た色の識別がしやすい。
講評		■印刷は鮮明で、図・写真ともに読み取りやすい。また、カラーユニバーサルデザインに配慮し、色彩表現への工夫がされているため、色覚に特性のある生徒でも色を判別して地図が読めるようになっている。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

新興出版社啓林館「未来へひろがる数学」「Math Navi ブック」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

学習内容ごとに付けたい力が一目でわかるように提示されるとともに、基礎・基本を習得するため、単元を通して基礎から応用まで段階的な演習問題が設定されるなど、生徒の目的意識をもった主体的な学びにつなげることができている。また、単元全体の中に、事象（生活と数学の両方）から問題を見い出したり、知識・技能を活用して問題を解決していく場面が意図的に設定されており、考え、判断し、表現していく力の育成につながっている。学習を進めるにあたっては、生徒に「問い」を生み出させるための工夫が豊富で、生徒が自ら問題意識を持って、主体的に問題解決的な学習が進められるようになっている。さらに、日常生活や社会的な事象に関する題材を多く扱うことで、数学の有用性やよさを実感できるとともに、数学的な考察や表現、処理の仕方を習得することで、生涯学び続けていく力の涵養につながっている。

(2)「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

演習問題は決して多いとは言えないが、章末の「基本のたしかめ」「章末問題」や巻末の「繰り返し練習、まとめの問題」を計画的に活用することで、基礎的な概念や原理・法則の理解につなげることができている。また、豊富な言語活動を効果的に設定することにより、解答のみならず、どのようにしてその解答が導き出されたのかという、プロセスに着目したペア学習、グループ学習といった対話的な学びを取り入れる授業が多く見られるようになっている。

「ノート作り」について具体的に言及しているのは、巻頭の見開き２ページのみであるが、この記述を基に指導者が更なる具体を示していくことで、生徒の効果的なノート作りにつなげることができている。

4 令和２年度使用教科書について

基礎的・基本的な知識・技能を習得していくため、演習問題に取り組んだり、身に付けた知識・技能を活用して、数学的な概念を自分でまとめたり、表現したり、説明したりする場面が適宜取り入れられているなど、全体として系統的に学習を進めていく様々な工夫が随所に見られ、思考力、判断力、表現力の育成に有効なものとなっている。さらに、既習事項を活用しながら問題解決を図る場面や、話し合い活動により数学的に表現する力を育成する場面も豊富に設定されており、新学習指導要領の改訂の要点である「数学的な表現を用いて筋道立てて説明し、伝え合う活動の重視」にもつながっている。そのため、令和２年度においても現使用教科書である新興出版社啓林館を継続して使用することが適切であると考える。

【数学科】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：新興出版社啓林館>

1 数学科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○基本の確かめに「～ができますか」という問いかけや付けたい力が明示されるとともに、既習事項のページを確認できるよう工夫されるなど、優れている。 ○節ごとのねらいが明示されるとともに、まとめにつながる問いかけが「ひろげよう」として提示されるなどの工夫が優れている。 ○別冊「Math Navi ブック」で、各章の前に準備の問題が設定され、既習事項との関連がわかりやすい。また、章末に学習したことを活用した問題解決的・発展的な学習への展開の工夫が優れている。	○付けたい力の明示や問いの工夫により、生徒が見通しを持って意欲的に学習に取り組むことで、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図れている。 ○単元の章末において、「基本のたしかめ」で付けたい力が整理されており、生徒自身が到達状況を確認しながら、学習内容や学習過程を振り返ることで、主体的な学習につなげることができている。 ○別冊「Math Navi ブック」では、既習の知識・技能とのつながりだけでなく、「活用」に関する内容が学年ごとに整理されており、生徒が主体的に学習を進めることができている。
講評		■学習内容ごとに付けたい力が一目でわかるように提示されるとともに、基礎・基本を習得するため、単元を通して、基礎から応用まで段階的な演習問題が設定されるなど、生徒の目的意識をもった主体的な学びにつなげることができている。

2 数学的な思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○学習に関する重要な見方・考え方について、「看板」として強調し意識付けを図っており、優れた工夫である。 ○単元の初めと終わりに、身近な問題を通して、数学的な思考力・判断力を生かして表現する機会を設定するなどの工夫がなされている。 ○巻頭に「ノートをくふうして、学習に役立てよう」として、2ページにわたり詳細に説明されるとともに、自分で考え調べることを促すなど言語活動につなげる工夫がなされている。 ○「みんなで話しあってみよう」「自分のことばで伝えよう」など、言語活動の場が豊富に設けられている。 ○巻末の「数学広場」に加えて、別冊「Math Navi ブック」でも、思考力・判断力・表現力をはぐくむ課題が豊富に設定されている。	○「看板」において、数学科の学習に重要な見方・考え方を意識付けており、また、単元や節の導入場面、振り返る場面における「みんなで話しあってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」とした豊富な言語活動が、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。 ○単元の導入時と終末時に生活に関わる身近な問題を取り上げ、日常生活における様々な場面での思考・判断の基盤には、数学科で得た知識・技能が役立っていることを実感できるよう工夫されており、意欲の高まりにつながっている。 ○「ノート作り」について具体的に言及しているのは、巻頭の見開き2ページのみであるが、この記述を基に指導者が更なる具体を示していくことで、生徒の効果的なノート作りにつなげることができている。
講評		■単元全体の中に、事象（生活と数学の両方）から問題を見い出したり、知識・技能を活用して問題を解決していく場面が意図的に設定されており、考え、判断し、表現していく力の育成につながっている。また、生徒同士の協働的な活動や記述を要する問いも豊富で、生徒の言語能力の育成に生かすことができている。

3 事象を数理的に考察し表現する能力を高め、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「ふりかえり」の項目で既習事項を振り返ることにより、基礎・基本から発展まで系統立てた考察が展開しやすいようよく工夫されている。 ○「ひろげよう・どうすればいいかな」等の問いかけを軸に、日常的に問題解決的な学習活動を主体的に展開するための工夫が優れている。	○「ひろげよう—どうなるかな、どうすればいいかな」を学習の始めに設定することで、生徒の中に自発的な問いを生み出し、解決していきたいという学習の動機付けを図ることができる。 ○「ふりかえり」を活用することで、基礎・基本から発展的な内容まで系統立てた考察を促す授業が展開しやすく、また、既習事項を用いて問題解決が図れることを生徒に実感させることにつながっている。
講評		■単元の導入時や学習内容の定着を見取る演習問題において、生徒の生活に関わる身近な問題が多く扱われており、知識・技能を再構成して思考していくという問題解決的な学習に導きやすい。

4 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりできるように工夫・配慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○数学にまつわる話題が豊富に掲載され、日々の学習活動が生徒の興味を引く内容となるよう工夫され、優れている。 ○別冊「MathNavi ブック」で、発展的な内容や自由研究への取組がわかりやすく工夫されている。 ○「みんなで話しあってみよう」「自分のことばで伝えよう」という言語活動の場面が多くかつ適切に設定されている。	○数学科の知識・技能や数学的な思考・判断が、日常生活や社会的現象においてどのように活用されているのかがわかりやすい題材が多く扱われており、生徒が数学の有用性、よさを実感しながら学習を進めることができている。 ○「数学展望台」や別冊「MathNavi ブック」では、数学を身の回りに広げた発展的な内容も含まれており、生徒が関心を持った内容をさらに探究しようとする態度を育成しやすい。 ○「みんなで話しあってみよう」「自分のことばで伝えよう」における数学を利用する活動や説明し伝え合う活動等の言語活動が、数学的活動の充実につながっている。
講評		■生徒が数学の有用性や、数学を活用することのよさを感じられるように、身近な話題が多く扱われているとともに、「身のまわりにひろげよう」などを通して数学が自分の生活にも深く関係していることを実感させることで、自ら考え、判断する態度の育成につながっている。

5 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する内容になっているとともに、演習問題について配列・分量・難易度が適当であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○例、例題でパターンの異なる問題を多く取り上げ、解答や証明が丁寧に記述されるなど、解答の方法・手順が身に付けられるようよく配慮され、優れている。 ○本文中の間や内容をより深める練習、章末の「基本のたしかめ」で、基礎的な概念等の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方の習得が図られている。また、「基本のたしかめ」には、理解が不十分な場合に既習ページが示されるなど優れている。 ○反復練習が有効な問題には、巻末に「くり返し練習」、また、総仕上げの「まとめの問題」が設けられ、数学的な表現や処理の仕方の習得に向けた工夫がなされている。 ○章末「千思万考」コーナーは、活用型の問題で難易度が高く、さらに学習を進めたい生徒の学習に有効である。	○学習事項の中心となる項目の例・例題を多様なパターンで取り上げ、また解法だけではなくどのように考えるのかという考え方・方法・手順等もあわせて提示することで、数学的な表現や処理の仕方の習得につながっている。 ○演習問題は、学習事項の定着度合の見取りとそれに基づく復習や発展的な学習に導きやすい配列や難易度となっている。 ○演習問題は決して多いとは言えないが、章末の「基本のたしかめ」「章末問題」や巻末の「くり返し練習、まとめの問題」を計画的に活用することで、基礎的な概念や原理・法則の理解につなげることができている。
講評		■単元途中や単元末において、数量や図形などの基礎的な概念の理解や、知識・技能の習得に有効な演習問題が適切に配置されており、学習内容の深まり、数学的な表現や処理の仕方の確実な定着に生かされている。

6 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各章に、探究意欲を高める工夫が随所に見受けられ、章末や巻末には、既習事項を活用し発展させる問題が多く設定されるなど、数学的な考察を深める課題が豊富で充実している。 ○別冊「MathNavi ブック」は、各章に既習事項の確認と活用の問題が各2ページずつで構成され、既習事項を生かして、さらに学習を深められるよう、よく工夫されている。 ○別冊「MathNavi ブック」に、社会で活躍する人と数学との関わりや、生涯にわたって数学が関係することを紹介し、数学を深く学び続けようとする態度の育成を図っている。	○随所に設定された演習問題や特設ページなどにおいて、異なる解答や証明の手法・見方を示したり、さらに深めたりする題材を扱った発展的な問題を提案し、既習事項の活用や探究意欲の向上、数学的な考察の深まりにつなげている。 ○別冊「MathNavi ブック」では、「数学を活用している人たち」を紹介したり、数学が生かされている生活場面を取り上げることで、生涯にわたって数学を学ぶことの意義を理解する態度の育成につながっている。
講評		■随所に設定された演習問題や特設ページ等によって、既習事項の活用や数学的な考察を深めるための学習活動が充実している。また、別冊を活用することで、数学を様々な場面で利用することのよさを実感できるとともに、日常生活における数学とのつながりを意識させることで、生涯にわたって数学を学んでいこうとする姿勢の育成につながっている。

7 単元構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○導入部分に、他教科や環境、情報教育など幅広い分野と数学をつなげる工夫が一貫してなされており、生徒の興味を引く構成が優れている。 ○本文中に「ふりかえり」として、小学校からの学習で学んだことがらが掲載されるとともに、別冊「MathNaviブック」は、単元ごとに小学校での学習内容に関連した課題が設定されており、とても有効である。 ○レポートの書き方やまとめ、発表の仕方など、総合的な学習の時間等の学習に活用できる。	○自然環境、国際理解、日本の伝統文化、防災等に関連する題材が扱われており、数学と他教科との関連性や有用性を意識しながら学習を進めることができている。 ○「ふりかえり」コーナーに、小学校の学習内容を明確に提示していることに加え、別冊「MathNaviブック」でも小学校の学習内容に関連した課題が設定されており、系統的な指導に生かしやすい。
講評		■他教科で取り扱われた内容や総合的な学習で活用できる内容等が効果的に配列されており、あらゆる学習において数学が深く関連していることを実感しながら目的意識を持って学習を進めることができるようになっている。

8 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○ナースウォッチ、車いすバスケットボール、車いす用スロープの勾配など、いずれの学年においても、題材の取り上げ方が人権尊重と道徳性の育成の視点に立っており、工夫されている。	○人権尊重や道徳教育との関連を意識できる題材が積極的に取り上げられており、人権教育と道徳教育の視点に立った指導に生かすことができている。
講評		■題材を通して、人にやさしい社会を創るために数学が果たしている役割を示すことで、人権意識や道徳性の育成につながっている。

9 表記や表現について、文章や写真・図形等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○全体的に情報量が適当で、簡潔にわかりやすくまとめられている。 ○色使いが優しく、文字の大きさも適切で、ユニバーサルデザインに配慮されている。 ○説明部分とそれ以外の部分で、文字の大きさや太さを変えるなど、支援が必要な生徒にもわかりやすい。 ○本冊、別冊「MathNaviブック」とともに、再生紙と植物油インキを使用し、造本も堅牢である。	○全体の情報量が適切にまとめられ、題材や解説等の文章も簡潔でわかりやすく、生徒が学習内容を理解しやすい構成である。 ○適切な箇所に挿絵、図、図形、グラフが配置されており、ユニバーサルデザインの観点から、意味改行、色使い、行間、文字の大きさ、余白、枠囲みなども配慮され、すべての生徒にとって活用しやすい。
講評		■表記内容、文字や図の配置、構成等、全体的に理解しやすく、見やすいレイアウトとなっており、支援を要する生徒だけでなく、すべての生徒が読みやすく使いやすい。

教科名	理科
-----	----

令和2年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

大日本図書「新版 理科の世界」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

各単元において、科学の基本的な見方や考え方を柱とした基礎的・基本的な知識・技能が明示されるとともに、自然の事物・現象の原理や法則、観察・実験のための「基本操作」「コツ（アドバイス）」「注意」などが詳しく解説されるなど、基礎的・基本的な学習内容の習得が図りやすい。また、学習課題ごとに、「問い」「章末問題」「単元末問題」として、段階的に知識・理解のまとめや振り返りが行えるため、自発的に基礎・基本の確認を行うことができている。さらに、学習の補充と発展的な学習を促す「トピック」「やってみよう」、学習内容と関連する読み物資料、課題解決・探究学習を紹介する活動例などが豊富に掲載されており、習得した知識・技能を活用することで、自らが疑問を見出し、考察・表現するという主体的な学びに結び付ける学習活動が展開しやすく、生徒の科学的な見方や考え方の伸長につながっている。理科の学習が日常生活や社会に役立っていることを紹介する「くらしの中の理科」、職業の話題を取り上げた「プロフェッショナル」などの具体例が豊富に紹介されており、生徒の科学への夢や関心を高めている。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

学習内容のまとまりごとに課題把握、観察・実験、結果分析、考察、結論という科学的な探究の過程が明確に示されており、また、結果のレポート作成の活動や自分の考えをまとめて説明する言語活動など、多様な学習活動を組み合わせた授業により、思考力・判断力・表現力の育成に向けた授業展開が進められている。また、単元内に設定された「考えてみよう」「話し合ってみよう」「単元末問題」「読解力問題」等により、既習の知識・技能の活用とともに、思考力や表現力を高めるための言語活動を柔軟に取り込んだ単元構想のもとでの授業が進められている。

4 令和2年度使用教科書について

観察・実験・実習において、生徒が主体的に取り組めるよう活動例が豊富で、探究的な活動を促す工夫も充実している。観察・実験から考察し、科学的なきまりや法則を発見するプロセスも重視しており、科学的な思考力や表現力を育成するための学習活動も豊富である。また、生命尊重や自然環境の保全、環境を守る技術等のコラムが充実しており、今日的な課題や社会変化に関心を持つための工夫も充実している。新学習指導要領で求められている「問題を見だし観察・実験を計画し、結果を分析し、解釈する学習活動」、「科学的な概念を使用して自ら考え説明する学習活動」、「自然の事物・現象や理科を学ぶ意義や有用性の実感を促す学習活動」の充実に効果的である。そのため、令和2年度においても、現使用教科書である大日本図書を継続して使用することが適切であると考えられる。

【理科】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：大日本図書>

1 理科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○学習内容の課題・目的を明示し、課題解決の流れをわかりやすく示すとともに、既習事項を振り返り、新しい単元の見通しを持たせる工夫が一貫しており、生徒の知識・技能の定着を図るための工夫がとてよくなされており、優れている。 ○自然界の事物・現象の原理・法則を詳しく解説するとともに、学習内容と関連する科学の話題を豊富に取り上げており、基礎・基本の定着が図りやすい。 ○学習課題ごとに、「問い」で基礎・基本を確認し、「章末問題」で章全体を振り返り、「単元末問題」で知識・理解の総まとめが行えるよう構成が工夫されている。 ○観察・実験について、課題をつかみ、方法や結果予測を話し合い、結果を整理し、整理した結果を基に原理や法則を考察するという学習課題に対する流れが明確でわかりやすく工夫されている。 ○観察・実験の基本的な操作やコツ・注意・事故防止などの点を明示しており、技能的な習得を図りやすい。	○各単元において、科学の基本的な見方や考え方を柱とした基礎的・基本的な知識・技能が明示されるとともに、自然の事物・現象の原理や法則、観察・実験のための「基本操作」「コツ（アドバイス）」「注意」などが詳しく解説されており、また、大切な用語などの重要事項は的確で簡潔な文章で記されるなど、基礎的・基本的な学習内容の習得が図りやすい。 ○学習課題ごとに、「問い」「章末問題」「単元末問題」として、段階的に知識・理解のまとめや振り返りが行えるため、自発的に基礎・基本の確認を行うことができる。 ○観察・実験等の活動を通して結果を整理、分析、解釈・考察するなど場面が明示されていることで、探究学習の充実につながっている。 ○「くらしの中の理科」や科学に関わる職業紹介など、生徒が理科を学ぶことの意義や有用性を実感できる資料が豊富に掲載されており、生徒の学習意欲を高めやすい。
講評		■各単元に、学習内容の課題・目的の明示、課題解決の流れ、振り返り活動がわかりやすく示されており、主体的な学習活動が促されている。また、学習場面の提示に加え、学習補充や生徒の関心を引く特設ページ等により、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得につながっている。

2 科学的な思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○必須以外の観察・実験も充実しており、まず課題を把握してから観察・実験を行う流れなど、目的意識を高めてから体感させる工夫が十分になされており、優れている。 ○単元内に「考えてみよう」「話し合ってみよう」を盛り込むことで、思考力・表現力の育成や言語活動の充実に効果的な構成になっており、知識を活用する課題が豊富で充実している。 ○各所に観察・実験のまとめの書き方やわかりやすい例示とともに、学習の項目ごとにポイントが示されるなど、言語活動の充実に向けた配慮がされている。 ○「結果の整理」と整理した結果から考察する「考えてみよう」を分けて示すことで、それぞれの活動を明確にし、目的をもった言語活動が展開しやすい。 ○「私のレポート」でレポートの書き方を丁寧に解説するとともに、各単元の終わりに、探究課題に対する生徒自身のアプローチ方法や考え方をレポートに表す活動など言語活動が豊富に設定されている。	○学習内容のまとめりとごとに課題把握、観察・実験、結果分析、考察、結論という科学的な探究の過程が明確に示されており、また、結果のレポート作成や自分の考えをまとめて説明する言語活動を通して、思考力、判断力、表現力の育成に向けた授業展開が進めやすい。 ○「やってみよう」として、多くの観察・実験、課題が掲載されており、多様な学習活動を組み合わせた授業につながっている。 ○単元内に「考えてみよう」「話し合ってみよう」、単元の終末に「終章 学んだことを活かそう」「単元末問題」「読解力問題」が設定されており、既習の知識・技能の活用とともに、思考力や表現力を高めるための言語活動を柔軟に取り込んだ単元構想のもとで質の高い授業が進められている。
講評		■問題を見だし、観察・実験を計画する学習活動やその結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を活用して考え、説明する学習活動など、科学的な見方や考え方を働かせた学習活動が充実し、科学的な思考力・判断力・表現力の育成につながっている。

3 観察・実験などを通して、自然を主体的・科学的に調べ、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○観察・実験の前に問いの形で課題が示され、また、着目点を提示することで、より科学的に調べる学習活動を促す工夫が十分になされており、優れている。 ○観察・実験の結果から考察し、きまりや法則を発見するプロセスが重視されており、優れている。 ○自然事象等を考察する際の着目点が随所に明示されており、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができる工夫が十分になされており、優れている。 ○「トピック」「科学史」で、学習内容の補充と発展的な内容を扱うとともに、「ものづくり」「やってみよう」で、原理や法則の理解を深めるための教材が豊富に取り上げられている。 ○京都水族館や京都市青少年科学センターを取り上げるとともに、惑星間の位置・距離を実感させる学習において、京都の航空写真を用いて京都駅からの距離を引用するなど、京都にかかわる資料が豊富で、生徒にとって身近に感じられる。	○京都に関わる資料や生徒の興味・関心を高める豊富な課題例・活動例が取り上げられていることにより、生徒が主体的に観察・実験に取り組む授業が進められている。 ○観察・実験の着目点や自然事象を考察する際の着目点が随所に明示されていることにより、問題の発見、適切な実験計画や実験操作の工夫を自ら考え、自身の考えの導出・表現・確認を意欲的・主体的に取り組むことができている。 ○「思い出そう」「これまでに学習したこと」で既習事項を振り返り、「これから学習すること」で単元学習の見通しをもち、「学習課題」で学習内容のまとめ活動を行う学習過程の提示により、問題解決的な学習活動が促されている。 ○「やってみよう」「課題研究・自由研究」など、生徒の興味・関心と学習意欲を高める課題が豊富に取り上げられており、科学的な考察に基づく主体的な探究活動が促されている。
講評		■各単元に、その単元の学習内容を生かして課題を解決するテーマが設定されており、習得・活用・探究という単元構成が図りやすい。また、随所に示された着目点を活用することにより、見通しを持った観察・実験が行いやすいとともに、得られたデータを分析・解釈し、科学的な根拠に基づく問題解決的な学習が促されることにより、生徒が意欲的に探究学習に取り組むことができている。

4 生命尊重の態度や自然への畏敬の念及び安全や環境、社会の変化に対応した内容の取り扱いについて配慮されているとともに、全体の分量が適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○生命尊重、自然環境の保全や環境を守る技術、生命の連続性・多様性、自然界のつり合いについての資料が充実しており、生徒の今日的な課題や社会変化に関心を持つための工夫が豊富で、優れている。 ○火山や地震での災害や防災のコラムを取り上げることで、自助・共助・公助など大規模災害から身を守り、健康・安全に生活する意識を高める工夫が十分になされており、優れている。 ○野外活動を通して、生物をはじめ自然の環境や営みを破壊することがないように、生徒の意識涵養を図っている。 ○科学史の掲載や、科学と日常生活の関連性にかかる多くの事例を紹介するなど、科学の有用性について、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。	○生命尊重や自然環境に関連する箇所には「環境」、災害・防災に関連する箇所には「安全」マークを付すとともに、身の回り・地域・社会全体と段階的に視野を広げながら、健康・安全考慮する活動等を通して、生命を尊び、自然を大切にし、環境を保全するといった課題を自分ごととする意識や態度を育むことにつながっている。 ○理科の学習が日常生活や社会に役立っていることを紹介する「くらしの中の理科」、職業の話題を取り上げた「プロフェッショナル」などの具体例が豊富に紹介されており、理科の学習と社会の変化・発展を関連付けて学習することにより、生徒の科学への夢や関心を高めている。
講評		■自然環境と人間の営みにかかわる学習事項が充実しており、生徒が生命・自然・防災・安全・環境・社会変化等について関心をもち、問題を見いだす学習が進めやすく、理科学習の意義や有用性とともに、生命尊重や自然への畏敬の念等を培っている。

5 各学年の単元の学習順序について、柔軟に構成できるものとなっていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○生物観察の適期や生徒の発達段階・理科室使用に配慮した単元配列で、学校の理科室設置状況なども勘案しているなど、柔軟な構成に優れている。 ○植物の学習は観察に適した春から夏に、光の学習は暗幕使用も考慮し比較的涼しい時期に設定するとともに、発達段階を考慮して物理よりも身近な物質を調べる化学を先行させている。	○教科書の単元配列に沿って学習を進めることで、観察・実験に適した時期や生徒の発達段階に配慮した系統的な学習が進められるとともに、学年間の理科室使用が重ならないことにも配慮されているなど、柔軟な構成で授業が展開しやすい。 ○各学年の始めに、生物、気象、天体等の観察など、生徒が興味をもって取り組み、より深く理解しやすい学習内容が配置されており、年間を通した探究的な意欲や学習活動の充実につながっている。
講評		■観察・実験は実施時期にも配慮されているなど、全体を通して様々な面から単元配列を柔軟に構成できるよう配慮されており、指導者の創意工夫を生かしやすい。

6 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○学習内容と関連する読み物資料を「トピック」として掲載するとともに、「やってみよう」「ものづくり」で、既習の基礎・基本を活用し、考えさせる工夫が十分になされるなど、優れている。 ○各単元末に「終章」を設け、その単元で学んだことを生かして主体的に課題解決を図る活動が設定されるとともに、「課題研究」では、自ら課題を見つけ、探究的な観察・実験、実習に生徒が主体的に取り組める活動例が豊富に掲載され、学んだことを活用するための工夫が充実しており、優れている。 ○高等学校につながる発展的な内容に関するコラムを豊富に取り上げ、科学的な素養を養うための工夫が優れている。	○学習の補充と発展的な学習を促す「トピック」「やってみよう」、学習内容と関連する読み物資料、課題解決・探究学習を紹介する活動例などが豊富に掲載されており、習得した知識・技能を活用することで、自ら疑問を見出し、考察・表現するという主体的な学びに結び付ける学習活動が展開しやすく、生徒の科学的な見方や考え方の伸長につながっている。 ○生徒の興味・関心に応じて取り組める学習課題に加え、理科で学習する原理の法則や規則性、日常生活や社会で活用される科学的な実例、高等学校にもつながる発展的なコラムなどが豊富で、科学的に探究する意欲や態度、能力の育成に有効に働いている。
講評		■発見・探究・解決という探究プロセスを通じた学習活動や多面的なコラム等が豊富に取上げられており、学んだことを生かそうとする探究意欲を高めるとともに、自然に対する科学的な見方や考え方を養うことにつながっている。

7 単元構成の系統性・発展性や各分野の関連性及び他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○生物観察の適期や生徒の発達段階・理科室使用に配慮した単元配列となっている。 ○単元冒頭に、小学校での既習事項が学年ごとに効果的にまとめられ、学習の接続がスムーズになるように配慮されている。 ○「くらしの中の理科」として、理科の学習が日常生活や社会に役立っていることを紹介するコラムが豊富で、特に環境や生き方探究（キャリア）教育との関連について配慮されている。 ○環境教育や道徳教育の関連を図るため、生命尊重や、自然環境の保全に寄与する態度の育成につなげるために、関連する箇所に「環境」マークをつけている。 ○「数学では」「保健体育では」等の囲みを設け、学習内容と他教科との関連を具体的に示すよう工夫されており、優れている。 ○理科で学習した内容が、将来の職業にどう生かされるのか、「プロフェッショナル」として話題を取り上げ、生き方探究（キャリア）教育の観点に考慮されている。	○数学科、保健体育科、技術・家庭科などの他教科と関連する箇所には、「数学では」「保健体育では」等のマークを設け、また、小学校や中学校での既習事項と関連する箇所には、「思い出そう」などのマークが設けられるなど、学習内容の系統性や発展性に留意した学習指導に生かしやすい。 ○生活との関連を取り上げた「くらしの中の理科」、職業を取り上げた「プロフェッショナル」、科学者を取り上げた「科学史」などの資料が豊富であるとともに、生命尊重や自然環境等に関連する箇所には「環境」マークを付すなど、多面的に理科学習を捉えることで、生徒の興味・関心を高めることにつながっている。
講評		■各教科等や教育諸課題との関連付けや小学校からの接続などに配慮された様々な工夫により、カリキュラム・マネジメントを意識した学習指導の充実につながるとともに、日常生活やあらゆる学習において科学が深く関連していることを実感しながら目的意識を持って学習を進めることができるようになっている。

8 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○観察・実験等の学習活動では協力する態度を、話し合いの場面では男女が協力して学習を進めることを意図的に取り上げる配慮が十分になされており、優れている。 ○学習に関連して、日本全国の地域の写真や資料を取り上げ、伝統文化、郷土への関心を高めるように工夫されている。 ○道徳教育との関連を図り、野外観察や施設観察を紹介することで、自然体験活動を促す工夫が図られている。	○生物の多様性や生命の神秘に関する資料、自然への畏敬の念や環境保全の大切さを考えさせる資料等が充実しており、人と人との関わり、人と自然との関わりについて考えを深め、自然の真理を追究する態度や自然を愛する心情、生物に対する愛情や科学的な見方や考え方など、豊かな人間性を養ううえで有効に働いている。
講評		■自然や生物に関する多面的な資料等が豊富なことで、自然環境と人間とのかかわりの学習が充実し、持続可能な社会の構築に向けて、自ら考え、主体的に行動していこうとする意欲や態度の育成につながっている。

9 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見やすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○文字の大きさ、文字間、行間等が工夫され、また、色覚のちがいによって学習に支障がでないように配慮されており、読みやすい紙面である。 ○専門家の監修により、特別支援教育への配慮がされ、振り仮名やコラムの書体にユニバーサルデザインのフォントが使用されている。 ○多様なマークを使用し、本文と他の情報が適切に整理されている。 ○環境に配慮した紙と植物油インクを使用し、造本も堅牢である。	○ユニバーサルデザインに配慮され、また、学習課題の強調や本文と図を用いた解説の側注及び資料がバランスよく配置されているとともに、写真やイラストの色調も落ち着いており、すべての生徒にとって見やすく、学習への集中を保ちやすい。 ○実験等での注意事項の表記も生徒の目を引く工夫で留意点などの徹底が図りやすい。
講評		■全体を通して、表記内容、写真やイラストの色調や配置等に配慮されており、見やすいレイアウトで、支援を要する生徒だけでなく、すべての生徒が読みやすく使いやすい。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

教育芸術社 「中学生の音楽」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

各題材が、表現及び鑑賞の能力の育成に必要な〔共通事項〕を核として構成されているため、表現及び鑑賞の学びを相互に関連・発展させた指導が図れている。また、各題材及び教材の学習のねらいが明確に示されるとともに、豊富な写真やイラスト、コラムなどに具体的に示された活動の手立てが、生徒の主体的な音楽学習を促している。さらに、〔共通事項〕に示される音楽を形づくる要素を手掛かりに、どのように授業を展開していけばよいのかがわかりやすく示されていることが、「音楽的な見方・考え方」を働かせた話し合い活動等の動機づけ・支えとなっており、思考力・判断力・表現力等の育成につなげることができている。教材には、日本や世界の音楽文化の多様性を体感できる様々な楽曲、日本の伝統芸能が豊富に取り上げられており、生徒の音楽的視野を広げ、音楽文化についての理解を深めることにつながっている。

(2)「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

義務教育９年間のつながりに配慮された題材配列で、系統的・発展的に「教材で何を教えるのか」という視点に沿った授業の実践につながっている。また、生徒が意図的に表現領域・鑑賞領域に関連付けて学習することができるよう工夫されていたり、別教材との相違点を生徒自らが思考する学習過程を取り入れた教材により、生徒が感性を働かせて、音楽のよさや美しさを見いだしたりする活動が実現できている。伝統音楽に関する指導についても、各教材に具体的な活動方法や手順とともに、活動のヒントなどが示されていることで、雅楽、能、歌舞伎、文楽などの鑑賞教材と和楽器による表現活動とを関連させた授業展開が図れており、その内容も充実してきている。なお、著作権については記載が十分でないため、著作権の取扱いが国によって異なることなどの指導を丁寧に行っている。

4 平成３２年度使用教科書について

全体を通して、学習目標がわかりやすく、題材構成の系統性・発展性に優れているとともに、グループ活動等によって協働的に意見を交わしながら学習を進める言語活動を通して、思考力・表現力を高める活動が展開しやすい。和楽器を含めた伝統音楽については、箏や尺八の楽譜が古来の縦書きで掲載され、伝統音楽のよさを感じるにつながっている。新学習指導要領の「表現及び鑑賞を深めていく際に必要な言語活動のさらなる充実」や「我が国の伝統的な歌唱や和楽器の充実」にもつながるものである。そのため、令和２年度においても、現使用教科書である教育芸術社を継続して使用することが適切であると考ええる。

【音楽科（一般）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：教育芸術社>

1 音楽科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「音楽学習MAP」や目次において、学習内容の全体像や目標がわかりやすく示されており、また、各教材のページにも目標と学習する際の視点「共通事項」が示されるなど、学習のめあてと見通しがわかりやすく、優れている。 ○教材に関連した楽器の写真やイラストが豊富に取り上げられている。特に発声に関連した教材は充実した内容であり、基礎的な技能の習得に向け、生徒にわかりやすい。 ○「ビンゴゲーム」「リズムゲーム」が取り上げられ、小学校での既習事項の確認とともに、3年間を通じた系統立てた学習ができるなど、楽しみながら基礎知識の定着を図ることができる。 ○巻末に、諸記号等についてまとめられており、レイアウトはシンプルでわかりやすく、生徒自ら必要な記号を調べて学習することができるなど、基礎的・基本的な知識の定着に有効な工夫である。	○各教材に学習目標が大きく示されるとともに、「共通事項」や具体的な学習手順も明示されており、学習のめあてや見通し、「共通事項」への理解を指導者および生徒が共有した授業が展開しやすく、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながっている。 ○巻末の諸記号等のまとめが、基礎的・基本的な知識の定着に向けた生徒の主体的な学習を促す手立てになっている。 ○写真やイラストが豊富に取り上げられており、発声の仕方や和楽器の技能の習得法を具体的にイメージしやすく、それぞれの特徴をつかみやすくしている。
講評		■題材及び教材で、学習内容の全体像や目標がわかりやすく簡潔に示されているため、系統立てた学習を通して、また、表現や鑑賞などのあらゆる音楽活動を通して、必要な知識・技能の習得につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○教材ごとに、学習目標と具体的な学習活動や手がかりとなる「共通事項」が具体的に示されることにより、思考力・表現力を高める活動のヒントとなっていることに加え、さらに言語活動に展開しやすいよう工夫されるなど、優れている。 ○鑑賞教材において楽譜や解説とともに、楽曲の特徴や話題等が示されるなど、言語活動を取り入れて興味深く活動できるよう工夫されている。 ○楽曲と関連付けた問いかけやヒントをキャラクターの吹き出しの形で示すなど、思考力・判断力を高めるとともに、話し合い活動に向けた工夫がなされている。	○教材ごとに、学習目標と具体的な学習活動や手がかりとなる「共通事項」が示されるとともに、言語活動を促す文言が吹き出しの形で示されており、思考力・判断力・表現力等を高めるための学習活動が展開しやすい。 ○鑑賞教材においては、その楽曲が作曲された時代背景や作曲者の思いを汲み取るための楽譜の特徴等が示されるなど、その教材を多面的に捉えるとともに、「音楽的な見方・考え方」を働かせた言語活動を促すことにつながっている。 ○楽曲と関連付けた問いやヒントが随所に示されており、授業で話し合い活動などの対話的な学びを取り入れやすい。
講評		■「共通事項」に示される音楽を形づくる要素を手掛かりに、どのように授業を展開していけばよいのかがわかりやすく示されていることが、生徒の「音楽的な見方・考え方」を働かせた話し合い活動等の動機付け・支えとなっており、思考力・判断力・表現力等の育成につながることができている。

3 興味・関心や生活経験に目を向けた題材や内容構成で、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○作詞者・作曲者の言葉が記述されており、歌い継がれてきた有名な楽曲を次代に継承するための意欲・態度を育む学習活動に効果的である。 ○鑑賞教材の補助資料として多彩な写真を用いることで、生徒の興味・関心を高めるとともに、自主的な学びへつなげる工夫がなされている。 ○手がかりとなる共通事項を教材ごとにわかりやすく示す他、教材の解説等にキャラクターを活用し、活動のポイントや課題解決のヒントを示しており、学習活動が楽しく行えるとともに、問題解決的な学習の展開に向けた工夫がなされている。 ○日本三大祭り「祇園祭」が、山鉦巡行の写真とともに掲載されており、祇園囃子の学習やそれに関する調べ学習が効果的に進められる。また、京都に関しては、福知山音頭や円山公園の紅しだれコンサートも取り上げられるなど充実している。	○作詞者・作曲者の言葉や多彩な写真等が記述されており、教材に対する生徒の興味・関心を高め、主体的な学びが促されている。 ○各教材に示されている活動のポイントや課題解決のヒントによって、問題解決的な学習の展開が充実している。 ○京都に関する題材や教材が充実しており、郷土・京都や我が国の伝統音楽を身近に感じ、主体的にそのよさを感じ取る態度の育成につながっている。
講評		■各教材の活動のポイントや課題解決のヒントによって、主体的な学びや問題解決的な学習が充実している。また、京都に関する題材や教材とも関連付けて学習することで、郷土の音楽のよさの気づきにつながっている。

4 我が国および諸外国における教育的・芸術的に価値のある楽曲が取り上げられ、音楽のよさや美しさに触れ、豊かな情操を養うことができるよう教材が工夫されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○我が国で歌い継がれてきた有名な楽曲には縦書きの歌詞がすべて掲載されていることにより、音楽のよさや美しさとともに、日本語の美しさやリズム・韻などに触れることができ、学習活動を多彩に展開するため、効果的で優れている。 ○歌唱教材では、生徒が好んで取り組める教材、合唱コンクール等で取り組める曲、少し難易度が高く意欲を高める楽曲等が、バランスよく選択できるよう工夫されている。 ○小学校課程からのつながりが意識され、音楽づくりから創作活動へスムーズに移行できるよう配慮されるとともに、創作の手順がわかりやすく示され、図形楽譜などを用いて記譜ができるよう教材が工夫されている。 ○「夕焼け小焼け」「ふるさと」といった小学校の既習曲を混声合唱に編曲して掲載し、新しい魅力を発見しながら表現することができるよう工夫されている。 ○鑑賞活動では、多くの教材において聴きどころを写真を活用して提示したり、聴くポイントを「共通事項」と関連させながら簡潔に示したりすることにより、音楽の良さや美しさを味わえるよう配慮されている。	○我が国で歌い継がれてきた有名な楽曲は、日本語の美しさやよさに加え、歌い継がれてきた背景や生活との関わりへの理解を深めるなど、多彩な学習活動を効果的に展開することができる。 ○創作の学習において、小学校での既習内容を踏まえた旋律の創作が取り上げられるとともに、各学年の学習段階を踏まえた学習のねらいや手順が明確に示されることで、主体的な学習を促し、豊かな情操や創造性の育成につながっている。 ○鑑賞教材は、音楽史の流れを汲んだ様々な楽曲が豊富に取り上げられ、聴くポイントを共通事項と関連させながら示すことにより、その楽曲のよさや美しさを味わうことに有効に働いている。
講評		■歌い継がれてきた有名な楽曲が豊富に取り上げられており、具体的な学習のねらいやポイント、手順などが示されることで、生徒が意欲的に創作や表現活動を展開し、豊かな情操を培うことにつながっている。

5 「表現」及び「鑑賞」に関する内容相互の関連が図られるとともに、授業時数に照らして、全体の分量や難易度が適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○日本の伝統芸能の扱いが鑑賞のみならず、長唄や謡曲など表現との関連を図り、3年間を通じて声による表現活動に注目したものとなっており、学習活動の積み重ねのため、効果的で優れている。 ○交響詩と合唱曲を比較鑑賞することで、表現と鑑賞を関連付けた学習が展開できるよう工夫がされている。 ○幅広い合唱曲が巻末にまとめられ、学習進度に応じた選曲や、学校行事と関連させた指導が柔軟に行えるよう配慮されている。	○日本の伝統芸能について、鑑賞のみならず、長唄や謡曲など声による表現学習との関連付けが図られており、3年間を通じた学習活動を積み重ねることで、生徒自らが教材ごとの違いとともに、我が国や郷土の伝統音楽のよさを深く聴き味わうことにつながっている。 ○合唱曲については、学習進度や学校行事等に関連して柔軟に対応できるよう幅広い楽曲が取り上げられており、指導者の創意工夫が生かしやすい。
講評		■表現領域・鑑賞領域ともに、生徒が意図的に両領域を関連付けて学習活動を行うことができるよう工夫されており、教材によっては、別教材との相違点を生徒自らが思考する学習過程となっているため、生徒が感性を働かせて、音楽のよさや美しさを見いだしたりする活動につながっている。

6 多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気づき、尊重する態度の育成を図るとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を育てるよう配慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○古くから歌い継がれている歌曲について、歌詞や関連する写真が掲載されており、その背景を理解して味わうことができるよう工夫がなされている。 ○アジア諸民族の音楽と世界の諸民族の音楽を系統立てて鑑賞できるよう取り上げることで、音楽文化の豊かさを学習できるよう工夫されている。 ○日本の民謡について、47都道府県を代表する民謡や祭囃子が掲載されており、世界の民族音楽も同じページに世界地図で示すなど学習活動の展開の工夫がされ、世界の音楽文化の多様さや和楽器を含めた伝統音楽への興味・関心を高める工夫が優れている。 ○箏の楽譜について、古来の縦書き楽譜が掲載されており、伝統音楽のよさを感じ、関心を高めるため、効果的である。 ○西洋のオペラと日本の歌舞伎を総合芸術という視点で関連付けて鑑賞できるなど、多様な音楽の素晴らしさや音楽文化を感じとれるよう工夫されている。 ○「君が代」は、楽譜・歌詞・簡単な歌詞の大意が掲載されている。	○我が国及び諸外国の多様な音楽を味わい、曲種に応じた発声や様々な楽器の音色を味わい、奏法などを理解することができるよう様々な工夫がみられ、我が国と諸外国の音楽文化の多様性の理解と日本の伝統音楽への興味・関心を高める学習につながっている。 ○和楽器について、箏のみに留まらず、歌舞伎での三味線の役割などにも触れることで、西洋音楽との音響の違いなどから、我が国の伝統音楽や諸外国の音楽文化の豊かさへの気付きにつながっている。
講評		■我が国の伝統音楽や郷土の音楽、世界の音楽など多彩な教材曲を取り上げることで、我が国の伝統音楽はもとより、諸外国の音楽文化への興味・関心を高め、我が国の音楽文化への誇りとともに、諸外国の音楽文化に対しても尊重する態度を育成することができている。

7 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「心ときめく音楽との出会い」と題して、音楽と生活との関わりが紹介されたり、「静けさと日本の音」として寺社の鐘の音を取り入れたりして、身近にある音楽を様々な角度から聴くことを伝え、将来にわたって音楽に親しむためのきっかけとなる工夫がなされている。 ○各教材に具体的な活動方法や手順とともに、吹き出しによる活動のヒントが提示されるなど、他者と意見を交わし協力しながら学習を深める工夫がなされている。 ○「耳でたどる音楽史」は、文章での説明をあえて少なくし、写真と代表的な楽曲を鑑賞することによってその時代の特徴を感じ取ることができるよう工夫され、探究活動や発展的な学習につなげやすい。	○吹き出しによる活動のヒントや視覚を重視した教材の工夫、生活や社会での音や音楽の役割等の提示などにより、将来にわたって音楽に親しむ素養を培っている。 ○各教材に示される具体的な活動方法や手順、吹き出しによる活動のヒントにより、対話を通じた学習活動の展開が図れている。また、印象的な写真等で視覚に訴える特設ページが、探究活動や発展的な学習に有効に働いている。
講評		■各教材に具体的な活動方法や手順、活動のヒントなどが示されており、また、特設ページの工夫により、探究活動や発展的な学習が促されている。

8 題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連に配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○創作活動について、1年から段階的に取り組めるよう構成されるとともに、例を参考に模倣しながら教科書に直接書き込めるなどの工夫が随所にみられるなど、題材構成の系統性・発展性に優れている。 ○民謡の表現（歌唱）の学習から、民謡で使われている音階を使った創作活動につなげるなど、学習の系統性・発展性に工夫がみられる。 ○「夕焼け小焼け」「ふるさと」など小学校での既習曲を混声合唱に編曲して掲載し、地域活動でのお年寄りとの触れあいや他国の人との交流・行事等で使いやすいよう工夫されている。 ○多彩な日本の伝統音楽・芸能を取り上げ、諸外国の民族音楽との関連も学びやすい構成である。また、日本における西洋音楽の歴史の特集を組むなど、社会科の学習事項との共通点も多い。 ○多くの学校で取り組んでいる合唱コンクールで歌われる合唱曲が、生徒の成長に合わせて多様に取り上げられており、定番の楽曲から新曲まで幅広い。	○創作活動について、段階的な教材配列・題材構成に加え、生徒自身が作曲した作品を記録・蓄積できるよう工夫されており、系統的・発展的な学びに有効に働いている。 ○第一学年の民謡音階を使った創作活動が起点となり、また、選択題材でも民謡を積極的に取り扱うことで、民謡のよさへの理解を深めることにつながっている。 ○日本や西洋音楽の歴史を取り上げることで社会科との関連を図っており、また、作詞者や作曲者の楽曲に込めた思いを掲載することで道徳科との関連を図るなど、教科横断的な学びにつながっている。 ○小学校で扱われる楽曲を取り上げることで、生徒のその楽曲に対する親しみを深めている。また、学校行事や地域活動等で扱われる定番の楽曲や新曲を幅広く取り上げることで、世代を超えた交流等の充実につながっている。
講評		■生徒の成長や学校行事等を考慮した楽曲が選択されており、題材構成の系統性・発展性がよく考えられた教材の配列である。また、他教科や他の教育活動と連携をとることができる教材も多く、教科横断的な学びにつながっている。

9 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○変声について、記述に加えて声帯を図で示し、へ音譜表の読み方を学習した上で混声三部合唱に入るなど、段階を踏んで学習できるよう工夫されており、優れている。 ○友達（仲間）との関係や、これからの明るい未来や希望を歌った曲が数多く選曲されており、また、命の尊さを趣旨とする曲や、伝統的な音楽や歌い継がれてきた日本の歌など、人権教育や道德教育との関連が図られている。 ○著作権をはじめとする権利関係について、わかりやすく説明されているが、保護期間50年は日本のことであり、国によって異なる記載がなされていない。写真や絵画には、出演者や団体、作者が明記されている。	○中学生の変声期に配慮した工夫など、生徒の成長過程を考えた題材構成になっており、歌唱等の場面で生徒同士の他者理解や相互理解の視点でも留意点が説明されているなど道德教育につながっている。 ○仲間との関係やこれからの未来に向けての希望など中学生の心情に合わせた楽曲が多く、また、生命の尊さを趣旨とする楽曲、伝統的な日本の楽曲など、人権教育や道德教育との関連を図ることにつながっている。
講評		■人権教育や道德教育の推進に生かすことができる教材が多く取り上げられているため、基本的人権の尊重や道德性の育成を視点とした指導を展開しやすい。

10 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○レイアウトはシンプルで無駄な装飾がなく、配色などユニバーサルデザインに配慮されており、支援が必要な生徒にも使いやすく、すべての生徒が先入観をもたず自由な発想をもつことが可能なような構成となっており、優れている。 ○ピアノ伴奏譜を併記している楽曲が多く、指導者には使用しやすく、生徒にとってピアノ伴奏を意識しながら学習しやすい点も他社と比較して優れている。 ○鑑賞教材や歌い継がれている曲で取り上げられている写真は色が美しく、見やすい。 ○再生紙を使用し、造本も丈夫である。	○レイアウトはシンプルで、各項目の配置もわかりやすく、配色や写真等も美しいことから、ユニバーサルデザインの観点から様々な配慮がなされており、支援が必要な生徒にも見やすく扱いやすい。 ○ピアノ伴奏譜を併記している楽曲が多く、指導者が使いやすい。また、生徒が伴奏の旋律を意識しながら曲調を知覚・感受しやすい。
講評		■視覚に優しいレイアウトであり、また、伴奏譜が併記されているなど、ユニバーサルデザインの観点から様々な配慮がなされており、すべての生徒にとって学習の理解を深める支援につながっている。

令和2年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

教育芸術社 「中学生の器楽」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

「音楽学習 MAP」や目次に学習内容の全体像や目標、また、各題材の目標と学習活動の手がかりとなる〔共通事項〕が示されていることで、学習のめあてと見通しを捉えやすく、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながっている。それぞれの楽器の奏法によって生まれる音色の違いや音色の変化などを感受したりするための視点が、考え、表現することを促す問いの形で示されており、言語活動を取り入れた授業が展開しやすい。また、グループ演奏での創意工夫などを対話的に協働しながら学習するなど、幅広い学習が提案されており、思考力、判断力、表現力の育成につながっている。さらに、多様な楽曲、演奏家のコメント、演奏・楽器写真、コラム等が豊富に掲載されていることで、生徒の器楽に対する視野を広げ、意欲を高めることにつながっている。和楽器についても、単に楽器の特性や奏法に留まらず、鑑賞教材（雅楽、能、歌舞伎、文楽など）と関連付けながら学習することで、我が国の伝統音楽への関心を高めるうえで有効に働いている。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

様々な楽器の技能の習得に留まることなく、音楽科一般と同様、生徒が音楽のよさや楽しさを感じ取り、思いや意図をもって表現する授業実践が進んできている。他者と共に一つの音楽表現をつくる過程を大切に、生徒一人一人が、自分が担当するパートの役割と全体の響きについて考え、主体的・協働的に創意工夫できる学習活動が大切にされている。和楽器を含めた多様な音楽の美しさやよさを味わい、我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気付くとともに、和楽器の演奏を通して身に付けさせたい礼節を重んじる心や他者を思いやる心を育てるよう授業展開が工夫されている。

4 令和2年度使用教科書について

音楽科一般の教科書と同様、全体を通して、学習目標がわかりやすく、題材構成の系統性・発展性に優れている。また、〔共通事項〕を核に内容が構成されているため、音楽的な見方・考え方を働かせた言語活動を通して、思考力・表現力を高める活動が展開しやすい。また、和楽器について、箏で古来の縦書きの楽譜を重視することで、日本の伝統を感じさせるとともに、礼節を重んじる心にも触れている。さらに、新学習指導要領で重視されている、「生活や社会において音楽が果たしている役割」が感じ取れる教材や「我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着を持つことができる」ような教材など、幅広い教材が取り扱われており、生徒が音や音楽の働き、音楽文化について関心を持つことにつながっている。そのため、令和2年度においても、現使用教科書である教育芸術社を継続して使用することが適切であると考えられる。

【音楽科（器楽）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：教育芸術社>

1 音楽科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「音楽学習 MAP」や目次において、学習内容の全体像や目標がわかりやすく示されており、また、各教材のページにも目標と学習する際の視点「共通事項」が示されるなど、学習のめあてと見通しがわかりやすく、優れている。 ○リコーダーは、中学校で初めて学習するアルトリコーダーを段階的に学習できるとともに、小单元ごとに新しい運指がまとめて示されるなど、必要に応じて生徒が自分で調べることができ、主体的な学習につながるよう工夫されている。 ○巻末に、諸記号や運指・コードネーム等についてまとめられており、一般と同様のレイアウトがシンプルでわかりやすく、生徒自ら必要な記号を調べて学習することができるなど、基礎的・基本的な知識の定着に、効果的で優れている。 ○和楽器の奏法が写真等を使って解説されるとともに、楽器の編成が一覧にまとめられるなど、基礎的奏法や知識の定着に向けた工夫が効果的である。	○「音楽学習 MAP」や目次に学習内容の全体像や目標、また、各題材の目標と学習活動の手がかりとなる「共通事項」が示されていることで、学習のめあてと見通しを捉えやすく、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながっている。 ○巻末や小单元ごとにアルトリコーダーの新しい運指をまとめて示すなど、段階的に学習できるよう教材が工夫されており、生徒が必要に応じて主体的に学習することができる。 ○楽器の基礎的な奏法について、手元を拡大した写真等を使用した解説や裏表紙に伝統音楽の楽器編成をわかりやすくまとめるなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得に生かすことができる。
講評		■題材及び教材で何を学べばよいのか、また楽器の基礎的な奏法等が、わかりやすく簡潔に示されており、生徒が主体的に知識・技能を習得する学習につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○楽曲ごとに「共通事項」を手がかりとした演奏の目標が具体的に示され、それぞれの教材の学習目的がわかりやすく、思考力・表現力を高める活動のヒントとなり、優れている。 ○奏法により楽器の音色のちがいを感受することや、バチの持ち方で音色が変化することなどの視点を示すことにより、言語活動を促す工夫がされている。 ○声部の役割や曲想の変化による音楽表現のちがいを解説するなど、生徒の思考力・判断力等の育成に向けた工夫がされている。 ○「アンサンブル」において、その楽曲を演奏する上でのヒントが具体的に示されており、グループ演奏でどのように創意工夫するかについての言語活動を展開しやすい。	○それぞれの楽器の奏法によって生まれる音色の違いや音色の変化などを感受したりするための演奏のポイントが、考え、表現することから気づけるよう示されており、言語活動を取り入れた授業が展開しやすい。 ○「アンサンブル セミナー」では、その楽曲を表現力豊かに演奏する上でのヒントが、手順に沿って具体的に示されており、グループ演奏でどのように創意工夫するかについて、個人又は集団で思考、判断し、表現につなげることができる。
講評		■生徒が学習活動の見通しを持つことができる工夫に加え、グループ活動等によって主体的に対話的に協働しながら学習を進める幅広い形態が提案されており、思考力、判断力、表現力の育成につながっている。

3 興味・関心や生活経験に目を向けた題材や内容構成で、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○演奏家のコメントで様々な楽器を紹介するとともに、奏法の写真を豊富に掲載するなど、生徒の学習意欲を喚起する工夫がされている。 ○「美女と野獣」「トリステータ」等のポピュラー曲を取り入れ、生徒が興味をもって学習できるよう工夫されている。 ○Q&Aや「和楽器こぼれ話」「音を聴いて確かめよう」などのコラムが随所に盛り込まれ、主体的な学習から問題解決的な学習につなげる工夫が優れている。	○演奏家のコメントによる楽器紹介や奏法の拡大写真が豊富に掲載されており、生徒が主体的に学習しようとする意欲の喚起につながっている。 ○選曲されている楽曲は、旋律的にも美しく、また生徒が日常生活でも触れるポピュラー曲が数多く取り上げられており、意欲的・主体的に取り組むことができている。 ○楽曲での学習に加え、生徒の興味を引くQ&Aやコラムが随所に盛り込まれており、生徒の視野を広げ、好奇心を刺激するなど、主体的な学習から問題解決的な学習につなげる工夫が展開しやすい。
講評		■様々な楽器に関心をもって学習に取り組めるよう、多様な楽曲、演奏家のコメント、演奏・楽器写真、コラム等が豊富に掲載されていることで、生徒の器楽に対する視野を広げ、意欲を高めることにつながっている。また、多様な楽曲に触れることで、その共通点や相違点に気づき、問題解決的な学習に結びつきやすい。

4 音色の美しさや演奏の楽しさに触れるため、我が国及び諸外国における弦楽器・管楽器・打楽器等の様々な楽曲が古典から現代にわたってバランス良く取り上げられるなど、豊かな情操を養うことができるよう教材が工夫されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○弦楽器は箏・三味線・ギター、管楽器はリコーダー・尺八・篠笛、打楽器は和太鼓の他にラテン楽器が取り上げられていることが、特徴的である。基本的な奏法を学ぶ練習曲に加え、歌い継がれている日本の名曲、諸外国のポピュラーや現代作曲家の曲まで幅広い楽曲が充実しており、様々な音色や演奏に触れることができるよう配慮されており、優れている。 ○また、ピアノ、鍵盤ハーモニカ、ビブラフォンなど鍵盤楽器が、アンサンブルの中で取り上げられ、様々な楽器を使った幅広い曲の中から選曲し、豊かな情操を養うことができるよう配慮されている。	○様々な楽器の基本的な奏法を学ぶ練習曲に加え、歌い継がれている日本の名曲、諸外国のポピュラーや現代作曲家の曲まで楽曲が充実しており、また、様々な楽器を使用する楽曲が幅広く選曲されており、様々な音色や演奏に触れる多様な授業展開によって、豊かな情操の育成につながっている。
講評		■西洋音楽の楽器だけではなく、和楽器や世界の諸民族の楽器も取り上げており、我が国や郷土の伝統音楽への理解を深め、様々な音楽文化に対する興味・関心を高めることに効果的なものとなっている。

5 「表現」及び「鑑賞」に関する内容相互の関連が図られるとともに、授業時数に照らして、全体の分量や難易度が適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「名曲スケッチ」において、有名な鑑賞曲の一部を演奏することにより、器楽と鑑賞の関連付けが図られている。 ○箏による「さくらさくら」の前奏創作活動が取り上げられており、楽器の指導と創作を関連付けて行うことができる。 ○「アンサンブル セミナー」では、学習進度や生徒の習得状況にあわせて「Step1」「Step2」のどちらまで学習するか選択できるようになっており、柔軟に指導時間を設定できるよう工夫されている。	○「名曲スケッチ」において鑑賞曲の一部を演奏することで、表現と鑑賞の関連付けを図り、鑑賞への興味・関心を高めることにつながっている。 ○箏による「さくらさくら」の前奏創作活動は、音楽一般の民謡音階を使つての創作活動との関連を図ることが可能であり、和楽器の指導と創作活動を系統的に関連付けて行うことができる。 ○「アンサンブル セミナー」が、学習進度や生徒の習得状況にあわせた柔軟な指導時間の設定が可能となっている。
講評		■様々な楽曲を実際に演奏（表現）する活動が随所にみられることで、楽曲の導入や展開の工夫につながり、生徒が鑑賞教材の音色や響き、奏法の特徴、表現力の豊かさを感じ取ることができている。

6 多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気づき、尊重する態度の育成を図るとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を育てよう配慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○古典から現代にわたり、大小様々な編成のアンサンブル曲や日本の伝統音楽、その手法を用いた曲を掲載し、多彩な音楽の美しさや豊かさを味わうことができるよう配慮されている。特にラテン打楽器が扱われていることは特徴的であり、充実している。 ○箏の楽譜は、古来の縦書きの楽譜が重視されており、日本の伝統を感じさせるだけでなく、五線の楽譜に対する苦手意識がある生徒にとって取り組みやすいよう配慮されている。また、伝統音楽への関心を育てるため、単に楽器の特性や奏法にとどまらず、それら楽器の音や音楽の持つ特徴に関する内容（よく響く場所等）を取り上げており、優れている。 ○篠笛・尺八などの難易度の高い楽器は、2音だけで簡単に演奏できる曲を取り上げ、成功体験を持たせることで、伝統音楽への関心を高める工夫がなされている。	○幅広い時代の楽曲や大小様々な編成のアンサンブル曲を取り上げ、多彩な音楽の美しさや豊かさを味わうことができている。 ○箏の楽譜は、古来の縦書きの楽譜が用いられ、日本の伝統を感じられるとともに、五線の楽譜を読めない生徒にとって、主体的に箏の表現活動を行うことにつながっている。また、楽器の特性や奏法にとどまらず、それら楽器の音や音楽の持つ特徴とその特徴を効果的に引き出す重要性など、伝統音楽への関心の幅を広げられている。
講評		■様々な楽曲の演奏を通じて、和楽器を含めた多様な音楽の美しさやよさを味わい、楽器の表現力の豊かさや繊細さを感じ取るとともに、我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気づき、それらを尊重する態度や我が国の伝統音楽への関心を高めることにつながっている。

7 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○日本の音楽やポピュラーソングに加え、「名曲スケッチ」として、日常生活でもよく耳にするような幅広い楽曲との出会いとなるメロディーを紹介することで、将来にわたり音楽に触れ、学び続けようとする意識付けを図っている。 ○クラシックからポピュラー、日本の伝統音楽、諸外国の民族音楽など、様々なジャンルから教材が選曲されており、多用な音楽に触れることで、探究意欲を高め、さらに発展的な学習や生涯にわたって学び続けるきっかけとなるよう工夫されている。	○日常生活でもよく耳にするような楽曲をはじめ、幅広い視点で様々なジャンルの教材が選曲されており、音楽に親しむことを出発点として、音や音楽への探究意欲を高め、学び続けようとする意識付けの涵養につながっている。
講評		■日常生活でよく耳にする楽曲や様々なジャンルの楽曲が取り上げられており、生活や社会の中で音や音楽が果たしている役割についての探究的な学習や、様々な音楽文化と豊かに関わろうとする資質・能力を育むことにつながっている。

8 題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連に配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○基礎的な技能の段階を踏んだ適切な教材配列で、楽器ごとに発展的な課題が設定されるとともに、学校行事への活用も図られている。 ○和太鼓や鍵盤ハーモニカ、手拍子を使ったアンサンブルが取り上げられ、小学校音楽との関連について十分に意識されている。 ○「調べてみよう」として、自分たちの住んでいる地域の伝統音楽を外国の人に紹介できるよう調べる学習を通して、地元の伝統音楽に関心を持つとともに、情報教育、生き方探究（キャリア）教育、環境教育との関連を図ることができるよう工夫されている。	○基礎的な技能習得の段階を踏んだ適切な教材配列により、生徒の技能習得度合いに応じた指導とともに、学年や学校単位での学校行事に活用しやすい。 ○情報教育、生き方探究（キャリア）教育、環境教育と関連付けた調べ学習を通して、教科横断的な視点での授業を進められている。
講評		■様々な表現活動が可能な教材が、小中の連携も踏まえて系統的・発展的に取り上げられており、学校の様々な場面で活用しやすい。また、カリキュラム・マネジメントの視点から教科横断的な学びも進められている。

9 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○和楽器を教材として扱い、日本の伝統音楽への意識付けを図るとともに、リコーダーやギター、ラテン打楽器を使って、諸外国の音楽の良さや美しさを感じられる工夫がなされている。 ○和楽器の演奏にあたり、演奏を通して身に付けさせたい礼節を重んじる心や他者を思いやる心に関して記述されており、優れている。 ○創作活動やアンサンブル活動を通して、協力して作品をつくり上げることや、団体で演奏することを通じて、人権教育や道德教育との関連が図られている。	○和楽器の表現活動を通して日本の伝統音楽のよさを味わい、また、リコーダー、ギター、ラテン打楽器の表現活動を通して多様な音楽文化のよさを味わうことで、諸外国の音楽の良さや美しさを感じとることができている。 ○和楽器の表現活動を通して、演奏を通して身に付けさせたい礼節を重んじる心や他者を思いやる心を育てることができている。
講評		■主に表現活動を通して、他者と関わりながら音楽表現を創意工夫することを通して、礼節を重んじる日本の精神文化を体感したり、日本の伝統音楽に愛着を持ち、世界の様々な音楽文化の多様性を尊重する態度の育成につながっている。

10 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○文字の大きさや色使いに加え、ページのレイアウトもシンプルで無駄な装飾がなく、ユニバーサルデザインに配慮されている。特別支援教育の配慮も感じられる。 ○一般と器楽の表紙の色が一見して区別できるよう工夫されるなど、支援の必要な生徒をはじめ、すべての生徒への配慮がなされている。 ○和太鼓や鍵盤ハーモニカ、手拍子を使ったアンサンブルが多く取り上げられており、リコーダーなど通常の楽器を演奏することにハンディがある生徒も楽しみながら演奏することができるよう配慮されている。 ○再生紙を使用し、造本も丈夫である。	○各ページのレイアウトはシンプルで見やすく、各項目の配置も適切で、配色や写真等も美しく、支援が必要な生徒にも見やすく、扱いやすい。 ○和太鼓や鍵盤ハーモニカ、手拍子を使ったアンサンブルが多く取り上げられており、リコーダーなどの楽器を演奏することに配慮を要する生徒も楽しみながら演奏することができている。
講評		■ユニバーサルデザインの観点から、すべての生徒にとって様々な楽器の奏法が視覚でわかりやすく確認することができ、見やすく使いやすいものとなっている。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

光村図書出版「美術」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

各単元の分量のバランスがよく、指導者の創意工夫を生かしながら、豊富な題材を柔軟に選択して学習を進めることができている。また、各題材に示された４観点の「目標」や文頭のチェック欄は、付けたい力など生徒が学習活動の目標を意識的に振り返りながら、見通しを持った学習を行ううえで、効果的である。さらに、各題材の目標と関連付けて〔共通事項〕の内容を含んだ問いが設定されていることで、常に「造形的な見方・考え方」を働かせた学習活動につながっている。小学校からの接続や各教科等や教育課題との関連付けなどに配慮された様々な工夫により、カリキュラム・マネジメントを意識した学習指導の充実につながっている。生活の中の造形や美術の働きを実感させる日常に根差した題材や場面が豊富で、美術への興味・関心を高めるとともに、美術と社会の結び付きを幅広い視点で関連付けた問題解決的な学習が充実している。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

題材のテーマに沿った多くの作品や図版に加え、生徒自身が考える過程や試行錯誤しながら作品を完成させていく活動例など、発想や構想を練るヒントが豊富に掲載されており、また、原寸大の全体作品と細部の写真は、造形的な視点で捉え、見方・考え方を働かした鑑賞活動や言語活動の充実に有効に活用できている。「学習を支える資料」に掲載されている技法や表現方法等の技能的な内容の他に、世界・日本美術史や身近な美術史用語の解説等の豊富な情報を活用して、制作中心の学習から対話的な学習への広がりが見え始めている。さらに、色や形の表現の違いに気付いたり、発想の幅を感じたりするなどして、作者の発想・構想について、生徒自ら考察し表現するなど、言語活動の充実につながっている。

4 令和２年度使用教科書について

各題材に、４観点の目標と振り返り欄、「共通事項」の内容を漏れなく示すことで、基礎的・基本的な内容の定着、言語活動の充実、思考力・判断力・表現力の育成に向けた配慮が優れている。また、生活の中の造形や美術の働きを実感させる題材を取り上げるとともに、美術と社会の結び付きを幅広い視点で関連付けるなど、新学習指導要領が改訂の要点として挙げる「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成」「社会の中の美術の大きな役割に気付かせる」に十分な活用ができると考える。そのため、令和２年度においても、現教科書である光村図書出版を継続して使用することが適切であると考ええる。

【美術科】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：光村図書出版>

1 美術科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各題材名の横に4観点の「目標」を示し、付けたい力や学習のねらいを明確にしている。また、それぞれの「目標」の文頭にチェックマーク欄を設け、生徒自らが学習を振り返り、目標が達成できたかを確かめられる工夫が優れている。 ○各題材の「目標」の下に〔共通事項〕の内容を示し、すべての学習活動において、常に意識できるようにしている点は、優れた工夫である。 ○巻末の「学習を支える資料」等において、様々な素材での道具の使い方や技法、表現方法、美術史や作家コラムといった幅広い内容を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る工夫が優れている。 ○表現中心の題材で巻末の「学習を支える資料」に関連する題材には「巻末資料へのリンクマーク」を示し、表現活動に取り組む際に自ら参照して確実に習得できるよう工夫がなされている。 ○扱いに注意が必要なものについて、「安全の注意」マークと説明をつけて安全な使い方が身に付けられるよう配慮されている。 ○「学習を支える資料」の「トピック美術史」で、美術史の中で重要な流れに関する内容や学んでもらいたい美術史用語を整理して取り上げ、知識・理解を深められるよう配慮されている。 ○「映像メディアを活用する」のページで、肖像権や著作権についての配慮を記述し、注意を促している。	○各題材ごとに示されている4観点の「目標」や文頭のチェック欄により、付けたい力やねらいを確認したり、到達度や課題を確認したりしながら、見通しを持った学習が効果的に進められている。 ○各題材の目標と関連付けて〔共通事項〕の内容を含んだ問いが設定されていることで、常に造形的な見方・考え方を働かせた学習活動につながっている。 ○各題材には、技法や表現方法等が幅広く掲載された巻末の「学習を支える資料」へのリンクマークが示されており、主体的な学習が促されるとともに、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得につながっている。 ○「学習を支える資料」には、技法や表現方法等の技能的な内容の他に、世界・日本美術史や身近な美術史用語の解説等が掲載されており、鑑賞の学習においてその時代の背景や様式がイメージしやすく、生徒の興味・関心を高め、基礎的・基本的な知識を深めることにつながっている。
講評		■各題材で、目標や付けたい力など何を学習すればよいかが簡潔に示されるとともに、〔共通事項〕を含んだ問いやリンクマークを活用することで、自分の思いや意図に沿った表現や鑑賞活動を主体的に行うために必要となる知識・技能の習得につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○発想や構想を練る際のヒントを設けるとともに、「作者の言葉」や「作品解説」、作家が実際に使用しているアイデアノートを掲載するなど、作品を生み出すための工夫や努力の過程を感じ取れるようにして、制作過程における思考力・判断力・表現力の育成を助ける工夫が豊富である。 ○「語り合おう」「話しあおう」「考えてみよう」など、言語活動につながる問いかけを各ページの「目標」の欄に示し、また、その内容を〔共通事項〕に関しても設定するなどして、生徒を色や形・材料に視点を向けた鑑賞活動へ導く工夫が優れている ○「作者の言葉」として、中学生の言葉が掲載され、作品に込めた思いを知ることで、生徒自らの思考・判断・表現へのヒントとなっている。 ○ページの中に吹き出しによる「問いかけ」を設けるなど、生徒が作品の印象や思いを言葉で表現することを助け、言語活動が行いやすくなるよう配慮されている。 ○豊富で多様な作品や写真とともに、作品に合わせた詩を掲載したり、原寸大の図版として4点異なる分野の作品を掲載し、それらを一緒に味わったり、見比べたりすることで、発想の幅を感じたり、発想の自由さや広がりについて考えさせやすく、言語活動が充実している。	○「作者の言葉」や「作品解説」、作家が実際に使用しているアイデアノートを掲載するなど、発想・構想するための工夫や過程を実感的に捉えられる工夫が、思考力・判断力・表現力を高める手だてとなっている。また、独自のアイデアを思い描くことが苦手な生徒にとって、イメージを広げ、構想を練るヒントとなっている。 ○各ページの「目標」欄に示された言語活動につながる問いとともに、その内容を〔共通事項〕にも関連付けることなどにより、各題材を造形的な視点で捉え、見方・考え方を働かせた鑑賞活動の充実につながっている。 ○各領域において、原寸大の作品と図版を一緒に味わったり、また、全体と一部分を見比べたりすることで、色や形の表現の違いに気付いたり、発想の幅を感じたりするなどして、作者の発想・構想について、生徒自ら考察し表現するなど、言語活動の充実につながっている。
講評		■題材のテーマに沿った多くの作品や図版に加え、生徒自身が考える過程や試行錯誤しながら作品を完成させていく活動例など、発想や構想を練るヒントが豊富に掲載されており、言語活動の充実につながっている。また、原寸大の全体作品と細部の写真は、〔共通事項〕と関連付けることで、各題材を造形的な視点で捉え、見方・考え方を働かせた鑑賞活動の充実につながっている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、多様な表現方法や造形要素に関心をもたせる題材の構成が工夫されているとともに、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○観点別目標の提示や、コラムで学習を深める内容を示すことで、意欲的・主体的に学ぶことができるよう工夫されている。 ○鑑賞用の図版として、折込みの見開き4ページを使い、パノラマ的な迫力ある作品鑑賞ができるよう工夫されている。 ○「原寸大で鑑賞しよう」のページでは、平面だけでなく、彫刻的・工芸的な作品も含め、大きさや質感、表情が実感できるよう、原寸大の写真と定規を模したスケールを掲載することで、多様な表現方法や造形要素に関心をもたせ、意欲的・主体的に学ぶことができるよう題材の構成が優れている。 ○大型図版を掲載する意図が明確で、生徒の意欲的・主体的な学びに対して効果的である。 ○絵巻物の鑑賞題材で、現代の漫画に通じる表現を取り上げ、多様な表現に関心を持たせる工夫がなされている。 ○「みんなの工夫」で、制作過程の工夫やアイデアスケッチの工夫の例を提示したり、作家自身のスケッチブックの内容を一緒に取り上げたりするなど、生徒の意欲的・主体的な学びを引き出す工夫となっている。 ○主にデザイン・工芸の題材を中心に、生活の中の造形や美術の働きを実感させる題材を取り上げるとともに、美術と社会の結び付きを幅広い視点で関連付け、問題解決的な学習につながるよう工夫されている。	○「原寸大で鑑賞しよう」において、各領域の作品を高精細の写真で掲載することで、大きさや質感、被写体の表情や素材の触感をも感じ取ることができるため、多様な表現方法や造形要素に対する興味・関心を高め、意欲的・主体的な学びに結びついている。 ○題材において、生徒が主題を生み、試行錯誤の中で表現していく過程そのものや、制作中のまなざし、作品が完成した際の喜びの表情等が取り上げられており、生徒が自身の思いや表現に自信をもって作品づくりに取り組めるなど、学習に対する主体性を喚起することにつながっている。 ○「生活に生かそう」とのマークが設定され、生徒が制作した作品を身近に飾ったり、日常的に活用したりする具体例が紹介されており、また、主にデザイン・工芸の題材を中心に、生活の中の造形や美術の働きを実感させる題材を取り上げるとともに、美術と社会の結び付きを幅広い視点で関連付けており、問題解決的な学習を促している。
講評		■高精細の写真が掲載されるとともに、制作過程を主題の生成から試行錯誤を経て完成に至るまでの具体例の提示など、多様な表現方法や造形要素に対する興味・関心を高めつつ、個人によって異なる感性を尊重し、主体的に多様な表現を追求する態度の育成につながっている。また、美術科での学びが暮らしや社会でも生かされていることを紹介することで、身近な場面の中での問題解決的な学習を促している。

4 表現活動と鑑賞活動の有機的な関連が図られ、かつ創造的な内容が取り入れられているとともに、内容に偏りがなくバランスがとれ、題材の配列にも配慮されており、全体の分量も適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○インデックスの表示に縛られず、指導者のねらいによって表現活動にも鑑賞活動にも活用することができるなど、作品を様々な視点から捉えることができるよう工夫されている。 ○鑑賞中心の題材には、関連する表現活動の内容が提案されており、表現活動と鑑賞活動の関連に配慮されている。	○各単元の分量のバランスがよく、指導者の創意工夫を生かしながら、豊富な題材を柔軟に選択して学習を進めることができている。 ○鑑賞活動の題材に、表現活動に関連した問いが提案されており、鑑賞活動と表現活動を相互に関連付けた学習活動の充実につながっている。
講評		■表現活動、鑑賞活動のすべての学習活動の中で、造形的な見方・考え方を働かせた表現と鑑賞との相互の関連付けが図られており、それぞれの学習効果の相乗的な高まりにつながっている。

5 心豊かな生活を創造する意欲と、美術を愛好する心情を育てるとともに、国際理解を進め、伝統と文化を尊重し、そのよさを継承・発展させる態度の育成が図れるよう工夫されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○焼き物や和菓子、各地の伝統工芸等を取り上げ、生活を豊かにする工夫、美術を愛好する心情を育てる工夫がなされ、伝統と文化を尊重しながらも、良い部分を現代の生活に取り入れ、継承・発展させる態度の育成が図れるよう工夫されている。 ○生活の中の美術を感じる内容のコラムが随所に掲載され、心豊かな生活を創造する意欲と美術を愛好する心情を育てよう工夫されている。 ○世界の様々な地域の文様では、日本を中心としながら諸外国の伝統文様を紹介して、国際理解とともに、伝統と文化を尊重する態度の育成につながるよう配慮されている。 ○「トピック美術史」では、日本の美術工芸品がヨーロッパの画家や工芸家に影響を与えたことを学び、「アジアをつなぐ仮面」では日本の能面と韓国、中国、プータンの舞の面を比較して、「文様、飾りの小宇宙」の題材とあわせて、より豊かな異文化理解と交流の面から国際理解教育を進める工夫がなされており、優れている。	○各地の伝統工芸や生活の中の美術を取り扱った題材が数多く取り上げられており、紙や木、金属やガラス等、素材にも着目するなど、美術を愛好する心情や伝統と文化を尊重する態度の育成につながっている。 ○生活の中の美術を感じる内容のコラムが適宜掲載されており、日常の場面で造形的な見方・考え方を働かせて、豊かな生活を創造する意欲と態度の育成につながっている。 ○多様性のある日本の美術工芸や、同じ機能や目的であっても国や地域によって、美術的な特徴や個性を多様に発展させた作品等が紹介されており、異文化を尊重する態度の育成など国際理解教育の視点からの授業の充実が図れている。
講評		■全体を通して、我が国で大切にされてきた日常の中にある伝統と文化が積極的に取り上げられるとともに、諸外国や諸地域の作品も紹介することで、美術を愛好する心情や国際理解、伝統と文化の尊重とそのよさを継承・発展させる態度の育成につながっている。

6 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各巻の冒頭で、小学校の図画工作の振り返りから、身の回りのデザインや美術を意識させ、美術の学習で身に付けた力を生かすことで、私たちの暮らしや社会を豊かにすることが実感できるような配慮が優れており、それが生徒の動機づけとなって、生涯にわたって学び続ける態度を育てようとしている。 ○日常に生きる工芸やデザイン作品を多く掲載するとともに、美術館でのギャラリートークや公開制作活動等を紹介するなど、探究意欲の向上と生涯にわたって学び続ける姿をイメージできるよう工夫されている。 ○「暮らしやすい町づくり」では、表現学習としてジオラマ風の模型を取り上げ、発展的な学習につなげる工夫がなされている。	○小学校の図画工作の振り返りから中学校の美術科で学ぶ内容を概観し、生活に生かせる美術の活動が随所に示されるなど、美術を学ぶ意義やその可能性の広がりを感じ取り、生涯にわたり学び続ける態度の育成に有効に働いている。 ○身の回りにある美術や日常の中に生かされている場面が数多く掲載され、また美術作品の扱い方や鑑賞の楽しみ方、美術館の美術啓発等の活動が紹介されるなど、生涯にわたって学び続ける姿を生徒自身にイメージさせる指導が行いやすい。 ○習得した知識・技能を活用して取り組む課題として、生徒の関心を引くようなジオラマ風の模型を取り上げるなど、さらに発展的に学ぼうとする動機付けとなっている。
講評		■美術の専門的な知識だけでなく、生徒の体験や日常生活に根差した題材や場面等を豊富に取り上げることで、日常の中の美術に興味・関心を高め、学習した内容を生活に生かして、生涯にわたり美術を愛好する心情の育成に向け、等身大の中学生の視点を大切にした授業が進められている。

7 題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○1年では身近な生活の中から題材を取り上げ、美術へのつながりを意識した活動が盛り込まれ、2・3年ではその活動をさらに深めていくとともに、社会に目を向け、環境問題や平和に対する問題意識を持てるよう系統的・発展的な課題が設定されている。 ○1年冒頭の「美術って何だろう？」では小学校の図画工作科から中学校の美術科への流れが、2・3年冒頭の「朝起きてから夜眠るまでの美術」では生活や社会での美術の働きが示されており、他校種との関連や題材構成の発展性について配慮されている。 ○美術史年表や「トビックス美術史」など、社会科歴史的分野との関連について配慮されている。 ○社会で活躍する美術家やデザイナーなどの活動の様子や言葉が掲載されるなど、生き方探究（キャリア）教育との関連が図られている。 ○「ともにつくる喜び」では、プロジェクト型の取組を取り上げており、特別活動や総合的な学習の時間との関連について配慮されている。	○1年生では小学校の図画工作の振り返りと身近な生活に根差した題材から始まり、2・3年生では環境問題や平和に関する社会の中の美術を取り上げるなど、3年間を通した系統的な題材構成により、学年に応じて発展的な課題に取り組めるようになっている。 ○プロジェクト型の取組、美術科やデザイナーの活動の様子や言葉の紹介、多様な素材と伝統的な工芸品との関連など、日常の中にある美術を意識しながら、美術科と他の教科等との関連付けた学びが進められるよう、多様な題材や特設ページが取り上げられており、教科横断的な学習が広がりを持たせている。
講評		■小学校からの接続や各教科等、教育課題との関連付けなどに配慮された様々な工夫により、カリキュラム・マネジメントを意識した単元構想につながるとともに、日常生活において美術が生かされていることを実感しながら目的意識を持って学習を進めることができるようになっている。

8 基本的人権の尊重及び道德性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道德教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「みんなのためのデザイン」でユニバーサルデザインの例を、「暮らしやすい町づくり」「夢を形にするデザイン」で障がいのある人が無理なく社会生活を営めるよう工夫されたデザインの例を学ぶなど、人権教育との関連について配慮されている。 ○道德教育について、関連する内容には「ハートマーク」が付され、その内容が分かりやすく明示されるとともに、「自画像、今を生きるあなたへ」では、自分と向き合うことをテーマとして、自己の向上を図り、また、東日本大震災に関連した内容も含まれるなど、よく工夫されており優れている。	○ユニバーサルデザインや障がいのある方のために工夫されたデザインなど、美術が人権問題の解決に向けて生かされている例を学習することで、美術科における人権教育の充実が図れている。 ○道德教育と関連する学習内容には、「道德との関連」とするハートマークが付され、他者への思いやり、伝統文化、平和などの項目が積極的に取り上げられている。また、全体を通して、東日本大震災による困難な状況にある他者の実情や気持ちに共感し寄り添うために生かされた美術やデザインが紹介されており、美術が人を癒す作用があるとともに、生徒が自分なりのできる支援の幅の広がりにつなげていくことができている。
講評		■全体を通して、取り上げる作品の著作者について性別による偏りに配慮されていたり、東日本大震災を通じた美術やデザインの有用性を取り扱うことで、美術科における実践的な人権教育や道德教育の推進につながっている。

9 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で美しく使いやすいことに加えて、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○特別支援教育およびユニバーサルデザインの観点から、専門家の校閲を受け、全体に識別しやすい色が選ばれ、特に「色相環」には12色相の色名を記載するなど、色覚特性への配慮が充実している。また、文字の大きさ・種類を役割によって使い分けたり、枠囲みを使ったデザイン処理など、支援が必要な生徒にもわかりやすい紙面で優れている。 ○インデックスや目録、発想のヒントなど、視認性の高い色やマークを効果的に使い支援を必要としている生徒にも理解しやすい。 ○印刷効果の高いコート紙を使い、印刷も美しく、特に伝統文化である屏風の金色がよく再現できている。 ○環境に配慮した紙、植物油インキを使用し、造本も丈夫である。 ○2・3年を一冊にまとめることにより、題材選択の幅を広げ、実態に応じた選択ができる編集集とするとともに、各学年段階で必要な経験などを配慮して各題材の推奨学年も目安として示されている。	○ユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、(財)日本色彩研究所によるPCCSの表記に則り、色覚特性のある生徒が文字でも色を認識できるよう色相環に色名が入れられている。また、本文や解説文などの文字が適切な大きさで、読みやすい書体が採用されているとともに、未習漢字や固有名詞などには読み仮名を振るなど、すべての生徒にとって使いやすい。 ○全体の内容がひと目でわかる目次や、視認性の高い色やマークを効果的に使用するなど、すべての生徒に使いやすく、機能的な学習につながっている。 ○色相環の図も日本色彩研究所の配色カードと近く、金箔の金色の美しさなど作品の色も忠実に再現され、高精細で鮮明度が非常に高い。作品の細部の表情や色彩からの読み取りや気付きが促される部分も多く、特に鑑賞学習で高い効果がみられている。
講評		■ユニバーサルデザインの配慮、視認性の高いマークの使用、作品の細部まで忠実に再現する高精細な配色など、すべての生徒にとって使いやすく、特に鑑賞学習で効果がみられるなど、表記や写真等の工夫・配慮が美術科の学習を深めるための支援になっている。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

東京書籍 「新編 新しい保健体育」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

各単元の最初のページにおける単元全体を通した学習課題や目的の明示、また、各章末の学習内容の振り返りや自己評価の設定により、生徒は見通しをもって学習に取り組みやすく、基礎的・基本的な知識・技能等の習得につながっている。また、知識や理解を深める課題の提示、また、課題解決型学習の提示など、学習内容を段階的に深める授業が展開しやすく、発展的に思考する手立てとして有効に働いている。さらに、多様な学習方法とともに、「考えてみよう」「やってみよう」「生かそう」など課題を発見し、その解決に向けて、思考し判断するとともに、他者に伝える力を育成するための学習活動の提案が豊富で、思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の充実につながっている。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

豊富に掲載されている興味・関心を引く資料・題材や読み物資料などを活用するとともに、「今日の課題」「やってみよう」「考えてみよう」「生かそう」など、日常生活における今日的な健康に関する話題・課題を中心に上げた特設コーナーを活用することで、生徒の興味・関心を高め、身近な課題を題材とした学習から、問題解決的な学習へつなげたり、探究意欲を引き出す授業改善が進められている。また、がん教育や自助・共助・公助などについて、発展的な学習につながる資料や、「他教科マーク」「リンクマーク」といった多様なマークから、保健分野と体育分野との関連と他教科や総合的な学習の時間等との関連付けが図られており、カリキュラム・マネジメントの視点を意識した指導に生かせている。

4 令和２年度使用教科書について

全体的にバランスがよく構成されており、健康に関する事例や資料も豊富で、基礎的・基本的な知識・技能等の習得から言語活動、問題解決的な学習の展開までよく工夫されている。小学校や高等学校での学習内容の系統性・継続性の見通しを示すとともに、他教科、保健分野と体育分野との関連もマークもわけて細かく表示するなど明確でわかりやすい。単元ごとの章扉や随所に盛り込まれた小学校の学習の振り返り学習等により、新学習指導要領の改訂の趣旨である小・中・高等学校を通じた系統的・継続的な学習に役立っている。そのために、令和２年度も現使用教科書である東京書籍を継続して使用することが適切であると考ええる。

【保健体育科】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：東京書籍>

1 保健体育科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各単元で、学習課題や目的が明示され、見通しを持って学習が進められるよう工夫されている。 ○項目ごとに導入からまとめまでの学習の流れが、順序立てて丁寧に示されるなどの工夫がなされている。 ○各単元に、学習内容に関連した「読み物」を配置するとともに、各章末に自然災害やオリンピック・パラリンピックなど生徒の興味・関心を引く資料や題材等を掲載するなど、学習した内容を深める工夫がなされている。 ○各章末に「確認の問題」が設けられており、学んだ内容を振り返ることで、知識の定着を図れるよう工夫されている。 ○自然災害について、実際の地震発生時の行動を考える場面設定がなされるなど、内容や資料が充実しており、また、「共に生きる」として、災害発生後の共助、公助について、発展的な学習できるよう配慮されているなど、優れている。	○各単元の最初のページに、単元全体を通した学習課題や目的が明示されており、どのようなことを学ぶのかについて見通しをもって学習に取り組めており、基礎的・基本的な知識・技能等の習得につながっている。 ○巻頭や章末に、学習内容に関連した読み物や学習への動機付けとなる資料等が掲載されており、主体的な学習を促し、学習内容をさらに深めることにつながっている。 ○各章末に「確認の問題」や「学習を振り返ろう」が設定されており、学習内容を振り返り、自己評価することを促している。また、「活用の問題」として、習得した知識を活用して考える問いが設定されているなど、知識・技能の確実な習得を図る手立てとして有効に働いている。
講評		■学習課題や目的の明示とともに、学習内容の振り返り、自己評価を促す項目や、生徒の学習への動機付けとなる読み物や資料等がバランスよく配列されており、学習の見通しを持ちながら、意欲的に学習に取り組むことで、基礎的・基本的な内容の習得につなげることができている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「考えてみよう」「やってみよう」として、単元の授業の半ばから後半にかけて、それまでに習得した知識を活用し、話し合う・発表するなどの活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、言語活動の展開につなげる工夫がなされている。 ○「生かそう」として、学習したことを自分の生活に生かしたり、さらに深く調べたりするための課題を設定し、実践力の育成を図る工夫がなされている。 ○章末資料に、書籍や実際に新聞に掲載された文章を取り上げることで、読解力を高める工夫がなされており、優れている。 ○思考力・判断力等を高めるため、ブレインストーミングなどの学習方法がイラストなどでわかりやすく紹介されており、場合に応じて複数の学習方法を組み合わせて展開することが提案されるなど、充実している。	○各単元に、習得した知識を活用して取り組む多様な課題が設定されており、主体的に考え、話し合い、発表するなどの言語活動に取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。 ○ブレインストーミングやロールプレイングなどの多様な学習方法がわかりやすく示されており、それらを活用することで授業展開に幅を持たせることができ、生徒が意欲的に学習に取り組む姿勢や態度の育成にもつながっている。 ○各単元の「リンク」で示された学習内容と、章末資料で取り上げられた書籍や新聞記事、各省庁の資料等とを結び付けた学習を取り入れることで、読解力の向上とともに、調べたことをもとに課題解決の方法を見出し、筋道立てて説明する学習活動が促されている。
講評		■多様な学習方法とともに、「考えてみよう」「やってみよう」「生かそう」など課題を発見し、その解決に向けて、思考し判断するとともに、他者に伝える力を育成するための学習活動の提案が豊富で、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育成する学習活動の充実につながっている。

3 自らの健康に関する課題を解決し、健康を管理・改善することができるよう、生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるための問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○基本的な内容から、自転車事故や新型インフルエンザなど生徒を取り巻く今日的な健康や安全にかかわる課題を重視した資料等が充実し、意欲的な学習活動につながるように配慮されている。 ○各時間の導入で、「今日の学習」「やってみよう」を設け、学習の見通しを持つことで、学習意欲を高めることができるように工夫されている。 ○学習した内容を自分の生活に生かしたり、さらに調べたりする活動例が丁寧に示されており、主体的な探究活動を促すよう工夫されている。	○健康に関する資料に加え、災害安全、交通安全、生活安全などの安全領域や心の健康などの補充資料が豊富で、生徒の関心や意欲を高めることにつながっている。 ○「今日の課題」「やってみよう」「考えてみよう」「生かそう」などは、日常生活における今日的な健康に関する話題・課題が中心に取り上げられており、生徒に身近な課題からその解決に向けた学習を提案するなど、生徒が意欲的に問題解決的な学習に取り組むうえで有効に働いている。
講評		■健康に関する関心を高められるよう、身近な話題の補充資料等が充実しており、また、それらの課題を解決するための学習活動が随所に提案されていることで、主体的な学びや問題解決的な学習の展開が図られている。

4 健康な生活を送るために、健康や運動について必要な知識・理解を深化させ、習得した知識を活用した学習が積極的に行えるよう配慮されているとともに、適切な意思決定や行動選択ができるよう工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○習得した知識を活用し、次に取り組む学習課題や活動が提示されるとともに、さらに日常生活等の身近な場面に置き換え、より具体的な活用へと導くよう工夫されている。 ○「生かそう」として、学習した内容を生かした課題が示され、知識や理解を深めた後、章末の「確認問題」「活用問題」で、具体的にその課題解決の学習が2段階で行えるよう工夫されるなど、優れている。 ○薬物乱用について、健康や社会への影響、さらに使用の要因と適切な対処について、豊富な資料と課題設定により、具体的に実践するように配慮されている。 ○健康と環境について、保健体育で取り扱う実験・実習の意義に触れられるとともに、照度計を使った測定方法が提案されており、授業に取り入れやすい。	○日常生活等の身近な場面を設定した学習課題や活動の提示、知識や理解を深める課題の提示、また、課題解決型学習の提示など、学習内容を段階的に深める授業が展開しやすく、健康な生活を送るための適切な意思決定や行動選択を行う資質・能力の育成につながっている。 ○照度計を使用した照度測定や心肺蘇生の方法など、具体的な手順を示した資料が掲載されており、実験・実習を授業に取り入れやすく、その結果等をさらに検証したりするなどの問題解決な学習につながっている。
講評		■健康や運動について、現象面だけでなく科学的な内容を取り上げた資料が豊富であるとともに、段階的な学習活動を促すことで、健康な生活、運動やスポーツとの関わりなどを深く理解し、心と体が密接につながっていることの実感につながっている。

5 保健学習について、学習内容の継続性及び系統性を重視し、小学校から高等学校までの学習内容の接続性に配慮されているとともに、単元構成や分量が適切であること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○単元ごとの章扉に、関連する小学校の学習内容と高等学校の学習項目が明記され、また、単元学習で小学校での学習を振り返る学習を随所に盛り込むなど、小・中・高等学校の学習の系統性に配慮されており、優れている。	○単元ごとの章扉や随所に盛り込まれた小学校の学習の振り返り学習等により、新学習指導要領の改訂の趣旨である小・中・高等学校を通じた系統的・継続的な学習を計画的に進めやすい。
講評		■小学校の学習の振り返り学習や高等学校につながる学習が随所に示されているが、中学校での学習内容との関連が明確で、無理のない学習活動が展開できている。

6 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○関連資料が豊富に取り上げられ、随所に設けられた「ポイント」マークで、資料を読み取る視点を示すとともに、読み物資料を効果的に配置することで、生徒の関心や探究意欲を高める工夫がなされている。 ○各ページ下に「保健体育クイズ」を設け、楽しく解いて学ぶことから、発展的な内容へ興味・関心を広げるよう工夫されている。 ○各単元に設定される「生かそう」では、学習したことを自分の生活に生かしたり、さらに調べたりすることで、さらに探究活動や発展的な学習につながるよう工夫されている。	○学習内容に関連した資料や読み物資料が効果的に配置されており、また、「生かそう」では、身近な自分の生活に学習内容を置き換える調べ学習やグループワークなどが提案されており、生徒が意欲をもって協働的・対話的な学習を進めることができている。 ○「保健体育クイズ」は、生徒の学習内容への興味・関心が広がるとともに、学習内容から解答を見付け、さらに思考を深めるうえで効果的で、学習の導入段階で有効に活用されている。
講評		■生徒の興味を引く効果的な資料が適切に配置されており、また、導入・まとめでは、発展的な学習を促す課題が効果的に設定されるなど、探究意欲を引き出す指導の充実につながっている。

7 単元構成の系統性・発展性を踏まえ、体育分野と保健分野の関連を図る工夫がされているとともに、他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「他教科マーク」が随所に設定され、教科相互の関連を図り、系統的・発展的な指導を行うことができるなど、優れた工夫がなされている。 ○各単元に「リンク」が設けられ、保健分野と体育分野の関連性について配慮されている。 ○多様なマークにより、上記以外にも学習に関連した内容が分かりやすく表示されており、優れている。 ○パソコンやインターネットを活用した活動例や情報モラル、地球温暖化や循環型社会等の環境教育、食育等との関連が図られている。 ○スポーツや健康・安全に関わる仕事に就く人からのメッセージや働く人の姿を紹介することで、勤労を重んじる態度を養い、自らの生き方や進路等の生き方探究（キャリア）教育との関連が図られている。	○「他教科マーク」や「リンクマーク」等を活用することで、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、他教科の学習内容との関連性を意識することで、教科を横断した系統的な学習が充実につながっている。
講評		■多様なマークを活用することで、他教科の学習においても健康や安全等が関連していることを意識しながら、目的意識を持って学習を進めることができるようになっている。

8 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○生命の尊重，個人差や個性の尊重，HIVに関する正しい理解等，随所に人権に配慮した記述がされている。 ○自殺やいじめ，ストレス，うつなど中学生にとっても重要な課題である心の健康づくりが重視されている。	○単元「健康や環境」「文化としてのスポーツの意義」などを中心に，人権尊重の精神や道徳性の育成と関連付けた内容が豊富に取り上げられており，人権教育と道徳教育の視点に立った指導に生かすことができている。
講評		■単元における資料等に加え，章末資料に掲載される「異性の尊重」，「性に対する適切な態度や行動の選択」，「心の健康との関連」等，人権尊重の精神や道徳性の育成につながる資料が数多く取り上げられており，人権教育や道徳教育の推進に有効に働いている。

9 表記や表現について，文章や写真，図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え，ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ，見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており，造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○教科書がA B版サイズで，写真や図表が大きく見やすい。また，すべての文字にユニバーサルデザインフォントが使用され，本文は明朝体，キーワードはゴシック体として区別されている。配色やデザインは専門家の校閲を受けるなどユニバーサルデザインに配慮されている。 ○挿絵は，学習事項を的確に表現し，生徒にとって親しみやすいものになっており，また写真を多く用いるなど，見やすくわかりやすい。 ○学習の流れが一目でわかるレイアウトで，キーワードの漢字にはルビが付されるなど，支援が必要な生徒にも配慮されている。 ○再生紙と植物性インクを使用し，造本も丈夫である。	○文字の大きさやフォントも大変すっきりしており，キーワードの漢字などにも適宜ルビが付けられるなど，読みやすさにつながっている。 ○ユニバーサルデザインに配慮されているとともに，学習の流れが一目でわかるレイアウト，淡い色調や文字のわかりやすい区別など，すべての生徒にとって読みやすい。
講評		■文字や表記内容，構成等が見やすく，色調にも配慮されるなど，支援を要する生徒だけでなく，すべての生徒が読みやすく使いやすい。

令和2年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

東京書籍「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

学習のまとまりごとに「目標」「はじめの活動」「まとめの学習」がわかりやすく整理されている。特に「編の導入」では、学習のめあて、小学校の振り返り、他教科との関連が明示されており、見通しを持って学習に取り組みやすく、また、学習内容を活用した活動が提示されるなど段階的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能の内容の確実な習得につながっている。また、随所に考え、判断し、表現することを提案するとともに、その手法や実践例がバランス良く配置されており、思考力・判断力・表現力を高める構成で、言語活動の充実に有効に働いている。各編の技術と社会や環境との関わりについての記述が詳細で、学んだ技術と「環境」「経済」「社会」との関わりが項目別にわかりやすく示されており、また、随所に「環境マーク」を付して環境と暮らしの調和を考えさせるなど、全体を通して、技術と環境との調和や社会との関わりや習得した知識・技能を自分なりに活用する方法を考える学習活動の充実につながっている。

(2) 「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

各編に設定された「評価と活用」に掲載されているワークシート例では、技術の評価と活用の流れをわかりやすく示し、学んだ技術を生活に関連づけながら、どう評価・活用していくのか考えていく構成となっており、主体的な学習姿勢の育成および学習内容の深まりにつながっている。また、資料や図、写真等に加え、各校の地域性や実体に応じた補助資料を追加することで、技術をより身近な問題と捉え、今後の持続可能な未来を築くための技術とそれを適切に活用することの大切さを考える学習活動につながっている。他教科や他校種、他の学習課題等との関連が豊富なうねマークでわかりやすく示されており、カリキュラム・マネジメントの視点からの教科横断的な学びの充実につながっている。

4 令和2年度使用教科書について

生徒目線での学習目標の設定や、生活で得た知識や体験と学習内容の関連付けを図るなど、主体的に学習できるよう工夫されている。全体を通して、技術と社会や環境との関わりについて理解を深める構成となっており、主体的に技術のあり方を考えていくよう促しており、新学習指導要領の改訂の要点である「生活や社会における問題を、既習した4つの内容の技術によって解決する学習活動を振り返らせるなど技術の概念の理解をより深める」にも適している。また、プログラミング教育についても、実生活で活用されている事例を取り入れた学習活動を提案するなどしている。そのため、令和2年度においても、現使用教科書である東京書籍を継続して使用することが適当であると考えられる。

【技術・家庭科（技術分野）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：東京書籍>

1 技術・家庭科（技術分野）の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○学習のまとまりごとに「目標」「はじめの活動」「まとめの活動」が設けられ、基礎的・基本的な知識・技術が習得できるよう工夫されており、目標においては、「～知る、～できる」という生徒目線での表現により、学習を促し、学習の終わりにまとめとなる簡単な活動例を示し、学習の定着を図るなど、優れた工夫がなされている。 ○工具の使用手法や作業手順などの基礎的な技能が、「基礎技能」のページにまとめて掲載されており、生徒が検索しやすく常に繰り返し・振り返りができることで、知識・技能の習得を図っており、優れている。 ○図版・イラスト・写真等が、適切な量と大きさで見やすく配置もされており、視覚的にも学習内容の理解につながるよう配慮されている。特に生物育成では全て写真で手順が示されており、わかりやすい。 ○巻末索引に、基本的な語句が掲載されるとともに、章末ごとのまとめでは大切な用語が一覧にされ、学習の定着を図る工夫がなされている。また、巻末資料にコンピュータの基本操作と各内容の重要用語の解説がされており、生徒の基本的な知識・技能の定着を図るため効果的な構成となっている。 ○プログラムによる計測・制御の学習は、実生活で活用されているシステムの仕組みをなぞらせるような展開で、学習の意義が実感でき、知識の習得が図れるよう工夫されている。	○学習のまとまりごとに「目標」「はじめの活動」「まとめの学習」がわかりやすく整理されている。特に「編の導入」では、学習のめあて、小学校の振り返り、他教科との関連が明示されており、見通しを持って学習に取り組みやすく、また、学習内容を活用した活動が提示されるなど段階的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得につながっている。 ○工具の使用手法や作業手順などの基礎的な技能についてわかりやすくまとめられている「基礎技能」のページを活用して、実習中に生徒が自ら調べ、振り返ることで、技能の定着の深まりにつながっている。 ○各ページに図版や写真、イラスト等が大きく見やすく配置されるとともに、巻末索引及び巻末資料には、基本的な語句が幅広く記載されるなど、知識・技能の定着に有効に働いている。 ○巻末資料にコンピュータの基本操作と重要用語の解説が掲載されているとともに、プログラムによる計測・制御の学習では、実生活で活用されているシステムの仕組みをなぞらせるような展開が示されているなど、実感を伴ったプログラミング学習を通じて、論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成につながっている。
講評		■生徒が見通しをもって段階的に学習できるよう工夫されており、また、特設ページや図版、写真等で学習活動の具体例がわかりやすく示されるなど、知識・技能の定着につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○節の最初に課題が提示されており、生活の中での体験や知識と学習内容を関連付ける動機付けが図られ、問題意識を高める中で「考えてみよう」「話し合ってみよう」などの発問により、思考力・表現力・判断力を高めるための言語活動を促す工夫がされている。 ○各単元の終わりに「評価と活用してみよう」として、使いやすいワークシートが掲載されており、学んだ技術を適切に評価し、生活に結び付けた活用につながるよう工夫されている。 ○技術分野特有の言語である「製図」「回路図」「フローチャート」がバランスよく配置され、作成の仕方や活用例が丁寧に詳しく示されていることで、自分の構想を形にしやすい工夫がなされ、優れている。 ○「技術のてんびん」というマークが示され、章末だけでなく普段の学習の中で学んだことを、自分なりに評価し活用する学習活動を繰り返し行うことで、思考力・判断力・表現力を高める工夫が随所にみられる。 ○題材に合わせた話し合いのテーマや資料が提示され、発表においては制作品発表の実践例を挙げながらレポートやプレゼンテーションにおける手順や留意点が詳細に示されており、言語活動の充実のための工夫が優れている。	○各節のはじめに「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べて見よう」「やってみよう」として、積極的に言語活動を促したり、学んだことを活用した活動が繰り返し提示されており、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。 ○「製図」「作業工程表」「育成計画表」「回路図」「流れ図（フローチャート）」などの技術分野特有の言語に関して、随所に作成方法や活用例を配置することで、自らの作業構想を具現化するための手順を考え、計画的に実行することを促しており、プログラミング教育の視点を踏まえた授業が展開しやすい。 ○題材にあわせた話し合いのテーマや資料が掲載されるとともに、レポートやプレゼンテーションの手順や留意点が紹介されており、言語活動の充実に効果的なものとなっている。
講評		■言語活動の充実を図るため、随所に考え、判断し、表現することを提案するとともに、その手法や実践例がバランス良く配置されており、思考力・判断力・表現力を育成する学習活動に有効に働いている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、創造性を育むものづくりや実践的・体験的な学習活動が充実し、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○設計の場面では、問題解決の基本となるPDCAサイクルの流れを、統一的に示しており、ものづくりをしながら問題解決能力を育成できるよう工夫がなされ、優れている。 ○実習例ではイラストや吹き出しに発問やヒントが添えられ、生徒目線で主体的に実習をしながら、問題解決的な学習を行うための工夫が優れている。 ○内容ごとに工夫された実習例が豊富で、製作工程がすべて示されているため、作業の進め方やポイントなどが明確で生徒が主体的に学習を展開しやすくなっている。 ○「私の工夫」という生徒の工夫例が示されており、ちょっとした工夫から新しいアイデアが生まれることを体感しながら、創意工夫する力が高められるよう工夫されている。 ○「生活に生かそう」という項目が設けられ、学習したことを自分自身の生活の中に生かすための工夫が優れている。	○全体を通して、ものづくりの基本である「課題発見」「設計」「仮製作」「再設計」「製作」「課題解決」の一連の流れが具体的に示されているとともに、イラストや吹き出しに発問のヒントが添えられているなど、ものづくりを通した問題解決な資質・能力の育成につながっている。 ○各作業のポイントや手順を示した実習例が豊富に掲載され、また、視点を変えることで新しいアイデアや工夫に気付く事例などが示されており、主体的な学習を進める上での指針となっている。 ○随所に「生活に生かそう」という項目が配置され、自分の生活にもものづくりの知識・技能を生かす視点が提案されており、学習を振り返りながら、創意工夫する力を高めることにつながっている。
講評		■実践的・体験的な学習につながるよう実習例が豊富に示されており、生徒が自分の生活にもものづくりの知識・技能を生かしながら、主体的に問題解決的な学習を行う授業展開につながっている。

4 社会の変化に対応する視点から、技術と社会や環境との関わりについて理解が深まるよう配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「技術と社会、環境との関わり」について、冒頭「ガイダンス学習」や巻末「学習を終えて」で、持続可能な社会を支える技術の役割が明確に提示され、よりよい未来を築くために技術と環境との調和や社会との関わりを考え、生活を工夫し創造するための配慮が、教科書全編に見られ、優れている。 ○各編末には、学んだ技術と「環境」「経済」「社会」との関わりが項目別にわかりやすく示されており、3つの側面から技術を評価し、活用を考えていく構成で、生徒の理解を深め、自分なりの活用方法を考えやすいよう工夫されており、優れている。 ○各編末「評価と活用」では、設問を評価と活用の分けた工夫されたワークシート例が掲載され、技術の評価と活用の流れがわかりやすく、学習の充実を図るための配慮が優れている。 ○情報に関する技術に関しては、編全体としてプラス面マイナス面を考えていく構成となっており、情報技術の評価と活用の意識を一層高められるよう工夫されている。 ○「環境マーク」が随所に示され、環境と資源、暮らしの調和の視点から技術を考えることができるよう配慮されている。	○各編の「技術と社会との関わり」「技術と環境との関わり」についての記述が詳細で、学んだ技術と「環境」「経済」「社会」との関わりが項目別にわかりやすく示されており、また、随所に「環境マーク」を付して環境と暮らしの調和を考えさせるなど、全体を通して、技術と環境との調和や社会との関わりや習得した知識・技能を自分なりに活用する方法を考える学習活動の充実につながっている。 ○各編に設定された「評価と活用」に掲載されているワークシート例では、技術の評価と活用の流れをわかりやすく示し、学んだ技術を生活に関連づけながら、どう評価・活用するのか考えていく構成となっており、主体的な学習姿勢の育成および学習内容の深まりにつながっている。
講評		■これまでの社会や環境を創造してきた技術の役割について、随所にわかりやすく示されており、今後の持続可能な社会を築くための技術とそれを適切に活用することの大切さを考える学習活動につながっている。

5 安全面・衛生面に対して十分留意できるよう配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○安全上特に気を付けるべき事項が冒頭にまとめて示されており、安全への予測や意識を高めるための配慮がされている。 ○実習において、安全な作業の方法や、事故防止のポイントが見やすい「安全マーク」で示されており、注意喚起の配慮が随所にみられる。また、健康に影響を与えるような作業においては「衛生」マークが重ねて示されるなど、優れている。 ○巻末に「防災手帳」が付録されており、学習したことを生かして防災・減災の意識が高められるよう配慮されている。	○実習での安全な作業の方法や事故防止のポイントを「安全マーク」、健康に影響を与えるような作業には「衛生マーク」が示されており、作業計画を生徒が主体的に考える際の大きな手立てとなっている。 ○附属「防災手帳」は、「防災に備えるには」「住まいの防災」「防災と情報技術」から構成されており、防災学習を進めるうえで有効である。また、本体から切り取れるため、学習が終了した後も携行し、他教科の学習や家庭でも活用しやすく、継続した防災意識の向上につながっている。
講評		■「安全マーク」「衛生マーク」により、実習作業における安全の注意喚起につながっている。また、本冊から分離できる「防災手帳」は、学校生活における防災・減災の取組に生かしやすい。

6 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○ガイダンスで、社会の中でのものづくりが紹介されたり、「技術の匠」では、社会の中で技術を担う人々を豊富に詳しく紹介することを通して、勤労観・職業観の育成が図られるよう工夫されており、優れている。 ○巻末に、技術を人や社会、環境という視点で、様々な職業で働く人々の技術への思いが紹介されており、職業観・勤労観の育成につなげるとともに将来においての関わりを考えるための工夫が優れている。 ○「発展」「資料」マークで、生徒の興味・関心に応じて学習が深められるような内容が豊富に示されるなど、発展的な学習につなげる工夫が優れている。 ○すべてのページ下にQ&Aをバランスよく配置するなど、生徒の知的好奇心を喚起し知識を深めるとともに、探究意欲を高めるための工夫がされている。 ○他社にはない技術の学習を深めるための「技術のとびら」では、内容が整理されてわかりやすく示されており、生徒の興味・関心を高めるとともに、発展的な学習へつながりやすい。	○「技術の匠」や巻末資料では、技術開発やその実用化を担う方々の社会発展・貢献への思いや挑戦、「ガイダンス」では、先人が思い描いた未来実現のための技術開発・発展の系譜がわかりやすく示されており、多くの人々の手によって今の豊かな社会が支えられていることなど、職業観や勤労観の育成につながっている。 ○「発展」「資料」マークや全ページにあるQ&A、特設ページ「技術のとびら」など、習得した知識・技能を再整理したり、さらに発展的な学習につなげるための工夫が随所に設定されており、探究意欲を高める授業が展開しやすい。
講評		■全体を通して、過去から現在、未来へとつながる技術の系譜が系統立てて随所に示されており、より豊かな社会を実現するために技術を探究し、生涯にわたって継続的に学ぼうとする意欲や態度の育成につながっている。

7 題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○ガイダンスから基礎的・基本的な知識・技術、製作・制作・育成、技術の評価・活用までの構成が、全ての内容で系統立てて統一されており、生徒にとっては学習の見通しが立てやすく、指導者にとっても指導しやすく、優れている ○「リンク」「他教科」「道徳」「小学校」マークがそれぞれ豊富に設けられ、他教科、他校種の内容との関連付けが明確でわかりやすく、学習をつなげ、その定着や深まりを図るための工夫が優れている。 ○「環境」「情報モラル」「伝統文化」「防災」「消費者」などのマークが示され、学習内容との結び付けが図られている。	○ガイダンスからはじまり、技術の評価・活用まで、学習の流れが系統立てて統一して整理されており、1年間を通した学習内容の見通しが立てやすく、生徒の意欲を高めている。 ○「リンク」「他教科」「道徳」「小学校」、また、「環境」「情報モラル」「伝統文化」「防災」「消費者」として、他教科や他校種、他の学習課題等との関連がマークでわかりやすく示されており、カリキュラム・マネジメントの視点から教科横断的な学びの充実につながっている。
講評		■学習の見通し、他教科や他の学習課題等との関連を意識しやすい構成で、既習事項の知識・技能を生かし、様々な課題の解決につなげる学習活動が展開しやすい。

8 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○本文にアクセシビリティやユニバーサルデザイン、色覚特性の個人差への配慮に関する記述がされており、人権尊重の視点を持って学習が進められるよう配慮されている。 ○各章のすべてに、他社にはない「道徳」との関連をマークにより示されており、学習者の意識を高め、道徳教育の内容と関連付けた学習ができるよう配慮されている。 ○情報を安全かつ適切に活用する能力を高めるため、図やイラスト、最新資料等を豊富に掲載するなど、情報モラルに関する内容が充実しており、優れている。また、道徳教育との関連も図りながら、学習者の具体的な行動につながるよう工夫されている。	○全体を通して、ユニバーサルデザイン等に配慮されており、また、随所に道徳教育との関連がマークで示されるなど、人権教育や道徳教育の視点を取り入れた授業の充実につながっている。 ○情報モラルに関する図やイラスト、資料等が豊富に掲載されており、インターネットの利便性と危険性への理解を深め、情報を安全かつ適切に活用する能力の育成につながっている。
講評		■人権教育や道徳教育の推進に生かすことができる工夫により、基本的人権の尊重や道徳性の育成の視点をもった指導が展開しやすい。また、情報モラルに関する資料も豊富で、情報と道徳教育との関連を図る中で、生徒の具体的な行動につながっている。

9 表記、表現について、図版の精度や色彩が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○縦B版横A版サイズが使用されており、写真や図表、イラスト等の配置に無理がなく、大きさ・バランスともに見やすく、活用しやすい。また、章ごとに色分けされ、爪見出しは高さを変えているので、実習例と基礎技能がすぐに検索しやすいよう配慮されるなど優れている。 ○丸ゴシック体の振り仮名が使われ、ユニバーサルデザインフォントが採用されるとともに、すべての生徒の色覚特性に適應するように配色やデザインなどユニバーサルデザインに配慮がされている。 ○特別支援教育の視点から、ものづくりの手順などページをめくる方向と同様に読み進めるレイアウトにされている。 ○再生紙、植物性インキを使用し、造本も堅牢である。	○全体を通して、写真や図表、イラスト等の配置が適切である。また、見開き1面で実習の流れが示されるとともに、章ごとの色分け、高さを変えた爪見出しなど活用しやすい。 ○丸ゴシック体の振り仮名が使われるなど、ユニバーサルデザインフォントが採用されているとともに、色覚特性に適應するよう配色やデザインなどユニバーサルデザインにも配慮されており、すべての生徒にとって使いやすい。
講評		■ユニバーサルデザインの使用をはじめ、レイアウト構成も工夫されており、すべての生徒に使いやすい。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

東京書籍 「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

節のタイトルや目標，課題がわかりやすく構成・提示されており，見通しをもって学習に取り組めるとともに，生徒の身近な場面に置き換えた振り返りや重要用語一覧等の語句理解のための工夫等により，主体的な学習活動と確実な知識・技能の習得につながっている。また，学んだ知識等を活用し，自分の思いや気付きを話し合う活動や発表等の言語活動を取り入れた活動例が充実しており，思考力・判断力・表現力の育成を目指した学習に有効に働いている。さらに，よりよい生活や持続可能な社会を構築していくために必要な消費者としての視点が明確に示されているとともに，和服や和食をはじめ，継承されてきた生活文化の価値に気付く工夫も豊富で，自立した消費者として成長するための資質・能力や伝統文化を継承しようとする態度の育成につながっている。

(2) 「選定の観点」別の講評

（別紙のとおり）

3 授業における工夫等について

随所に示された「考えてみよう」や「生活に生かそう」「調べてみよう」では，生徒が学習したことを振り返り，課題を発見し考え，自身の生活に生かせるよう工夫されており，問題解決的な授業展開の充実につながっている。また，多岐にわたる発問や書く活動とともに，既習事項を活用しながら，生活の中の課題を見付け，その解決に向けた計画を立て，協働で実践し，改善するという一連の学習の流れが，図や写真，イラストを用いながら豊富に掲載されており，生徒の思考力・判断力・表現力を育み，さらに発展的に学ぶ動機付けとなっている。キャリア教育，道徳科，総合的な学習等と関連する内容が充実しており，各所に示された他教科との関連を促すリンクマークを活用した，教科横断的な学びの充実につながっている。

4 令和２年度使用教科書について

全体的にバランスよく整理され，生徒にとって学習のイメージが持ちやすく，使いやすい。学習の流れを示し，見通しを持って学習が進められるとともに，確認・振り返り・生活に生かすなどの様々なまとめのパターンが工夫されている。また，基礎技能や用語解説のページの他，実習では手順ごとに写真やイラストを用いて主体的に学べるよう構成されている。よりよい生活や持続可能な社会を構築していくために必要な消費者としての視点が明確に示されており，既習事項を生かしてよりよい生活に向けた問題解決的な学習を進める学びを促しやすく，新学習指導要領で重視されている「消費者教育」「生活の課題と実践」等の学習にも適している。そのため，令和２年度においても，現使用教科書である東京書籍を継続して使用することが適切であると考ええる。

【技術・家庭科（家庭分野）】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：東京書籍>

1 技術・家庭科（家庭分野）の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○節のタイトルは「～しよう」、節の「目標」は「～できる」という生徒の目線で表現されることで、生徒が学習に取り組みやすく、身に付けたい知識や技能がわかりやすい。 ○節の初めに課題を提示し、基礎・基本の知識・技能の習得を図るとともに、学習の見通しをもって学習を進めやすいよう配慮されており、優れている。 ○学習のまとめごとに「学習のまとめ」が設定され、学習の振り返り、学習内容の確認、生活に生かすことなど、様々なパターンでまとめができるよう工夫されており、優れている。 ○実習や生活での実践などに必要な基礎的な技能を「基礎技能ページ」にまとめて、写真やイラストで示すとともに、習得を図るよう、ページ右下の爪見出しで「基礎技能ページ」を検索しやすいように工夫されている。 ○重要用語一覧のページを設け、家庭分野独自の単語の理解を図っている。また、本文中の注釈や語句説明、巻末の索引語句が充実しており、基本的な語句がわかりやすい。	○節のタイトルと目標が生徒目線のわかりやすい言葉で表現されているとともに、課題も提示されていることで、見通しをもって学習に取り組むことができ、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながっている。 ○「学習のまとめ」には、学習内容の確認事項や振り返り活動が提示されているとともに、既習事項で理解が不十分だった場合、どのページに戻って学習すればよいのかが一目でわかるように工夫され、また、習得した知識・技能を生活に生かすための具体的な場面が掲載されるなど、身近な生活場面に置き換えた主体的な振り返り活動が取り入れやすい。 ○「基礎技能ページ」では、写真やイラストで必要な基礎的な技能がまとめられているとともに、「言葉のページ」では、衣食住における家庭分野独特の名称や言い回しなど、よく使われる用語がわかりやすくまとめている。また、注釈や語句説明等も充実しているなど、基本的な語句理解と学習への意欲・関心につなげることができている。
講評		■節のタイトルや目標、課題がわかりやすく構成・提示されており、見通しをもって学習に取り組んでいる。また、生徒の身近な場面に置き換えた振り返りや語句理解のための工夫等により、主体的な学習活動と知識・技能の定着につながっている。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、言語活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○様々な活動方法を促す中で、「考えてみよう」といった思考力・判断力・表現力の育成につなげる活動が多く設定されている。 ○「調べてみよう」「やってみよう」などで、発問の仕方や学習内容が工夫され、まとめて書く学習活動も多く設定されるなど、言語力を伸ばす工夫が優れている。 ○「あくを取る」、「縫い目が飛ぶ」などの家庭分野でよく使われる独自の言い回しや用語の解説のためのページが、巻末に設けられ、言語活動を充実させるための工夫が優れている。 ○話し合いの進め方をガイダンスや選択のコーナーで段階を追って説明し、発表方法ごとにレポート・プレゼンテーション・新聞・ポスターなどの具体例が丁寧に掲載され、取り入れやすい。	○各節の冒頭のページに、「考えてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」等の多岐にわたる発問や学習内容の工夫が提案されるとともに、学習した内容を書いてまとめる活動も充実しているなど、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。 ○衣食住における家庭分野独特の名称や言い回しなど、よく使われる用語をわかりやすくまとめた重要用語一覧や、話し合いや発表について図やイラストを用いて具体的に示した特設ページなどにより、言語活動を取り入れた授業の充実につながっている。
講評		■学んだ知識等を活用し、自分の思いや気付きを話し合う活動や発表等の言語活動を取り入れた活動例が充実しており、思考力・判断力・表現力の育成を目指した学習に有効に働いている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、衣食住などの生活の営みに関する実践的・体験的な学習活動が充実し、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○調理実習例について、実習例と参考例に分けられており、実習目標や調理技術が明示され、組み合わせや配膳例を参考に実習を工夫できるとともに、材料の分量や細かい調理手順が写真で掲載され、生徒が主体的に学ぶことができる。 ○衣生活の実習例が多く掲載され、注意すべきポイントをマークで明記するなど、失敗しやすい部分に気を付けながら、主体的・意欲的に作業ができるよう工夫されている。 ○実習例について、上記に加え、イラストを用いて考えたり、対策を話し合ったりして、よりよい住まい方に結び付くよう工夫されるなど、優れている。 ○キャラクターのセリフや「考えてみよう」などのマークを効果的に使用し、自分の生活を振り返り、課題を発見したり考えたりするきっかけとなるよう工夫されている。 ○「生活に生かそう」という表現を使って、具体的な実践につながる課題を豊富に示しており、家庭での実践につなげやすいよう工夫が優れている。 ○京都にかかわる教材として、西陣織や十二単、京都府の雑煮、町家など衣食住に偏りなく扱い、また、台風による洪水で被害を受けた住宅街の写真を取り上げるなど様々な配慮がなされている。	○調理実習では、実習例と参考例等の題材が充実しており、美しく豊富な写真によって意欲を喚起することにつながっている。また、実習目標や調理技術がわかりやすく明示されるとともに、材料の分量や細かい調理手順が掲載されており、主体的な学習につながっている。 ○衣生活の実習例では、生徒の製作意欲を引き出す活動場面の写真が豊富に掲載されるとともに、注意ポイントがマークで明記されるなど、主体的に作業に取り組んでいる。 ○随所に示された「考えてみよう」や「生活に生かそう」では、生徒が学習したことを振り返り、課題を発見し考え、自身の生活に生かせるよう工夫されており、問題解決的な授業展開の充実につながっている。 ○京都にかかわる題材が豊富に掲載されており、郷土・京都の生活文化を知り、その継承に関して意欲をもって学習に取り組む動機付けとなっている。
講評		■実践的な活動例が豊富に取り入れられており、学習内容を振り返り、生徒自身の生活に生かせるような問題解決的な学習の流れが明確で、主体的な学びの充実につながっている。

4 社会の変化に対応する視点から、主体的に生きる消費者としての態度が育成されるよう工夫されているとともに、和食をはじめ我が国の伝統的な文化についての関心を深めるよう配慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○消費者としての自らの行動を考える問いかけや、環境アクションプラン、江戸時代の着物リサイクルなどを取り上げ、持続可能な社会について考えるための工夫がされている。 ○和服、浴衣の着方とたたみ方、地域に伝わる織と染めなどが紹介され、伝統文化への関心を高める工夫が優れている。 ○だしの取り方、地域の伝統野菜、雑煮、行事食の実習例など、日本の食文化・和食への関心を深める配慮がされている。 ○幼児との触れ合い活動に関して、幼児施設への訪問と中学校へ幼児を招く来訪の両方について、写真を用いて丁寧に実践例が紹介され、どちらの触れ合い活動にも取り組みやすいよう配慮されるなど、優れている。	○随所に「消費者マーク」として消費者教育との関連付けが図られているとともに、日常の消費生活と結びつけて自らの行動を考える問いや身近な事例を取り上げるなど、消費者としての気づきを促すことにつながっている。 ○和服や和食などが豊富に紹介されており、地域に伝わる伝統文化や生活文化を継承することの大切さについて、実感を深めることにつながっている。 ○幼児との触れ合い活動では、地域や学校の実態に応じた活動例が写真を用いて丁寧に紹介されており、生命の温もりや親への感謝につながる活動が充実してきている。
講評		■よりよい生活や持続可能な社会を構築していくために必要な消費者としての視点が明確に示されているとともに、継承されてきた生活文化の価値に気付く工夫も豊富で、自立した消費者として成長するための資質・能力や伝統文化を継承しようとする態度の育成につながっている。

5 安全面・衛生面に対して十分留意できるよう配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○安全・衛生に配慮するマークが必要に応じて付されており、調理実習の際に確認しやすいよう工夫されている。 ○巻頭資料に、手の洗い方や怪我の応急手当の説明があるなど、指導に役立てられる工夫が優れている。	○安全・衛生に配慮するよう注意喚起を促す2種のマークが、安全な実習や実践に効果的で、生徒自身の気づきにもつながっている。 ○巻頭資料の手の洗い方や応急手当は、写真を多用することにより生徒の十分な理解につながっている。
講評		■安全や衛生に配慮した実践的・体験的な学習活動の例が示されており、学校での学習活動はもとより、生徒自身の生活の中で生かしていくことの大切さに気づき、実践を促すことにもつながっている。

6 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○生活の課題と実践の進め方の手順について、一連の学習方法、準備から発表に至るまで豊富な資料を示しており、これまで学習したことを生かして課題解決しやすいよう、内容・構成ともに優れている。 ○身近な家庭生活・社会生活に視点を持たせた内容の資料や実習例、参考例、発展的な学習が詳しく掲載されるなど、生徒の探究意欲を高め、自主的に学習できるよう工夫されている。 ○学習内容に関連した仕事をされている方に焦点を当てた「プロに聞く！」のページが豊富で、生徒の勤労観・職業観を育成する助け・ヒントが優れている。	○既習事項を活用しながら、生活の中の課題を見付け、その解決に向けた計画を立て、協働で実践し、改善するという一連の学習の流れが、図や写真、イラストを用いながら豊富に掲載されており、生徒の探究心を高め、さらに発展的に学ぶ動機付けとなっている。 ○全体を通して豊富に掲載されている「プロに聞く！」は、学習内容と関連させながら授業で活用しやすく、また、巻末「学んだことを社会に生かす」や総合的な学習の時間、道徳教育と関連付けることで、生徒の職業観・勤労観の育成に向けた指導の充実につながっている。
講評		■家庭分野における学習の重点である「生活の課題と実践」が充実しており、探究意欲の向上や生涯にわたって学び続ける態度の育成につながっている。

7 題材構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連について配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○1年生の始めに学習するガイダンスが豊富で、3年間の学習の見通しが持てるなど、充実している。 ○3年間の学習のまとめでは、「25歳の自分への手紙を書く」が設定され、将来に向けたこれからの生活をイメージできるよう工夫されている。 ○学習の最初に、小学校での学習内容との関連を明記し、中学校の学習との系統性・発展性を意識して学習に取り組めるよう工夫されている。 ○リンクマークを付すなど、他教科との関連をわかりやすく示すための工夫が優れている。 ○社会で活躍する人々を「プロに聞く！」というコーナーで取り上げるなど、生き方探究（キャリア）教育につなげている。	○学習の最初に小学校の学習内容が明記されるとともに、ガイダンスが豊富に掲載され、また、3年間の学習の見通しを示すなど、生徒の発達段階を踏まえた系統的・発展的な授業展開の充実につながっている。 ○各所に示されたリンクマークなど他教科との関連がわかりやすく示されており、教科横断的な学びの充実につながっている。 ○「プロに聞く！」をはじめ、生き方探究（キャリア）教育につながるコーナーが、各編の随所に示されるなど、特にキャリア教育と関連付けた授業の充実が図れている。
講評		■家庭分野の学習内容は他教科との関連が図りやすい特徴があり、その強みを生かした教科横断的な学びの充実につながっている。

8 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○家庭や家族の機能の学習において、「家族の一員としての自覚」との関連を示したり、中学生としての自立を考えさせる場面で道徳「役割と責任の自覚」と関連付けたりするなど、道徳教育との関連が優れている。 ○男女共同参画社会基本法、子どもの権利条約や児童憲章などの法律について明記され、男女の人権について考える助けとなる。 ○世界の民族衣装やユニセフの活動を取り上げ、国際理解・国際協調について考える材料としている。	○家族としての自覚、中学生としての自立、その役割と責任を考えさせるなど、「家族愛」「よりよい学校生活」等の道徳教育と関連付けた指導の充実につながっている。 ○男女の権利や人権、ユニセフの活動が紹介されており、基本的人権の尊重、国際理解、国際協調について考えるきっかけとなっている。
講評		■人権教育や道徳教育の推進に生かすことができる題材が取り上げられているため、基本的人権の尊重や道徳性の育成を視点とした指導を展開しやすい。

9 表記、表現について、図版の精度や色彩が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○挿絵は色覚特性に適應するようにデザインされ、実習例の写真は鮮明で大きく、野菜や幼児の靴等が原寸大で掲載されている。また、囲みやマークの種類が多く、衣生活の製作ページの下方にものさしが印刷されるなど、視覚的にわかりやすく優れている。 ○字体や色使いなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。 ○章ごとに色分けされ、爪見出しは高さを変えているので、実習例と基礎技能を検索しやすい。 ○製作過程の表記が横の流れで統一され、支援の必要な生徒も対応しやすいよう配慮されている。 ○再生紙、植物油インキを使用し、造本も適切である。	○ユニバーサルデザインが使用されており、また、色覚特性に適應するよう全ページにわたって配色およびデザインの配慮がされ、視覚的に見やすく、すべての生徒にとって学習内容の理解に役に立っている。 ○編、章、実習例、基礎ページの爪を右ページの小口に設けており、教科書の側面から見るとそれぞれの学習のまとまりと基礎技能や実習例のページの位置が分かりやすく、繰り返し学習することが容易になっている。 ○実習例を横の流れで統一させており、支援の必要な生徒にも読みやすく見てわかりやすい。
講評		■ユニバーサルデザインの使用、色覚特性への適應等、すべての生徒にとって使いやすい。また、爪見出しの高さを変えるなど学習の検索や繰り返し学習にも配慮されている。

令和２年度使用中学校・義務教育学校（後期課程）教科書の選定にかかる調査研究資料

1 現在使用教科書

東京書籍「NEW HORIZON English Course」

2 教科書使用の実感等について

(1) 概要

各単元において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の各技能に関する学習活動がバランスよく取り入れられており、４技能を総合的に育成するための指導の充実につながっている。特に、各学年に３回設定されている複数の技能領域を統合的に活用する小単元では、英文のトピックから情報等を把握し、自分の考えを整理・再構築したうえで、発表・伝え合うという活動が提案されており、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。また、ペア活動やグループ活動等の課題では、社会的な題材も取り上げられており、外国語教育において求められる「学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を結びつける学び」の実現に向けた単元構想・授業展開につながっている。さらに、多彩な題材・トピックを用いて、実際の使用場面を想定した言語活動が豊富に設定されており、習得した言語材料を活用しながら、即興で考え、判断し、表現する言語活動の充実につながっている。

(2)「選定の観点」別の講評

別紙のとおり

3 授業における工夫等について

単元など内容や時間のまとまりを見通して、終末に生徒にとって身近な内容を題材としたパフォーマンス課題等が設定されていることで、ペア活動やグループ活動が取り入れやすく、また、生徒が自分自身の生き方と照らし合わせながら、主体的に発信する言語活動に取り組むことができている。また、単元の題材として扱う国やトピックを、他の単元でも別の側面から扱うことで、より発展的な学習へとつなげることができている。さらに、小学校外国語活動における使用教材を活用することで、小学校で慣れ親しんだ語彙、表現等を繰り返し使用するなど、中学校で取り組む言語活動へ円滑に接続できるよう工夫している。

4 令和２年度使用教科書について

学びの見通しを持たせて粘り強く取り組ませるため「CAN-DO リスト」と関連付けた言語活動が豊富に設定されており、複数領域を統合的に活用した言語活動による思考力・判断力・表現力等の育成の面で優れている。また、新学習指導要領で求められる資質・能力の育成に向け、各単元において「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の各技能に関する学習活動がバランスよく取り入れられ、かつ生徒にとってわかりやすく工夫されており、４技能を総合的に育成するための指導の充実につながっている。そのため、令和２年度においても、現行教科書である東京書籍を継続して使用することが適切であると考ええる。

【外国語科】教科書の選定にかかる観点別資料 <使用教科書：東京書籍>

1 外国語科の目標を達成するために、基礎的・基本的な知識・技能等の内容の確実な習得を図るための工夫・配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○各単元の流れが、「聞く・話す」「読む」「表現活動」と順序立てて学習事項がまとめられ、また、簡潔でわかりやすい基本文及び解説文で配列されるなどの工夫が優れている。 ○単元の始まりに目標が明示され、「まとめと練習」で文法事項を整理できるように構成されるなど、基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得を図るための工夫が優れている。 ○単元の最初のページに「Can-Do リスト」に対応した目標が明確に提示され、学習の見通しを持ちやすく、優れている。	○各単元において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の各技能に関する学習活動がバランスよく取り入れられており、4技能を総合的に育成するための指導の充実につながっている。 ○各単元の最初のページに「CAN-DO リスト」に対応した目標が明示されており、生徒にとってわかりやすく、見通しを持った主体的な学びにつながっている。また「まとめと練習」で習得した言語材料を整理することで、基礎的・基本的な知識・技能等の習得に結びついている。
講評		■4技能5領域の言語活動が言語材料と関連付けられた形で取り上げられており、実際の活用場面を想定した言語活動を通して、言語材料の着実な習得・活用につながっている。また、「CAN-DO リスト」に対応した目標が明示されていることで、パフォーマンス課題も設定しやすい。

2 思考力・判断力・表現力等を育成し、幅広い表現活動の充実を図るための配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○既習事項を活用して、英語で表現する小単元では、話すことをはじめ、4技能をバランスよく育むための工夫がなされている。 ○単元ごとに、日常的な場面設定による実践的コミュニケーション活動が用意され、対話のコツなどを紹介することで、表現力を高めるための工夫が優れている。 ○「自分の夢を語る」など、各学年に3回、4技能を統合した活動により自己表現力を高めるための小単元が用意されるなど、表現活動が充実している。	○単元ごとに設定されている実践的コミュニケーション活動によって、目的・場面・状況を意識した言語活動の充実が図れており、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた学びへとつながっている。 ○各学年に3回設定されている複数の技能領域を統合的に活用する小単元では、トピックについての英文を読み、その情報等を把握し、自分の考えを整理・再構築し、発表・伝え合うという活動が提案されており、思考力・判断力・表現力の育成につながっている。
講評		■実際に起こり得る場面を想定しながら、複数の技能領域を統合的に活用する活動が積極的に取り上げられており、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた実践的なコミュニケーション活動へとつながっている。

3 生徒が意欲的・主体的に学ぶことができるよう、問題解決的な学習活動が展開しやすいこと。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○ペア活動やグループ活動を通して、友人から聞いた情報をまとめる課題が設定されるなど、問題解決的な学習の展開が図れるよう工夫されている。 ○辞書の引き方や辞書を活用した活動を1年から2年にかけて複数設定するとともに、各学年に発音記号や音の変化、文の読み方、文章の書き方が丁寧に説明され、主体的に学習するためのヒントになっている。 ○自分好みの自由な旅の予定表を英語で作成する書き込み欄が設けられるなど、主体的に学習を進めるための工夫が充実している。 ○修学旅行で、金閣寺、竜安寺、清水寺を訪れたことが、挿絵とともに題材に取り上げられ、生徒にとって身近に感じられる。	○ペア活動やグループ活動等の課題では、社会的な題材も取り上げられており、題材を読み取らせるだけでなく、題材を通して問題意識を持ち、その解決に向けて考え、表現するパフォーマンス課題などの言語活動が充実している。 ○生徒にとって身近な題材や自由な旅の創作などが取り上げられており、生徒の興味・関心を高めることで、主体的な学習が促されている。 ○1年生・2年生で設定された辞書の引き方や辞書を活用した活動が、自学自習を促している。 ○発音記号や音の変化、文の読み方、書き方等の丁寧な説明に加え、巻末のカテゴリー別の語彙一覧が、「話すこと（発表）」「書くこと」の言語活動の際、主体的な学習を行う手立てとなっている。
講評		■問題解決に向けて考え、表現する題材において、「話すこと（発表）」「書くこと」の言語活動が充実しており、外国語教育において求められる「学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を結びつける学び」の実現に向けた単元構想・授業展開につながっている。

4 学習の深まりを目指すスパイラルな指導に加え、英語を使用したコミュニケーションを図る場面設定等、活用することを通して定着を図るための言語活動の充実並びに発展的な学習に向けた工夫がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○身近な場で使える語句一覧の掲載や、実際の使用場面を想定した言語活動の設定など、その場で考えながら話すことを重視し、表現力を高めるための工夫が優れている。 ○自分の学校生活を紹介する活動や、自らテーマを設定してプレゼンテーションする活動など、言語活動の場が豊富に設定されている。 ○練習問題のバリエーションが豊富で、語や文法事項の言語材料が繰り返し取り扱われるなど、スパイラルな指導ができるよう配慮されている。また、3年間を通して、同じ国・テーマを、別の側面からスパイラルに扱うことで、生徒の興味・関心を高め、発展的な学習につなげる工夫がなされている。	○習得から活用への流れを繰り返す中で言語材料が定着するよう、実際の使用場面を想定した言語活動が充実しており、即興で考えながら話すことにつながっている ○学校生活や夢、修学旅行、日本文化等、様々なトピックでプレゼンテーションを行う単元が設定されており、既習事項を活用した言語活動が充実している。 ○習得した言語材料を後の単元でも複数回にわたって扱うスパイラルな構成で、中学校3年間を通して、言語材料の確実な習得と深まりに有効に働いている。また、単元の題材として扱う国やトピックを、他の単元でも別の側面から扱うことで、より発展的な学習へとつなげることができている。
講評		■多彩な題材・トピックを用いて、実際の使用場面を想定した言語活動が豊富に設定されており、習得した言語材料を活用しながら、即興で考え、判断し、表現する言語活動の充実につながっている。

5 国際社会において相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる力を育成する観点から、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の習得を図るための工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○「Daily Scene」では、「食事の会話」「道案内」「電話の会話」など、3年間を通して、言語の働きや使用場面が明確に示され、日常生活で使える表現が、実写とセリフを通して習得しやすいようよく工夫され、優れている。 ○今日的課題や、生徒の興味・関心を引く題材として、「イギリスの本」「アメリカでのホームステイ」などを取り上げ、国際理解を深めるための工夫がなされている。 ○テーマ別の自己表現活動が設定され、語句や文法等の既習事項と4技能を活用して自分の言葉で発信する練習ができるよう工夫がなされている。	○日常生活で使える表現が実写とセリフを通して習得できるよう工夫されており、自分の日常生活にあてはめながら、より実践的なコミュニケーション活動に取り組むことができるため、外国語能力の基礎やコミュニケーション能力の習得につながっている。 ○登場人物の出身国や背景、各単元で取り上げている題材等が、国際理解や今日的課題と結びつけた学習につながっている。
講評		■実践的なコミュニケーション活動によって、外国語能力の基礎やコミュニケーション能力の習得につながっているとともに、登場人物や題材について英語文化圏以外の地域からも取り上げることで、日本とは異なる言語・文化・社会に対する理解や共感を深めることができている。

6 生涯にわたって学び続ける態度を育めるよう、探究意欲を高める工夫や、学んだことを活用して、さらに発展的な学習につながるよう考慮されていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○アマゾンの自然から環境問題について英語でまとめる課題や、ALTや海外の友人との出会いから国内の国際化を調べる課題を設けるなど、生徒の興味・関心を高め、さらに探究活動につなげる工夫が優れている。 ○ペアやグループでの協同学習を積極的に取り上げ、意見交換や発表などお互いを高め合う活動を通して表現力を高められるよう工夫されている。 ○さらに詳しい情報を尋ね合うなど、探究意欲や発展的な学習につなげるよう工夫がなされている。	○環境問題や経済格差など、持続可能な開発目標（SDGs）にも関連する題材や、ロボットやユニバーサルデザインに関連する題材など、中学校卒業後も課題意識を持って取り組める題材が設定されており、生涯にわたって課題意識を持って学び続ける意欲や態度の育成へつなげることができている。 ○「話すこと（発表）」や「書くこと」で発信された内容をもとに、さらに詳しい情報や意見を尋ね合ったり伝え合ったりする「話すこと（やりとり）」に進むなど、発展的な学習につながるよう考慮されている。
講評		■身近な話題や生徒が興味関心を持ちやすい話題を単元の導入段階で設定し、後半部分では単元終了後も問題意識を持続させることができるような題材を取り入れることで、学び続ける意欲や態度の育成とともに、カリキュラム・マネジメントの視点による教科横断的な学び、さらに発展的な学習に有効に働いている。

7 単元構成の系統性・発展性や他教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、他校種、また、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連に配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○1学年の冒頭に、2つの入門パートが設定され、小学校外国語活動で慣れ親しんだ英語を学ぶ「楽しさ」を引き継ぎ、中学校での学習に系統的につなげるよう工夫されている。 ○人物伝などの多様な題材を取り上げ、他教科をはじめ、環境、防災・安全など多くの教育課題との関連が図られている。	○1年生の冒頭に設定されている2つのパートにより、小学校外国語活動で学んだ内容と関連付けた指導が可能となっており、小学校で慣れ親しんだ語彙、表現を繰り返し使用し、中学校での言語活動、特に「書くこと」の活動へとつながっている。 ○人物伝など他教科等で学習する内容と関連付けられる題材が多く、環境教育や安全教育、生き方探究教育等の教育課題との関連も図られている。
講評		■小学校外国語活動で学んだ言語材料が、1年生の冒頭に関連付けて配置されており、小学校で重視している「聞くこと」「話すこと」の活動から「読むこと」「書くこと」の活動への接続が円滑である。また、様々な教育課題を題材として取り上げており、カリキュラム・マネジメントの視点からの教科横断的な学習が可能となっている。

8 基本的人権の尊重及び道徳性の育成の視点からの内容が積極的に取り上げられ、人権教育や道徳教育の推進に向けて工夫や配慮がされていること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○ノーベル平和賞の受賞者の紹介や「世界の友達の好きなこと、ものを知ろう」など、国際貢献や異文化尊重などの心情と態度を養うよう題材が配慮されている。 ○2学年の「The Carpenters Gift」では、自己の確立や他者との関わりを通して、生徒の心情に訴える読み物教材を取り上げるなど、豊かな情操と道徳心を養うよう配慮されている。	○単元の題材として、ノーベル平和賞受賞者や貧困問題の解決に向けた国際協調等の平和・国際貢献の精神の涵養につながる内容が取り上げられ、また、読み物教材では、核廃絶や地球温暖化等の人権教育や道徳教育に関連する題材が取り上げられており、他者に配慮し、受け入れる寛容の精神の育成や多面的思考の育成につながっている。
講評		■外国語科の「国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献すること」「寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てること」に結びつく題材が取り上げられており、人権教育や道徳教育と関連付けた授業づくりにつながっている。

9 表記や表現について、文章や写真、図表等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成などについて配慮がされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。

	平成27年度採択時の調査研究	4年間の使用実績に基づく見解、課題等
特徴	○A B版で幅が広く、行間や字間にゆとりがあり書き込みやすい。また、豊富なイラスト、写真、図版を効果的に掲載するなど、優れている。 ○学習要素を毎回定位置に示すことで、学習の流れが一目でわかるよう工夫されている。 ○支援の必要な生徒をはじめ、すべての生徒の色覚特性に適應するよう研究者による検証を行うなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。 ○再生紙や植物油インキを使用し、造本も堅牢である。	○A B版で幅が広い利点を生かし、言語材料の習得につながる「書く」活動が行いやすく、余白も多いため、学んだことを自由にメモできるなど、教科書を活用した学習活動の幅が広がっている。 ○ユニバーサルデザインを採用し、字体、色彩、レイアウト、学習要素の配置等が工夫されており、すべての生徒にとってわかりやすく使いやすい。 ○1年生では大文字・小文字が独自に作成したゴシック系書体を用いており、「読むこと」「書くこと」に課題がある生徒も安心して学習に取り組んでいる。
講評		■A B版のレイアウトは、特に言語材料を習得したり、自分の意見を表現したりするために「書く」活動に取り組みやすく、直接書き込めることで家庭学習での教科書の活用にもつながっている。ユニバーサルデザインの使用、1年生での文字の読みやすさなど、すべての生徒にとって使いやすい。